母袋俊也
Toshiya MOTAI

母袋俊也　絵画　マトリックス

1987～2018　M1－M600

MOTAI Toshiya MALEREI　MATRIX
1987－2018　M1－M600

●抄録

目次

「母袋俊也　絵画　1987－2018　マトリックス　1987－2018　M1－M600」

1．絵画　1987－2018　インスタレーションビュー

2．制作･理論研究　概念図　マトリックス

3．絵画　カテゴリー
3-1　カテゴリー
3-2　カテゴリー　相関
3-3　〈TA〉系、〈奇数連結〉、〈バーティカル〉、〈Qf〉系、〈Himmel Bild〉

4．絵画　年表・クロノロジー

5．絵画　レゾネM1－M600　1987－2018

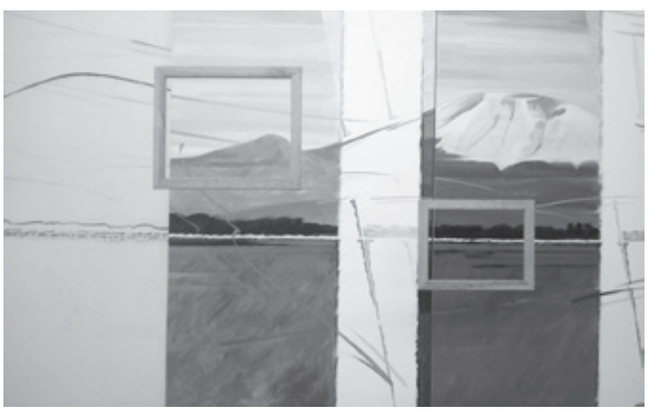
6．フォーマートレゾネ　M1－M600　1987－2018

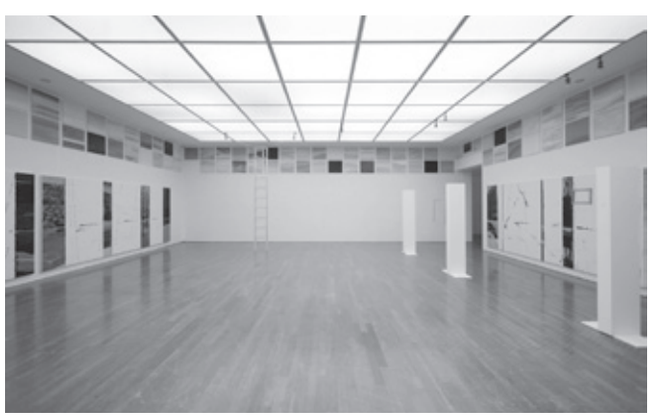
7．絵画　作品データ

8．対談　金井直×母袋俊也
8-1　母袋俊也レクチャー＋対談　信州大学人文学部　2016年1月28日（木）
8-2　金井直レクチャー＋対談　東京造形大学　2018年11月14日（水）

9．略歴
9-1　展覧会
9-2　自筆文献
9-3　レクチャー・シンポジウム

1．絵画　1987－2018　インスタレーションビュー





母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

２．制作・理論研究　概念図　マトリックス

テーマ：「絵画におけるフォーマートと精神性」の相関をテーマに制作、理論の両面から探究。

制作展開：ドイツ留学中の1986年、複数パネルを連結する絵画形式の着想を得る。

86年の一時帰国の際、京都で入手した蛇腹式の写経本をドイツに持ち帰り水彩による〈紙屏風〉シリーズを手がけ、87年には4枚組、横長フォーマートの《神話の墓B　No.2》を制作。本作品を第１作として、フォーマート（画面の縦横比･サイズ）と精神性の相関をメインテーマとする制作の展開が始まる。

87年に帰国後、日本障屏画と西洋祭壇画における偶数組／奇数組の構造比較研究を通して立川のアトリエ（1988～95）で制作した偶数連結、余白、非中心性、横長フォーマートの特徴を備えた作品群を、95年のアトリエの藤野への移設を契機に〈TA〉（TAchikawa）系と命名する。また横長の〈TA〉系に対して、縦長フォーマート作品群〈バーティカル〉が断続的に制作される。

〈TA〉系絵画は、99年以降制作される外界の光景をさまざまなフォーマートの窓によって切り取る視覚体験装置〈絵画のための見晴らし小屋〉と連関しながら展開されていく。

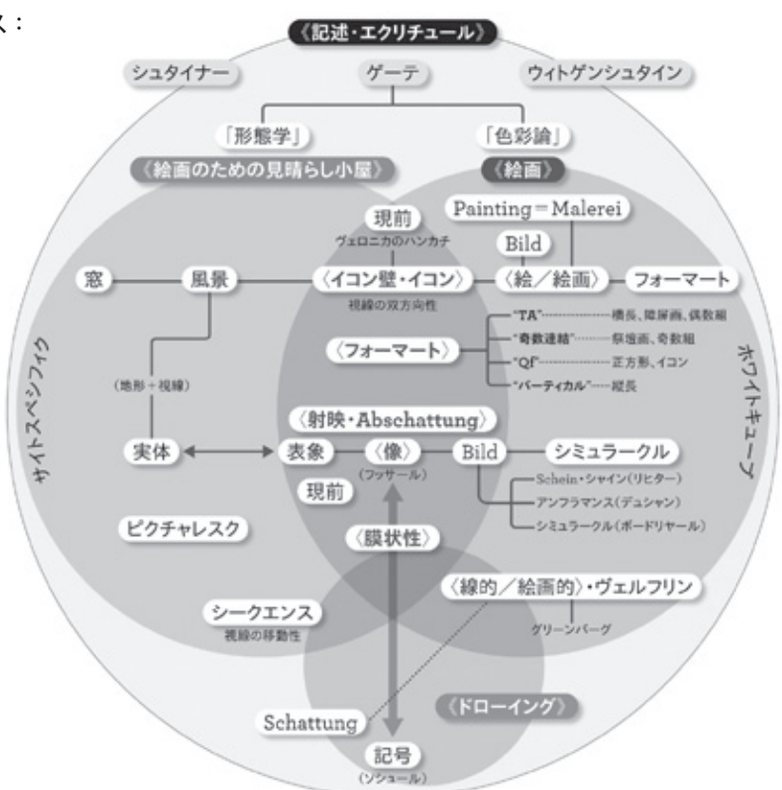
95年ウィーンのシュテファン大聖堂での視覚体験を経て、非中心性の〈TA〉系と対峙的に中心性を有す作品群〈奇数連結〉の制作が開始される。

2001年からは〈奇数連結〉〈バーティカル〉を継承するかたちで、水平にも垂直にも中心性を持つ正方形フォーマートにイコン、阿弥陀如来の掌をモデルとし、余白を持たず色彩と筆致が仮想の立方体空間内に充満する〈Qf〉系作品の制作を開始し､09年には仮想の立方体空間の実体化として〈Qfキューブ〉を試作する。また09年以降は支持体を90㎝角の板と限定し側面の削りだしによって「膜状性」の現出化、「像・Bild」の「現出の場」の現前化の方法を模索している。

また2013年からは同一フォーマートに空を描く〈Himmel Bild〉が新たなシリーズとしてすすめている。

キーワード：〈絵画／フォーマート〉〈偶数連結：日本障屏画／奇数連結：西洋祭壇画〉〈絵画／絵画のための見晴らし小屋〉〈絵画／枠／窓〉〈像・Bild〉〈像／膜状性〉〈イコン―視線の双方向性〉〈枠／窓〉〈現出する像・絵画の位置〉

概念図　マトリックス：



3．絵画　カテゴリー

3−1　カテゴリー

複数パネル	〈TA〉系	〈奇数連結〉	
単体	〈バーティカル〉	〈Qf〉系	〈Himmel Bild〉

3−2　カテゴリー　相関

3−3　〈TA〉系、〈奇数連結〉、〈バーティカル〉、〈Qf〉系、〈Himmel Bild〉

複数パネル様式

〈TA〉系

ドイツ留学からの帰国後、日本障屏画のフォーマート研究を通じて、偶数連結ゆえの非中心性の特質に注目、当時アトリエのあった立川で、横長フォーマート、偶数組の多くの作品を制作する。それらの作品群は、

M151

基地跡をのこし地平線が低く、水平に永遠に続くかのような立川の風景のもとで描いた、偶数連結、横長フォーマート、余白と色柱の反復という特徴を備え、山間の藤野へのアトリエ移設を契機に立川(TAchikawa)にちなみ、タイトルを〈TA〉と付ける。99年以降、さまざまなフォーマートの窓で風景を切り取る〈絵画のための見晴らし小屋〉シリーズの制作を始め、〈TA〉系作品は風景との関係を更に深めながら展開している。

〈奇数連結〉

95年の藤野へのアトリエ移設によって、非水平性で断片的風景を目にする機会が増える。加えてウィーンのアカデミーでのレクチャー、シュテファン大聖堂での視覚体験が、祭壇画をモデルに中心性のある奇数連結での制作を促し、〈TA〉系とは対時的な展開を試みていく。98年にはグリューネヴァルトの磔刑図を取材、〈ta・KK・ei〉が制作される。

M260

単体

〈バーティカル〉

当初、縦長フォーマートは、〈TA〉系が障屏画をモデルにしたのに対して、掛け軸をモデルとして設定し、制作を試みた。垂直性のなかに高い精神性を見出す滝、聖堂内の建築空間などをモデルに断続的にすすめられている。また〈絵画のための見晴らし小屋〉系作品とも連動し制作している。

M19

〈Qf〉系

2001年、磔刑をモデルとした絵画を、正方形フォーマートで制作する。以降、〈奇数連結〉〈バーティカル〉の中心性の試みは、水平にも垂直にも中心性を持つ正方形フォーマートをフィールドに継承されていく。

ルブリョーフのイコン、阿弥陀如来の掌をモデルとし、余白を排し色彩と筆致が仮想の立方体空間内に充満する〈Qf〉系作品の制作を開始し、2009年には仮想の立方体空間の実体化として〈Qfキューブ〉を試作する。また2009年以降は支持体を90cm角の板と限定し、側面の削りだしによって「膜状性」の現出化、「像・Bild」の「現出の場」の現前化方法を模索している。

M360

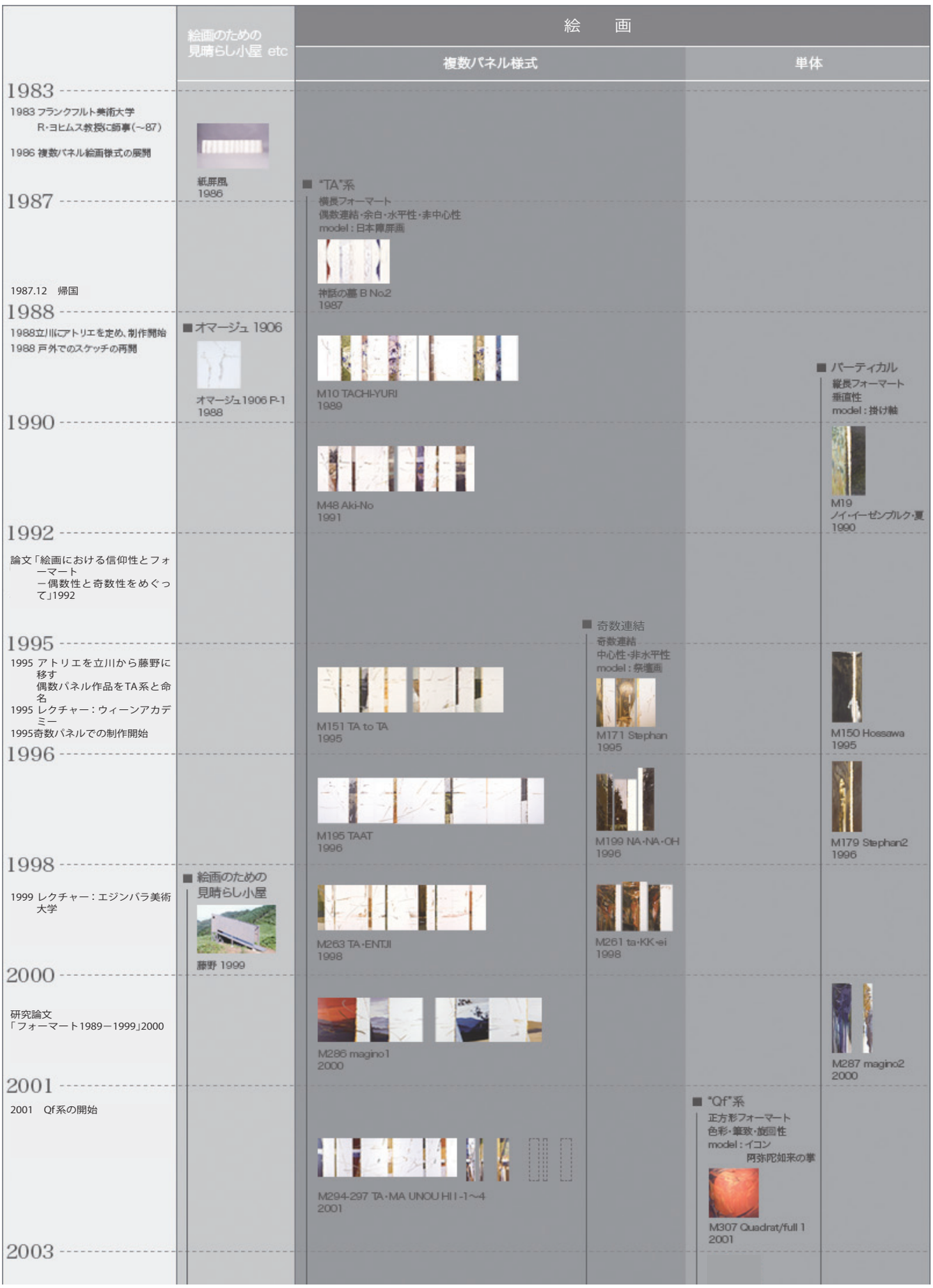
〈Himmel Bild〉

2013年から同一フォーマート(43.5×53cm)に空を油彩で描く〈Himmel Bild〉が新たなシリーズとしてすすめられている。実体ではなく大気と光の現象として色彩を現す「空」をモチーフに、パレット上で色材の混合として生じている現象をそのまま画面に定着。展示の際は壁面上部に設置される。

M488

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987〜2018　M1−M600

4．絵画　年表・クロノロジー



2003

妻有 2003

M334 Qf・SHOH(掌)2
2003

M337 Qf・SHOH 220
2003

2004

M338 TA・TSUMAALI
2004

M339 Tsumari 1
2004

2005

研究論文「絵画のための見晴らし小屋」2005
論文「絵画の内側からみたゲーテ色彩論　ー実作者による色彩試論」2005

M350 Qf・SHOH 150-4
2005

M360 Qf・SHOH 160
2005

2006

荒神山 2006

M362 TA・KOHJINYAMA
2006

2007

研究論文「風景・窓・絵画ーアーティストの視点から　母袋俊也の試み」

2008

M398 Qf・SHOH
＜掌＞90・H0lz-1

M378 Kyobashi 1
2008

2009

レクチャー：復旦大学（上海）

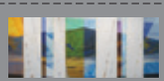
Qf・SHOH＜掌＞
90・H0lz-3
Qfキューブ90 09.1
2009

2010

研究論文
「絵画　マトリックス 1987-2010」

「絵画のための見晴らし小屋」再生プロジェクト

2011


M436 TA・TARO 2

2012

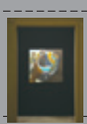
絵画のための垂直箱窓，青梅

M445
Stephan 2012
2012

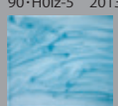
2013

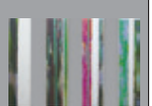
Himmel Bildの開始

絵画のための垂直箱窓，FUKUSHIMA


M450
Qf・SHOH＜掌＞
90・H0lz-5　2013

仮構・絵画のための見晴らし小屋
KOMORO


M451 Himmel Bild 1
2013


M446～449
V・Misogihagi 1～4
（M83 OP～M87 OP）

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

2014

研究論文
「コレクション×母袋俊也　世界の切り取り方」

枠窓　2014

壁画ドローイング
2014

M503 TA・KO MO RO　2014

M505 TA・ASAM　2014

M497 Qf SHOH《掌》
90・HOlz-10　2014

M502 Qf SHOH《掌》
90・HOlz-15　2014

2015

ヤコブの梯子・青梅
2015

ヤコブの梯子・藤野
2015

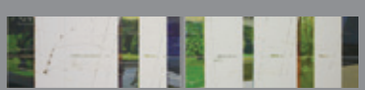
2016

研究論文「絵画《TA・KO MO RO》《仮構・見晴らし小屋KOMORO》」

ポートフォリオ「現出の場」2016

2017

書籍『絵画のための見晴らし小屋』
研究論文「絵画のための見晴らし小屋　1999〜2017」


M566 TA・Koiga-Kubo　2017

M575 HimmmelBild
101etc　2017

2018

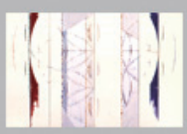
研究報別冊「母袋俊也　著述集1990〜2017」
書籍『母袋俊也　絵画』

〈Qfキューブ〉

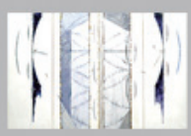
2019

書籍『〈絵画へ〉　美術論集1990－2018』
研究論文「絵画・マトリックス1990－2018」
研究報別冊「〈Qf〉源泉と展開2001－2018」

5．絵画　レゾネM1～M600　1987－2018



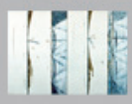
M.1　神話の墓 B No.2
95x144cm（4Panels）



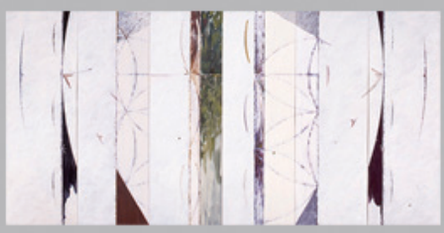
M.2　神話の墓 B No.3
95x144cm（3Panels）

M.3　神話の墓 B No.4
47x76cm（2Panels）

M.4　Untitled
85x18.5cm



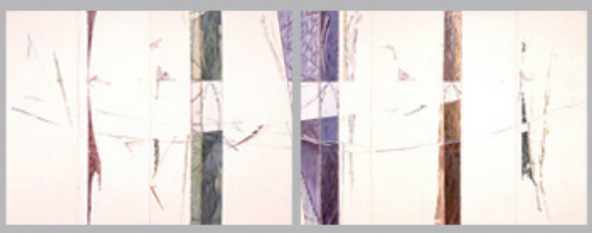
M.5　神話の墓 B No.5
70x100cm（2Panels）



M.6　神話の墓 B No.6
180x360cm（6Panels）

M.7　神話の墓 B No.8
75x126cm（4Panels）

M.8　神話の墓 B No.7
65x170cm（2Panels）



M.9　まだまだ遠くに居る人に
182.5x486cm（8Panels）

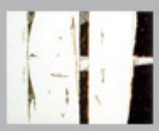
M.10　TACHI-YURI
91.5x387cm（12Panels）

M.11　トスカーナ・Toscana
62.5x137.5cm（6Panels）

M.12　テル・エル・アマーナ・Tell el Amarna
62.5x137.5cm（6Panels）

M.13　Shuso
62.5x188cm（8Panels）

M.14　スーズダール・Suzudal
91.5x257cm（8Panels）

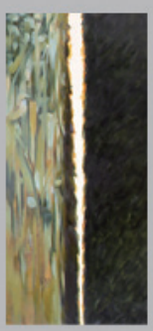


M.15　水府・Suifu II a
91.5x120cm

M.16　水府・Suifu II b
91.5x122cm（2Panels）

M.17　水府・Suifu
110x160cm（4Panels）

M.18　Untitled a~d
each60x45.5cm



M.19　ノイ・イーゼンブルク・夏・
New-Isenburg Summer
260.5x120.5cm

M.20　Untitled
170x77cm（2Panels）

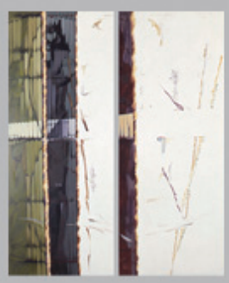
M.21　ウナスへの参道・Approach to Unas
260.5x245cm（2Panels）

M.22　Untitled
120x32.5cm（2Panels）

M.23　葦舟・Ashifune
31.5x58cm（2Panels）

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

M.24 テイ・マスタバ・Ti-mastaba
240×244cm (2Panels)



M.25 ミケリノス・Mykerinos
220×190cm (2Panels)

M.26 am N i l
182.5×391cm (6Panels)

M.27 月夕・Gesseki
110×27cm (2Panels)

M.28 Untitled a~d
each60×45.5cm

M.29 葦舟 No.2・Ashifune No.2
31.5×58cm (2Panels)

M.30 im Waldchen.
210×45cm

M.31 Azuki for M.R.No.1
46×61cm (2Panels)

M.32 Azuki for M.R.No.2
46×61cm (2Panels)

M.33 Azuki for M.R.No.3
46×61cm (2Panels)

M.34 Untitled
18×13cm

M.35 Untitled
18×13cm

M.36 Untitled
91.5×27.5cm

M.37 im Waldchen No.2
25×17.5cm

M.38 im Waldchen No.3
25×17.5cm

M.39 Aziki for M.R.No.4
60×84cm

M.40 Shuso No.2
25×35cm (2Panels)

M.41 Untitled
160×45cm (2Panels)

M.42 Untitled
18×13cm

M.43 Untitled
18×13cm

M.44 Untitled
18×13cm

M.45 Untitled
18×13cm

M.46 Untitled
18×13cm

M.47 Untitled
18×13cm

M.48 Aki-No
160×524cm (8Panels)

M.49 Naguri No.1
183×111.5cm

M.50 Aziki for M.R.No.5
140×280cm (2Panels)

M.51 Naguri No.2
120×240cm (4Panels)

M.52 Shuso No.3.a
120×270cm (6Panels)

M.53 Shuso No.3.b
120×270cm (2Panels)

M.54 Ti
160×280.5cm (4Panels)

M.55 月夕・Gesseki No.2
170×75cm (2Panels)

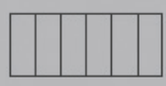
M.56 Untitled
70×56cm (2Panels)

M.57 Untitled
70×56cm

M.58 im Waidchen No.4 Oktober
120×15cm

M.59 Untitled
70×112cm (2Panels)

M.60 im Waidchen No.5 November
160×44cm (2Panels)



M.61 Koigakubo
53×129.5cm (6Panels)

M.62 P.C.
182.5×280.5cm (4Panels)

M.63 figure 1 a
160×89cm (2Panels)

M.64 figure 1 b
160×89cm (2Panels)

M.65 figure 1 c
160×89cm (2Panels)

M.66 figure 1 d
160×89cm (2Panels)

M.67 P.M.
160×220cm (4Panels)

M.68 figure 2 a

M.69 figure 2 b
50×40cm

M.70 figure 2 c
50×40cm

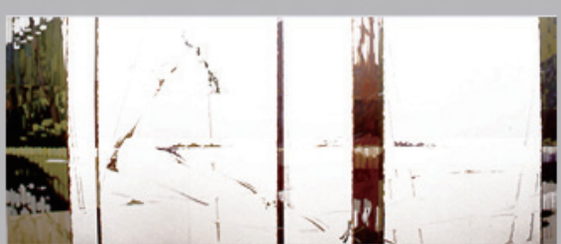
M.71 figure 2 d
50×40cm

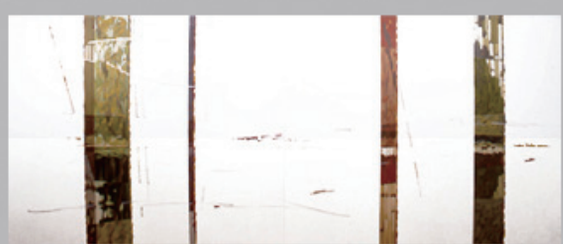
M.72 figure 2 e
50×40cm

M.73 figure 2 f
50×40cm

M.74 Koigakubo No.2 a
45.5×88cm (4Panels)

M.75 Koigakubo No.2 b
45.5×88cm (4Panels)

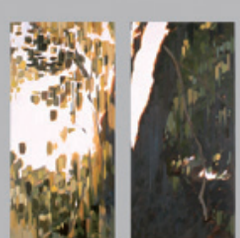




M.76 Koiga-Kubo
182.5×890cm (12Panels)

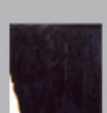
M.77 Wolga a
160×260cm (2Panels)

M.78 Wolga b
160×260cm (2Panels)



M.79 Tief im Wald No,1
180×188cm (2Panels)

M.82~88 Tief im Wald No,2 a~g
each180×45cm



M.89 Untitled
80×80cm

M.90 Tief im Wald No,3 a
60×60cm

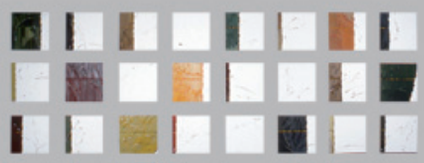
M.91 Tief im Wald No,3 b
60×60cm

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

M.94 Tief im Wald No,4a
45x45cm

M.95 Tief im Wald No,4b
45x45cm

M.96 Tief im Wald No,4c
45x45cm



M.92 Tief im Wald No,3 c
60x60cm

M.93 Tief im Wald No,3 d
60x60cm

M.97~120 twigy 1~24
each 30x30cm

M.121 twigy 25
30x30cm

M.122 twigy 26
30x30cm

M.123 Tief im Wald No,5
45x45cm

M.124 untitled
45x45cm

M.125 figure
60×184cm (4Panels)

M.126 figure 4
65x136cm (6Panels)

M.127 figure 5
60.5x146cm (2Panels)

M.128 f.p.F
72.7x91cm

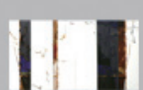
M.129 f.p.S
72.7x91cm

M.130 f.p.H
72.7x91cm

M.131 f.p.W
72.7x91cm

M.132 Shuso No.4
92x254cm(4Panels)

M.133 figure 6
62x89cm (4Panels)



M.139 figure 12
60x111cm (6Panels)

M.140 figure 12b
60x111cm (6Panels)

M.141 figure 13a
60x148cm (8Panels)

M.134 figure
30x60cm (2Panels)

M.135 figure 8
30x60cm (2Panels)

M.136 figure 9
30x60cm (2Panels)

M.137 figure 10
30x60cm (2Panels)

M.138 figure 11
30x60cm (2Panels)

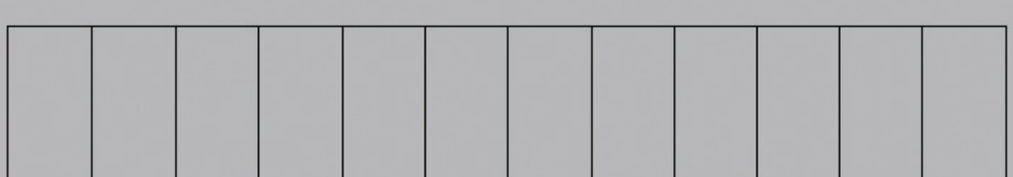
M.142 figure 13b
60x148cm (8Panels)

M.143 figure 13c
60x148cm (8Panels)

M.144 figure 14
60x18.5cm

M.145 figure 15
91.5x240cm (6Panels)

M.146 figure 16
45x120cm (6Panels)

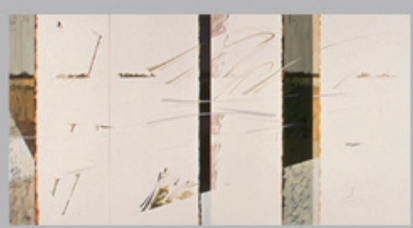


M.147 Landschaft
130x840cm (12Panels)

M.148 Hosswa-wei B
182x335cm (4Panels)

M.149 Hosswa-Aki
180x361.5cm (6Panels)

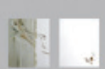
M.150 Hosswa
220x91.5cm



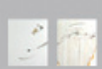
M.151 TA to TA
182x700cm (8Panels)

M.152 Untitled
35x113cm (3Panels)

M.153 Untitled
35x113cm (3Panels)



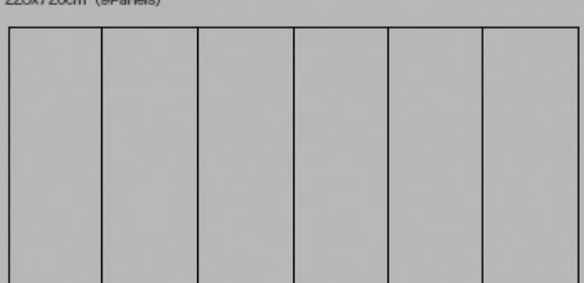
M.154 Untitled
35x70cm (2Panels)



M.155 Untitled
35x70cm (2Panels)

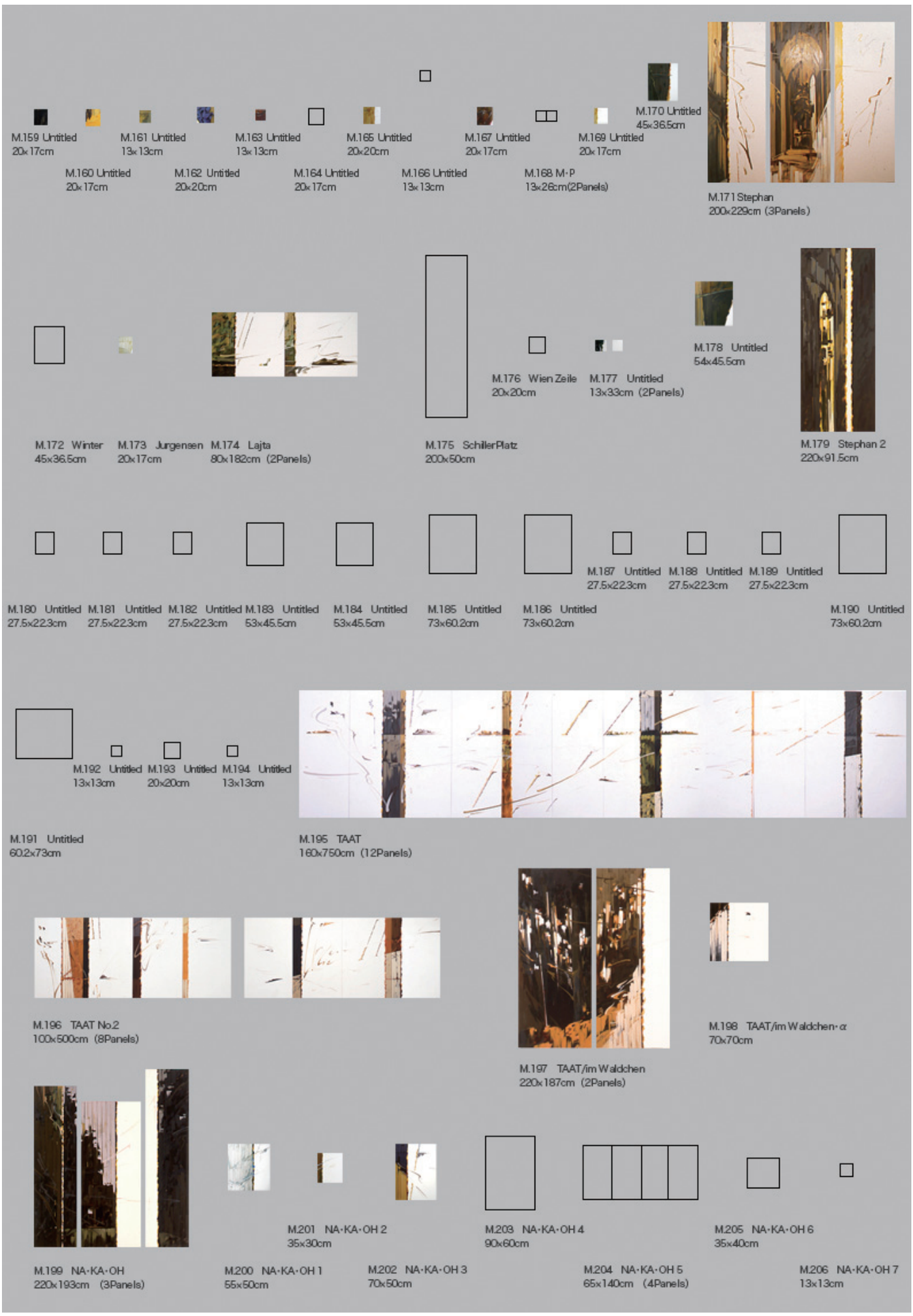
M.156 Waage・TA a
220x640cm (8Panels)

M.157 Waage・TA b
220x720cm (9Panels)



M.158 Waage・TAC
220×480cm (6Panels)

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600


M.159 Untitled
20x17cm
M.160 Untitled
20x17cm
M.161 Untitled
13x13cm
M.162 Untitled
20x20cm
M.163 Untitled
13x13cm
M.164 Untitled
20x17cm
M.165 Untitled
20x20cm
M.166 Untitled
13x13cm
M.167 Untitled
20x17cm
M.168 M·P
13x26cm(2Panels)
M.169 Untitled
20x17cm
M.170 Untitled
45x36.5cm
M.171 Stephan
200x229cm (3Panels)
M.172 Winter
45x36.5cm
M.173 Jurgensen
20x17cm
M.174 Lajta
80x182cm (2Panels)
M.175 SchillerPlatz
200x50cm
M.176 Wien Zeile
20x20cm
M.177 Untitled
13x33cm (2Panels)
M.178 Untitled
54x45.5cm
M.179 Stephan 2
220x91.5cm
M.180 Untitled
27.5x22.3cm
M.181 Untitled
27.5x22.3cm
M.182 Untitled
27.5x22.3cm
M.183 Untitled
53x45.5cm
M.184 Untitled
53x45.5cm
M.185 Untitled
73x60.2cm
M.186 Untitled
73x60.2cm
M.187 Untitled
27.5x22.3cm
M.188 Untitled
27.5x22.3cm
M.189 Untitled
27.5x22.3cm
M.190 Untitled
73x60.2cm
M.191 Untitled
60.2x73cm
M.192 Untitled
13x13cm
M.193 Untitled
20x20cm
M.194 Untitled
13x13cm
M.195 TAAT
160x750cm (12Panels)
M.196 TAAT No.2
100x500cm (8Panels)
M.197 TAAT/im Waldchen
220x187cm (2Panels)
M.198 TAAT/im Waldchen·α
70x70cm
M.199 NA·KA·OH
220x193cm (3Panels)
M.200 NA·KA·OH 1
55x50cm
M.201 NA·KA·OH 2
35x30cm
M.202 NA·KA·OH 3
70x50cm
M.203 NA·KA·OH 4
90x60cm
M.204 NA·KA·OH 5
65x140cm (4Panels)
M.205 NA·KA·OH 6
35x40cm
M.206 NA·KA·OH 7
13x13cm

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

M.247 yama
13×13cm

M.248 waagechen 1
15×50cm

M.249 waagechen 2
15×50cm

M.250 waagechen 3
15×50cm

M.251 waagechen 4
15×50cm

M.252 waagechen 5
15×50cm

M.253 waagechen 6
15×50cm

M.254 waagechen 7
15×50cm

M.255 waagechen 8
15×50cm

M.256 waagechen 9
15×50cm

M.257 waagechen 10
15×50cm

M.258 yama 2
30×36cm

M.259 yama 1
245×130cm

M.260 ta·KK·ei
245×354cm (3Panels)

M.261 ta·KK·ei 1
220×335cm (3Panels)

M.262 ta·KK·ei 2
200×180cm

M.263 TA·ENTJI
180×630cm (10Panels)

M.264 TA·ENTJI 1
35×245cm

M.265 TA·ENTJI 2
60×60cm

M.266 Yama
245×35cm

M.267 TAaT-d'
160×120cm (2Panels)

M.268 Arthurseatar 1
20×8.6cm

M.269 Arthurseatar 2
20×76cm (2Panels)

M.270 Arthurseatar 3
20×32.5cm (2Panels)

M.271 Arthurseatar 4
20×40.2cm (2Panels)

M.272 Arthurseatar 5
20×53.5cm (3Panels)

M.273 Arthurseatar 6
20×32cm (2Panels)

M.274 Arthurseatar 7
20×53cm (2Panels)

M.275 Arthursseatar 8
20×40.5cm (2Panels)

M.276 Arthursseatar 9
20×58.3cm (2Panels)

M.277 Arthursseatar 10
20×40.8cm (2Panels)

M.278 Arthursseatar 11
20×50.8cm

M.279 Arthursseatar 12
20×20.2cm

M.280 Arthursseatar 13
45×10.5cm

M.281 Arthursseatar 14
78×25cm

(ARTH) 180×248cm (4Panels)

(UR) 180×170cm (2Panels)

(S) 70×70cm

(SE) 150×115cm (2Panels)

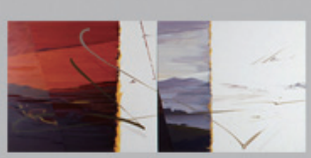
(ATAR) 150×248cm (4Panels)

M.282 ARTH·UR·S·SE·ATAR (13Panels)

M.283 Untitled
14×18cm

M.284 Untitled
14×18cm

M.285 twigy 8
30×30cm



M.286 magino 1
125×603cm (4Panels)

M.287 magino 2
260×70cm /260×30cm (2Panels)

M.288 magino 3
160×160cm

M.289 magino 4
15×15cm

M.290 magino 5
15×15cm

M.291 magino 6
15×15cm

M.292 magino 7
15×15cm

M.293 magino 8
260×30cm

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

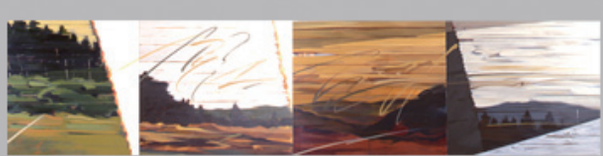
M.294 TA・MA UNOU HI I-1
180×600cm (8Panels)

M.295 TA・MA UNOU HI I-2
200×38cm

M.296 TA・MA UNOU HI I-3
200×15cm

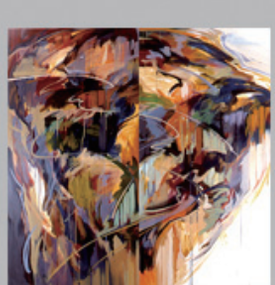
M.297 TA・MA UNOU HI I-4
200×50cm

M.298 TA・MA UNOU HI II
280×600cm (4Panels)

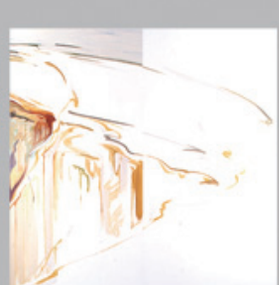


M.299 mag fuj ino 1
110×500cm (4Panels)

M.300 mag fuj ino 2
62.5×724cm (4Panels)



M.301 mag fuj ino 3
220×220cm (2Panels)



M.302 mag fuj ino 4
220×220cm (2Panels)

M.303 mag fuj ino 5
260×25cm

M.304 mag fuj ino 6
125×125cm

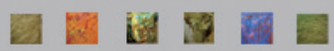
M.305 mag fuj ino 7
60×90cm

M.306 mag fuj ino 8
13×13cm

M.307　Quadrat/full 1
160x160cm

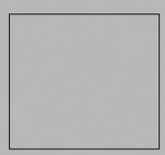
M.308　Quadrat/full 2
160x160cm

M.309　Quadrat/full 3
160x160cm



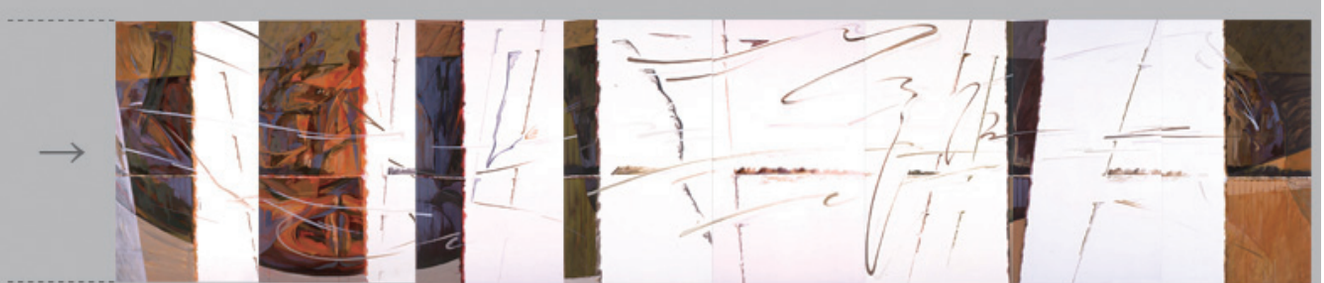
M310-315　quadratfull 1-6
25×25cm

M310-330　quadratfull 1-21
25×25cm

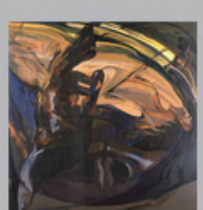


M331　水府 II ／ HAND
110×160cm（4Panels）

M.332　TA･SHOH <夢>
220x1757cm（14Panels）



M.333　Qf･SHOH <夢> 1
160x160cm



M.334　Qf･SHOH <夢> 1
160x160cm

M.335　h･SHOH
190x30cm/200x50cm

M.336　Qf･SHOH 220
220x220cm

M.337　Qf･SHOH 220
220x220cm

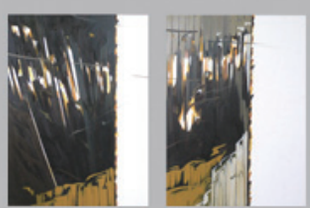
母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

M.338 TA·TSUMAALI
150×800cm (8Panels)

M.339 Tsumari 1
245×45cm

M.340 Tsumari 2
80×70cm

M.341 Tsumari 3
80×70cm



M.342 TAAT/im Wäldchen` (2Panels)
157×244cm

M.343 TAAT/im Waldchen'
67×67cm

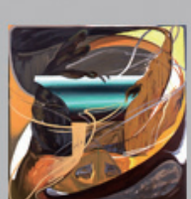
M.344 ta·KK·ei 2'
167×157cm

M.345 Of·SHOH 150-1
150×150cm

M.346 Of·SHOH 150-II
150×150cm

M.347 Of·SHOH 150-III
150×150cm

M.348 Of·SHOH 150-IV
150×150cm



M.349 Of·SHOH 150-V
150×150cm

M.350 Of·SHOH 150-VI
150×150cm

M.351 Quadratfull 35-I
35×35cm

M.352 Quadratfull 35-II
35×35cm

M.353 Quadratfull 35-III
35×35cm

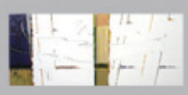
M.354 Quadratfull 35-IV
35×35cm

M.355 Quadratfull 35-V
35×35cm

M.356 Quadratfull 35-VI
35×35cm

M.357 TA・Ecke 1
27.5x44cm (2Panels)

M.358 TA・Ecke 2
27.5x44cm (2Panels)



M.359 TA・kaze
60.5x146cm (2Panels)

M.360 Qf・SHOH 160
160x160cm

M.361 Qf・SHOH 150 III op
150x150cm

M.362 TA・KOHJINYAMA
160x800cm (10Panels)

M.363 Kohjinyama 1
45.5x38cm

M.364 Kohjinyama 2
45.5x38cm

M.365 magino 4
15x15cm

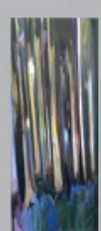
M.366 figure 07.1
40x40cm

M.367 figure 07.2
40x40cm

M.368 figure 07.3
40x40cm

M.369 TA・Tsumari for M.R
90x180cm (2Panels)

M.370 TA・OHNITA
150x600cm (6Panels)



M.371 Yoshikawa-Sagi
180x75cm

M.372 Yoshikawa-Kaede 1
45.5x38cm

M.373 Yoshikawa-Kaede 2
45.5x38cm

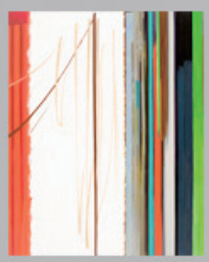
M.374 葉舟 2 op
31.5x58cm

M.375 figure 07.1
30x30cm

M376 Tief im Wald 08.1
170x44cm (2Panels)

M377 TA・KY OB AS HI
150x1030cm (8Panels)

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

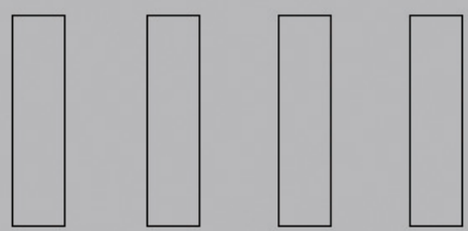


M378 Kyobashi1
200x160cm

M379 Kyobashi 2
200x60cm

M380~M383 Kyobashi 3~6
33.5x24.2cm

M384~386 TA.Ohnita - a .b c
each 70x100cm

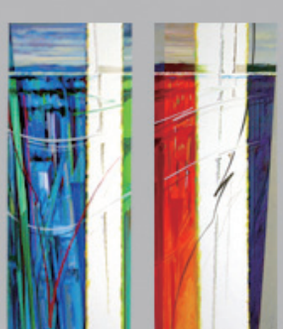


M387~390
182x45cm

M391 TAaT-d op
160x360cm
(6Panels)

M392~394 im Wald op1~3
each 182x45cm

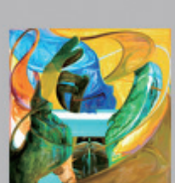
M395 TA・Chi-Sat Vorbild
106x91.5cm



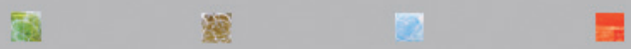
M396 TA・Chi-Sat
250x220cm
250x100cm

M397 TA・Chisato
50x90,50x180cm

M398~M400 Qf・SHOH 90 Holz 1~3
90x90cm



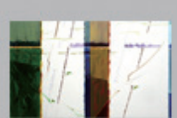
M401 Qf・SHOH 145
145x145x9.2cm



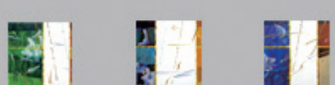
M402~M405 Quadratful25
25x25cm

M406~M421 Quadratful30
30x30cm

M422 TA·MAGI N
47x406cm
(4Panels)



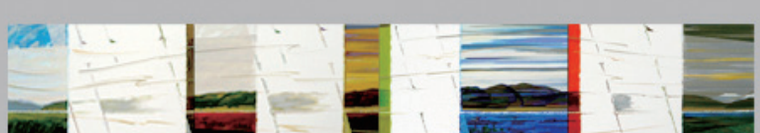
M423 TA·MADA
72.5x125cm
(2Panels)



M424~M426 lily-a b c
each 50x50cm

M427 wisteria
40x30cm

M428 TA·TARO
150x250cm
(4Panels)



M429 TA·UEDA
90x600cm
(4Panels)

M430 TA·Kohjinyama
70x320cm
(4Panels)

M341 TA・Sui-kei
90×260cm
(2Panels)

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

M.432　Qf SHOH
《掌》90・Holz-1
アクリル・油彩/板
90×90cm
2011

M.433　Qf SHOH
《掌》90・Holz-2
アクリル・油彩/板
90×90cm
2011

M.434　Qf SHOH
《掌》90/HO12-3
アクリル・油彩/板
90×90cm
2011

M.435　Qf SHOH
《掌》90/HO12-4
アクリル・油彩/板
90×90cm
2011

M.436　TA・TARO II
アクリル・油彩/綿布　200×500cm（4枚組）2011

M.437　TA・TARO III
アクリル・油彩/綿布
65.5×80.5cm
2011

M.438
PH-C
アクリル・油彩/板
34×34cm
2011

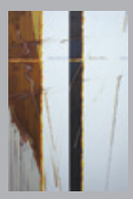
M.439
PH-d
アクリル・油彩/板
34×34cm
2011

M.440
PH-a
アクリル・油彩/板
34×34cm
2011

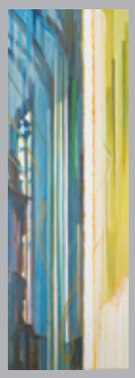
M.441
PH- b
アクリル・油彩/板
34×34cm
2011

M.442
PH-e
アクリル・油彩/板
34×34cm
2011

M.443
PH-f
アクリル・油彩/板
34×34cm
2012



M.444　V・Nishihara
アクリル・油彩/綿布
150×100cm（2枚組）
2012



M.445　Stephan2012
アクリル・油彩/綿布
300×100cm
2012

M.446　V・Misogihagi 1（M83 OP）
M.447　V・Misogihagi 2（M80 OP）
M.448　V・Misogihagi 3（M84 OP）
M.449　V・Misogihagi 4（M87 OP）
テンペラ・アクリル・油彩/綿布
182×45cm
2013

M.450
Qf SHOH《掌》90・HOlz-5
アクリル・油彩/綿布
90×90cm
2013

M.451
Himmel Bild 1

油彩/キャンバス
45.5×53cm
2013

M.452
Himmel Bild 2

M.453
Himmel Bild 3

M.454
Himmel Bild 4

M.455
Himmel Bild 5

M.456
Himmel Bild 6

M.457
Himmel Bild 7

M.458
Himmel Bild 8

M.459
Himmel Bild 9

M.460
Himmel Bild 10

M.461
Himmel Bild 11

M.462
Himmel Bild 12

M.463
Himmel Bild 13

M.464
Himmel Bild 14

M.465
Himmel Bild 15

M.466
Himmel Bild 16

M.467
Himmel Bild 17

M.468
Himmel Bild 18

M.469
Himmel Bild 19

M.470
Himmel Bild 20

M.471
Himmel Bild 21

M.472
Himmel Bild 22

M.473
Himmel Bild 23

M.474
Himmel Bild 24

M.475
Himmel Bild 25

M.476
Himmel Bild 26

M.477
Himmel Bild 27

M.478
Himmel Bild 28

M.479
Himmel Bild 29

M.480
Himmel Bild 30

M.481
Himmel Bild 31

M.482
Himmel Bild 32

M.483
Himmel Bild 33

M.484
Himmel Bild 34

M.485
Himmel Bild 35

M.486
Himmel Bild 36

M.487
Himmel Bild 37

M.488
Himmel Bild 38

M.489
Himmel Bild 39

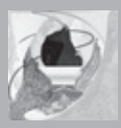
M.490
Himmel Bild 40

M.491
Himmel Bild 41

M.492
Himmel Bild 42

油彩/キャンバス
45.5×53cm
2013

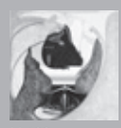
M.493
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-6


M.494
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-7

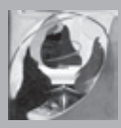
M.495
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-8

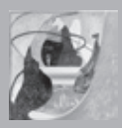
M.496
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-9

M.497
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-10


M.498
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-11

M.499
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-12

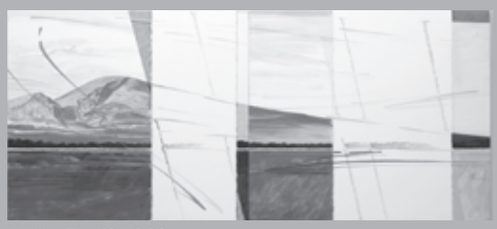

M.500
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-13

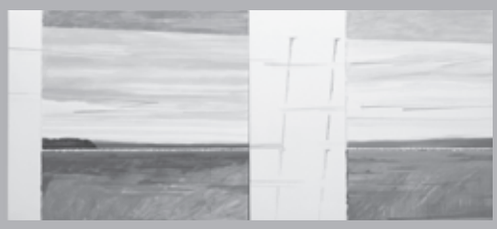

M.501
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-14

M.502
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-15

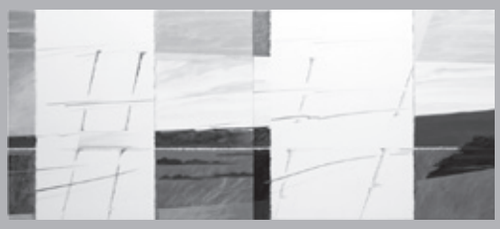
アクリル・油彩/綿布
45.5×53cm
2014

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600





M.503　TA・KO MO RO
アクリル・油彩/綿布　175×1300cm（6枚組）　2014



M.504　TA・KO MO RO 2
アクリル・油彩/綿布　53×475cm（6枚組）　2014

M.505　TA・ASAM
アクリル・油彩/綿布　200×400cm（4枚組）　2014

M.506
Himmel Bild 43

M.507
Himmel Bild 44

M.508
Himmel Bild 45

M.509
Himmel Bild 46

M.510
Himmel Bild 47

M.511
Himmel Bild 48

M.512
Himmel Bild 49

M.513
Himmel Bild 50

M.514
Himmel Bild 51

M.515
Himmel Bild 52

M.516
Himmel Bild 53

M.517
Himmel Bild 54

M.518
Himmel Bild 55

M.519
Himmel Bild 56

M.520
Himmel Bild 57

M.521
Himmel Bild 58

M.522
Himmel Bild 59

M.523
Himmel Bild 60

M.524
Himmel Bild 61

M.525
Himmel Bild 62

M.526
Himmel Bild 63

M.527
Himmel Bild 64

M.528
Himmel Bild 65

M.529
Himmel Bild 66

油彩/キャンバス
45.5×53cm
2015

M.530
Himmel Bild 67

M.531
Himmel Bild 68

M.532
Himmel Bild 69

M.533
Himmel Bild 70

M.534
Himmel Bild 71

M.535
Himmel Bild 72

M.536
Himmel Bild 73

M.537
Himmel Bild 74

M.538
Himmel Bild 75

M.539
Himmel Bild 76

M.540
Himmel Bild 77

M.541
Himmel Bild 78

M.542
Himmel Bild 79

M.543
Himmel Bild 80

M.544
Himmel Bild 81

M.545
Himmel Bild 82

M.546
Himmel Bild 83

M.547
Himmel Bild 84

M.548
Himmel Bild 85

M.549
Himmel Bild 86

M.550
Himmel Bild 87

M.551
Himmel Bild 88

M.552
Himmel Bild 89

M.553
Himmel Bild 90

M.554
Himmel Bild 91

油彩/キャンバス
45.5×53cm
2015

M.555　TA・MSK－shuso
アクリル・油彩/綿布
80.5×196cm（3枚組）
2016

M.556
V・MSK－shuso1
アクリル・油彩/綿布
125×30cm
2016

M.557
V・MSK－shuso2

M.558　TA・KAZE2
アクリル・油彩/綿布
73×125cm（2枚組）
2016

M.559　TA・Shuso1
アクリル・油彩/綿布
45.5×76cm（2枚組）
2016

M.560　TA・Shuso2
アクリル・油彩/綿布
45.5×76cm（2枚組）
2016

M.561　TA・Shuso3
アクリル・油彩/綿布
34.5×48.8cm（2枚組）
2016

M.562　TA・Shuso4
アクリル・油彩/綿布
34.5×48.8cm（2枚組）
2016

M.563　TA・Shuso5
アクリル・油彩/綿布
34.5×48.8cm（2枚組）
2016

M.564　TA・Shuso6
アクリル・油彩/綿布
34.5×48.8cm（2枚組）
2016

M.565　HimmmelBild92
油彩/キャンバス
45.5×53cm
2017

M.566　TA・Koiga-Kubo
アクリル・油彩/綿布
182 ×890cm（6枚組）
2017

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

M.567
Himmel Bild 83

M.568
Himmel Bild 84

M.569
Himmel Bild 85

M.570
Himmel Bild 86

M.571
Himmel Bild 87

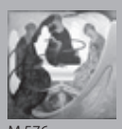
M.572
Himmel Bild 88

M.573
Himmel Bild 89

M.574
Himmel Bild 90

M.575
Himmel Bild 91

油彩/キャンバス
45.5×53cm
2015


M.576
Qf SHOH《掌》90・HOlz-16
アクリル・油彩/ 板
90×90cm
2018

M.577
V・20120809

M.578
V・20141021

アクリル・油彩/ キャンバス
164×31.8cm
2018

M.579
Himmel Bild 102

M.580
Himmel Bild 103

M.581
Himmel Bild 104

M.582
Himmel Bild 105

M.583
Himmel Bild 106

M.584
Himmel Bild 107

M.585
Himmel Bild 108

M.586
Himmel Bild 109

油彩/キャンバス
45.5×53cm
2018

M.587
Himmel Bild 110

M.588
Himmel Bild 111

M.589
Himmel Bild 112

M.590
Himmel Bild 113

M.591
Himmel Bild 114

M.592
Himmel Bild 115

M.593
Himmel Bild 116

M.594
Himmel Bild 117

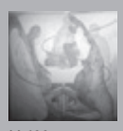
M.595
Himmel Bild 115

M.596
Himmel Bild 116

M.597
Himmel Bild 117

M.598
Himmel Bild 118

M.599
Qf SHOH《掌》90・HOlz-17
アクリル・油彩/ 板
90×90 cm
2018


M.600
Qf SHOH《掌》90・HOlz-18（背）
アクリル・油彩/ 板
90×90 cm
2018

オリジナルとの縮小比　1：62

6．フォーマートレゾネ　M1〜M600　1987－2018

M.1　Grave Of Myth　B No.2
95×144cm (4Panels)

M.2　Grave Of Myth　B No.3
95×144cm (3Panels)

M.3　Grave Of Myth　B No.4
47×76cm (2Panels)

M.4　Untitled
85×18.5cm

M.5　Grave Of Myth B No.5
70×100cm (2Panels)

M.6　Grave Of Myth B No.6
180×360cm (6Panels)

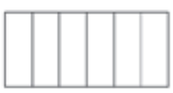
M.7　Grave Of Myth B No.8
75×126cm (4Panels)

M.8　Grave Of Myth B No.7
65×170cm (2Panels)

M.9　To a Person Still Somewhere Afar
182.5×486cm (8Panels)

M.10　TACHI-YURI
91.5×387cm (12Panels)

M.11　トスカーナ・Toscana
62.5×137.5cm (6Panels)



M.12　テル・エル・アマーナ・Tell el Amarna
62.5×137.5cm (6Panels)

M.13　Shuso
62.5×188cm (8Panels)

M.14　スーズタール・Suzudal
91.5×257cm (8Panels)

M.15　水府・Suifu Ⅱ a
91.5×120cm

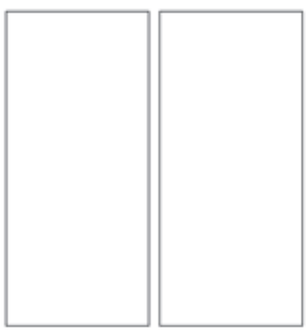
M.16　水府・Suifu Ⅱ b
91.5×122cm (2Panels)

M.17　水府・Suifu
110×160cm (4Panels)

M.18　Untitled a〜d
each60×45.5cm

M.19　ノイ・イーゼンブルク・夏・
New-Isenburg Summer
260.5×120.5cm

M.20　Untitled
170×77cm (2Panels)



M.21　ウナスへの参道・Approach to Unas
260.5×245cm (2Panels)

M.22　Untitled
120×32.5cm (2Panels)

M.23　葦舟・Ashifune
31.5×58cm (2Panels)

M.24 テイ・マスタバ・Ti-mastaba
240×244cm (2Panels)

M.25 ミケリノス・Mykerinos
220×190cm (2Panels)

M.26 am N i l
182.5×391cm (6Panels)

M.27 月夕・Gesseki
110×27cm (2Panels)

M.28 Untitled a~d
each60×45.5cm

M.29 葦舟 No.2・Ashifune No.2
31.5×58cm (2Panels)

M.30 im Wäldchen.
210×45cm

M.31 Azuki for M.R.No.1
46×61cm (2Panels)

M.32 Azuki for M.R.No.2
46×61cm (2Panels)

M.33 Azuki for M.R.No.3
46×61cm (2Panels)

M.34 Untitled
18×13cm

M.35 Untitled
18×13cm

M.36 Untitled
91.5×27.5cm

M.37 im Waldchen No.2
25×17.5cm

M.38 im Waldchen No.3
25×17.5cm

M.39 Aziki for M.R.No.4
60×84cm

M.40 Shuso No.2
25×35cm (2Panels)

M.41 Untitled
160×45cm (2Panels)

M.42 Untitled
18×13cm

M.43 Untitled
18×13cm

M.44 Untitled
18×13cm

M.45 Untitled
18×13cm

M.46 Untitled
18×13cm

M.47 Untitled
18×13cm

M.48 Aki-No
160×524cm (8Panels)

M.49 Naguri No.1
183×111.5cm

M.50 Aziki for M.R.No.5
140×280cm (2Panels)

M.51 Naguri No.2
120×240cm (4Panels)

M.52 Shuso No.3.a
120×270cm (6Panels)

M.53 Shuso No.3.b
120×270cm (2Panels)

M.54 Ti
160×280.5cm (4Panels)

M.55 月夕-Gesseki No.2
170×75cm (2Panels)

M.56 Untitled
70×56cm (2Panels)

M.57 Untitled
70×55cm

M.58 im Waidchen No.4 Oktober
120×15cm

M.59 Untitled
70×112cm (2Panels)

M.60 im Waidchen No.5 November
160×44cm (2Panels)

M.61 Koigakubo
53×129.5cm (6Panels)

M.62 P.C.
182.5×280.5cm (4Panels)

M.63 figure 1 a
160×89cm (2Panels)

M.64 figure 1 b
160×89cm (2Panels)

M.65 figure 1 c
160×89cm (2Panels)

M.66 figure 1 d
160×89cm (2Panels)

M.67 P.M.
160×220cm (4Panels)

M.68 figure 2 a

M.69 figure 2 b
50×40cm

M.70 figure 2 c
50×40cm

M.71 figure 2 d
50×40cm

M.72 figure 2 e
50×40cm

M.73 figure 2 f
50×40cm

M.74 Koigakubo No.2 a
45.5×88cm (4Panels)

M.75 Koigakubo No.2 b
45.5×88cm (4Panels)

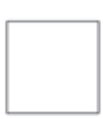
M.76 Koiga-Kubo
182.5×890cm (12Panels)

M.77 Wolga a
160×260cm (2Panels)

M.78 Wolga b
160×260cm (2Panels)

M.79 Tief im Wald No,1
180×188cm (2Panels)

M.82～88 Tief im Wald No,2 a～g
each180×45cm



M.89 Untitled
80×80cm

M.90 Tief im Wald No,3 a
60×60cm

M.91 Tief im Wald No,3 b
60×60cm

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

M.92 Tief im Wald No,3 c
60×60cm

M.93 Tief im Wald No,3 d
60×60cm

M.94 Tief im Wald No,4 a
45×45cm

M.95 Tief im Wald No,4 b
45×45cm

M.96 Tief im Wald No,4 c
45×45cm

M.97~120 twigy 1~24
each 30×30cm

M.121 twigy 25
30×30cm

M.122 twigy 26
30×30cm

M.123 Tief im Wald No,5
45×45cm

M.124 untitled
45×45cm

M125 figure3
60×184cm（4Panels）

M.126 figure 4
65×136cm (6Panels)

M.127 figure 5
60.5×146cm (2Panels)

M.128 f.p.F
72.7×91cm

M.129 f.p.S
72.7×91cm

M.130 f.p.H
72.7×91cm

M.131 f.p.W
72.7×91cm

M.132 Shuso No,4
92×254cm(4Panels)

M.133 figure 6
62×89cm (4Panels)

M.134 figure
30×60cm (2Panels)

M.135 figure 8
30×60cm (2Panels)

M.136 figure 9
30×60cm (2Panels)

M.137 figure 10
30×60cm (2Panels)

M.138 figure 11
30×60cm (2Panels)

M.139 figure 12
60×111cm (6Panels)

M.140 figure 12b
60×111cm (6Panels)

M.141 figure 13a
60×148cm (8Panels)

M.142 figure 13b
60×148cm (8Panels)

M.143 figure 13c
60×148cm (8Panels)

M.144 figure 14
60×18.5cm

M.145 figure 15
91.5×240cm (6Panels)

M.146 figure 16
45×120cm (6Panels)

M.147 Landschaft
130×840cm (12Panels)

M.148 Hosswa-wei B
182×335cm (4Panels)

M.149 Hosswa-Aki
180×361.5cm (6Panels)

M.150 Hosswa
220×91.5cm

M.151 TA to TA
182×700cm (8Panels)

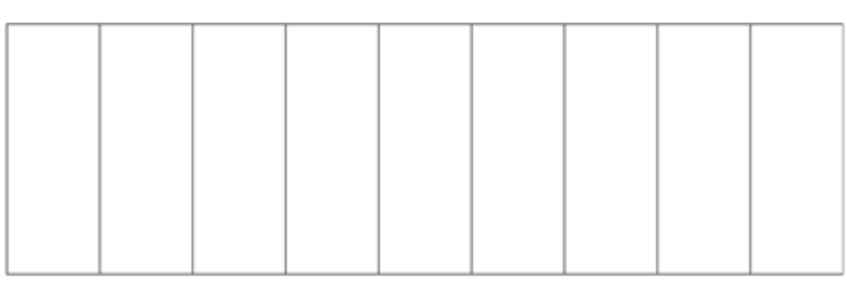
M.152 Untitled
35×113cm (3Panels)

M.153 Untitled
35×113cm (3Panels)

M.154 Untitled
35×70cm (2Panels)

M.155 Untitled
35×70cm (2Panels)

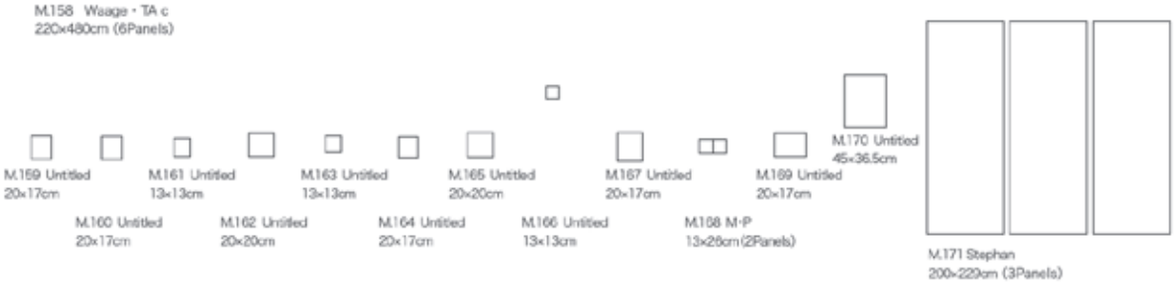
M.156 Waage・TA a
220×640cm (8Panels)



M.157 Waage・TA b
220×720cm (9Panels)

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987〜2018　M1－M600

M.158 Waage・TA c
220×480cm (6Panels)



M.159 Untitled
20×17cm

M.160 Untitled
20×17cm

M.161 Untitled
13×13cm

M.162 Untitled
20×20cm

M.163 Untitled
13×13cm

M.164 Untitled
20×17cm

M.165 Untitled
20×20cm

M.166 Untitled
13×13cm

M.167 Untitled
20×17cm

M.168 M・P
13×26cm (2Panels)

M.169 Untitled
20×17cm

M.170 Untitled
45×36.5cm

M.171 Stephan
200×229cm (3Panels)

M.172 Winter
45×36.5cm

M.173 Jurgensen
20×17cm

M.174 Lajta
80×182cm (2Panels)

M.175 SchillerPlatz
200×50cm

M.176 Wien Zeile
20×20cm

M.177 Untitled
13×33cm (2Panels)

M.178 Untitled
54×46.5cm

M.179 Stephan 2
220×91.5cm

M.180 Untitled
27.5×22.3cm

M.181 Untitled
27.5×22.3cm

M.182 Untitled
27.5×22.3cm

M.183 Untitled
53×45.5cm

M.184 Untitled
53×45.5cm

M.185 Untitled
73×60.2cm

M.186 Untitled
73×60.2cm

M.187 Untitled
27.5×22.3cm

M.188 Untitled
27.5×22.3cm

M.189 Untitled
27.5×22.3cm

M.190 Untitled
73×60.2cm

M.191 Untitled
60.2×73cm

M.192 Untitled
13×13cm

M.193 Untitled
20×20cm

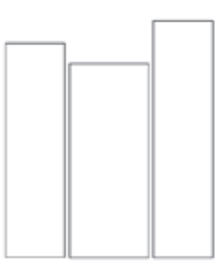
M.194 Untitled
13×13cm

M.195 TAAT
160×750cm (12Panels)

M.196 TAAT No.2
100×500cm (8Panels)

M.197 TAAT/im Waldchen
220×187cm (2Panels)

M.198 TAAT/im Waldchen・α
70×70cm



M.199 NA・KA・OH
220×193cm (3Panels)

M.200 NA・KA・OH 1
55×50cm

M.201 NA・KA・OH 2
35×30cm

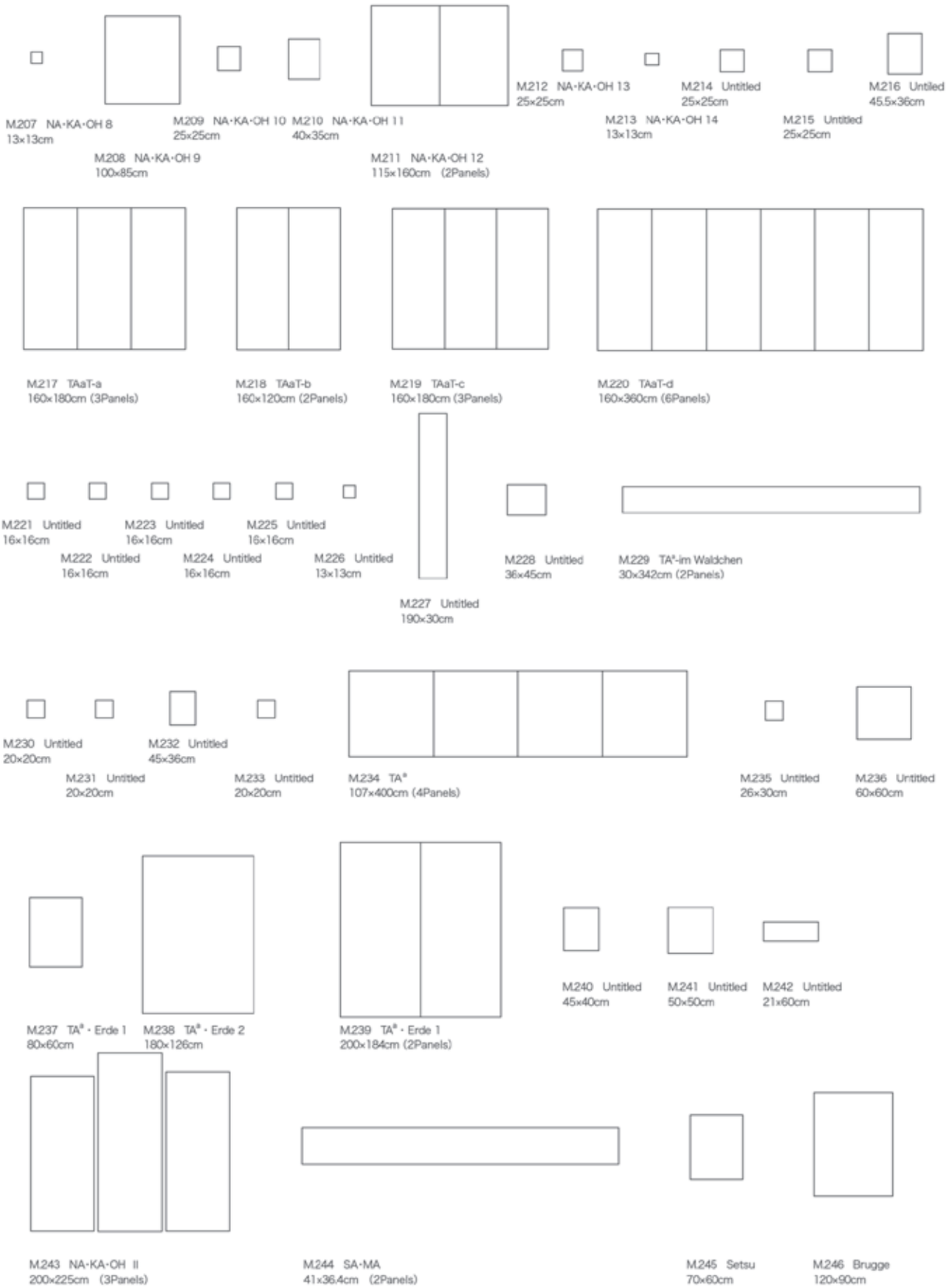
M.202 NA・KA・OH 3
70×50cm

M.203 NA・KA・OH 4
90×60cm

M.204 NA・KA・OH 5
65×140cm (4Panels)

M.205 NA・KA・OH 6
35×40cm

M.206 NA・KA・OH 7
13×13cm



039

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

M.247 yama
13×13cm

M.248 waagechen 1
15×50cm

M.249 waagechen 2
15×50cm

M.250 waagechen 3
15×50cm

M.251 waagechen 4
15×50cm

M.252 waagechen 5
15×50cm

M.253 waagechen 6
15×50cm

M.254 waagechen 7
15×50cm

M.255 waagechen 8
15×50cm

M.256 waagechen 9
15×50cm

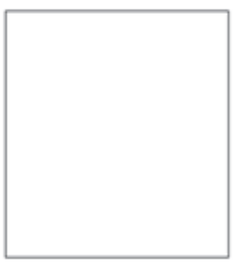
M.257 waagechen 10
15×50cm

M.258 yama 2
30×36cm

M.259 yama 1
245×130cm

M.260 ta･KK･ei
245×354cm (3Panels)

M.261 ta･KK･ei 1
220×335cm (3Panels)



M.262 ta･KK･ei 2
200×180cm

M.263 TA･ENTJI
180×630cm (10Panels)

M.264 TA･ENTJI 1
35×245cm

M.265 TA･ENTJI 2
60×60cm

M.266 Yama
245×35cm

M.267 TAaT-d'
160×120cm (2Panels)

M.268 Arthursseatar 1
20×8.6cm

M.269 Arthursseatar 2
20×76cm (2Panels)

M.270 Arthursseatar 3
20×32.5cm (2Panels)

M.271 Arthursseatar 4
20×40.2cm (2Panels)

M.272 Arthursseatar 5
20×53.5cm (3Panels)

M.273 Arthursseatar 6
20×32cm (2Panels)

M.274 Arthursseatar 7
20×53cm (2Panels)

M.275 Arthursseatar 8
20×40.5cm (2Panels)

M.276 Arthursseatar 9
20×58.3cm (2Panels)

M.277 Arthursseatar 10
20×40.8cm (2Panels)

M.278 Arthursseatar 11
20×50.8cm

M.279 Arthursseatar 12
20×20.2cm

M.280 Arthursseatar 13
45×10.5cm

M.281 Arthursseatar 14
78×25cm

(ARTH) 180×248cm (4Panels)

(UR) 180×170cm (2Panels)

(S) 70×70cm

(SE) 150×115cm (2Panels)

(ATAR) 150×248cm (4Panels)

M.282 ARTH・UR・S・SE・ATAR (13Panels)

M.283 Untitled
14×18cm

M.284 Untitled
14×18cm

M.285 twigy 8
30×30cm

M.286 magino 1
125×603cm (4Panels)

M.287 magino 2
260×70cm /260×30cm (2Panels)

M.288 magino 3
160×160cm

M.289 magino 4
15×15cm

M.290 magino 5
15×15cm

M.291 magino 6
15×15cm

M.292 magino 7
15×15cm

M.293 magino 8
260×30cm

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

M.294 TA・MA UNOU HI I-1
180×600cm (8Panels)

M.295 TA・MA UNOU HI I-2
200×38cm

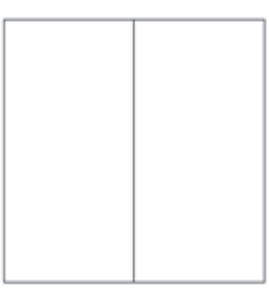
M.296 TA・MA UNOU HI I-3
200×15cm

M.297 TA・MA UNOU HI I-4
200×50cm

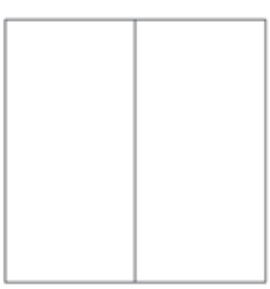
M.298 TA・MA UNOU HI II
280×600cm (4Panels)

M.299 mag fuj ino 1
110×500cm (4Panels)

M.300 mag fuj ino 2
62.5×724cm (4Panels)



M.301 mag fuj ino 3
220×220cm (2Panels)



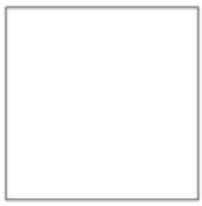
M.302 mag fuj ino 4
220×220cm (2Panels)

M.303 mag fuj ino 5
260×25cm

M.304 mag fuj ino 6
125×125cm

M.305 mag fuj ino 7
60×90cm

M.306 mag fuj ino 8
13×13cm



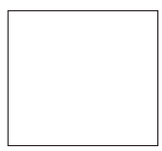
M.307　Quadrat/full 1
160×160cm

M.308　Quadrat/full 2
160×160cm

M.309　Quadrat/full 3
160×160cm

M310-315　quadratfull 1-6
25×25cm

M316-330　quadratfull 7-21
25×25cm



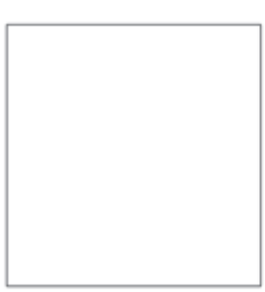
M331　水府 II ／ HAND
110×160cm（4Panels）

M.332　TA･SHOH <掌>
220×1757cm（14Panels）

M.333　Qf･SHOH <掌> 1
160×160cm

M.334　Qf･SHOH <掌> 1
160×160cm

M.335　h･SHOH
190×30cm/200×50cm



M.336　Qf･SHOH 220
220×220cm

M.337　Qf･SHOH 220
220×220cm

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

M.338 TA·TSUMAALI
150×800cm (8Panels)

M.339 Tsumari 1
245×45cm

M.340 Tsumari 2
80×70cm

M.341 Tsumari 3
80×70cm

M.342 TAAT/im Wäldchen' (2Panels)
157×244cm

M.343 TAAT/im Waldchen'
67×67cm

M.344 ta·KK·ei 2'
167×157cm

M.345 Qf·SHOH 150-1
150×150cm

M.346 Qf·SHOH 150-II
150×150cm

M.347 Qf·SHOH 150-III
150×150cm

M.348 Qf·SHOH 150-IV
150×150cm

M.349 Qf·SHOH 150-V
150×150cm

M.350 Qf·SHOH 150-VI
150×150cm

M.351 Quadratfull 35-I
35×35cm

M.352 Quadratfull 35-II
35×35cm

M.353 Quadratfull 35-III
35×35cm

M.354 Quadratfull 35-IV
35×35cm

M.355 Quadratfull 35-V
35×35cm

M.356 Quadratfull 35-VI
35×35cm

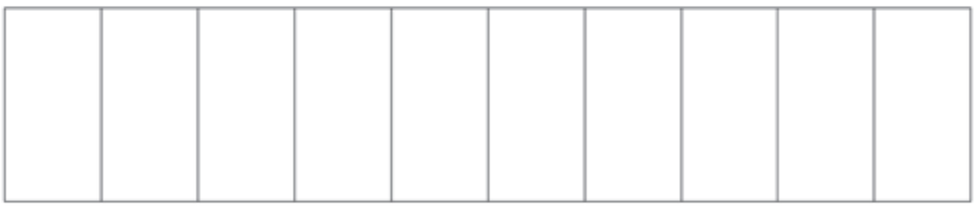
M.357 TA·Ecke 1
27.5×44cm (2Panels)

M.358 TA·Ecke 2
27.5×44cm (2Panels)

M.359 TA·kaze
60.5×146cm (2Panels)

M.360 Qf·SHOH 160
160×160cm

M.361 Qf·SHOH 150 III op
150×150cm



M.362 TA·KOHJINYAMA
160×800cm (10Panels)

M.363 Kohjinyama 1
45.5×38cm

M.364 Kohjinyama 2
45.5×38cm

M.365 magino 4
15×15cm

M.366 figure 07.1
40×40cm

M.367 figure 07.2
40×40cm

M.368 figure 07.3
40×40cm

M.369 TA·Tsumari for M.R
90×180cm (2Panels)

M.370 TA·OHNITA
150×600cm (6Panels)

M.371 Yoshikawa-Sagi
180×75cm

M.372 Yoshikawa-Kaede 1
45.5×38cm

M.373 Yoshikawa-Kaede 2
45.5×38cm

M.374 葉舟 2 op
31.5×58cm

M.375 figure 07.1
30×30cm

M376 Tief im Wald 08.1
170x44cm (2Panels)

M377 TA·KY 08 AS HI
150x1030cm (8Panels)

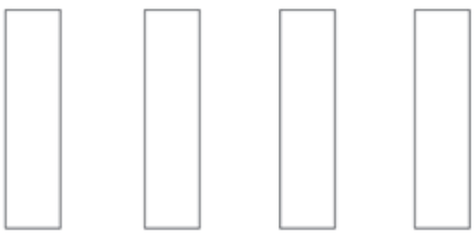
母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

M378 Kyobashi1
200x160cm

M379 Kyobashi 2
200x60cm

M380～M383 Kyobashi 3～6
33.5x24.2cm

M384～386 TA.Ohnita - a .b c
each 70x100cm

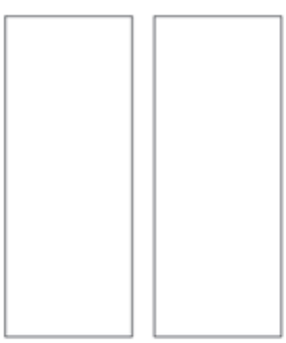


M387～390
182x45cm

M391 TAaT-d op
160x360cm
(6Panels)

M392～394 im Wald op1～3
each 182x45cm

M395 TA･Chi-Sat Vorbild
106x91.5cm



M396 TA･Chi-Sat
250x220cm
250x100cm

M397 TA･Chisato
50x90,50x180cm

M398～M400 Qf･SHOH 90 Holz 1～3
90x90cm

M401 Qf･SHOH 145

M402〜M405　quadratful25
25x25cm

M406〜M421　quadratful30
30x30cm

M422　TA・MAGI N
47x406cm
(4Panels)

M423　TA・MADA
72.5x125cm
(2Panels)

M424〜M426　lily-a b c
each 50x50cm

M427　wisteria
40x30cm

M428　TA・TARO
150x250cm
(4Panels)

M429　TA・UEDA
90x600cm
(4Panels)

M430　TA・Kohjinyama
70x320cm
(4Panels)

M431　TA・Sui-Kei
90x260cm
(2Panels)

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987〜2018　M1－M600

M.432　Qf SHOH
《掌》90・Holz-1
アクリル・油彩/板
90×90cm
2011

M.433　Qf SHOH
《掌》90・Holz-2
アクリル・油彩/板
90×90cm
2011

M.434　Qf SHOH
《掌》90/HO12-3
アクリル・油彩/板
90×90cm
2011

M.435　Qf SHOH
《掌》90/HO12-4
アクリル・油彩/板
90×90cm
2011

M.436　TA・TARO II
アクリル・油彩/綿布　200×500cm（4枚組）2011

M.437　TA・TARO III
アクリル・油彩/綿布
65.5×80.5cm
2011

M.438
PH-C
アクリル・油彩/板
34×34cm
2011

M.439
PH-d
アクリル・油彩/板
34×34cm
2011

M.440
PH-a
アクリル・油彩/板
34×34cm
2011

M.441
PH- b
アクリル・油彩/板
34×34cm
2011

M.442
PH-e
アクリル・油彩/板
34×34cm
2011

M.443
PH-f
アクリル・油彩/板
34×34cm
2012

M.444　V・Nishihara
アクリル・油彩/綿布
150×100cm（2枚組）
2012

M.445　Stephan2012
アクリル・油彩/綿布
300×100cm
2012

M.446　V・Misogihagi 1（M83 OP）
M.447　V・Misogihagi 2（M80 OP）
M.448　V・Misogihagi 3（M84 OP）
M.449　V・Misogihagi 4（M87 OP）
テンペラ・アクリル・油彩/綿布
182×45cm
2013

M.450
Qf SHOH《掌》90・HOlz-5
アクリル・油彩/綿布
90×90cm
2013

M.451
Himmel Bild 1
油彩/キャンバス
45.5×53cm
2013

M.452
Himmel Bild 2

M.453
Himmel Bild 3

M.454
Himmel Bild 4

M.455
Himmel Bild 5

M.456
Himmel Bild 6

M.457
Himmel Bild 7

M.458
Himmel Bild 8

M.459
Himmel Bild 9

M.460
Himmel Bild 10

M.461
Himmel Bild 11

M.462
Himmel Bild 12

M.463
Himmel Bild 13

M.464
Himmel Bild 14

M.465
Himmel Bild 15

M.466
Himmel Bild 16

M.467
Himmel Bild 17

M.468
Himmel Bild 18

M.469
Himmel Bild 19

M.470
Himmel Bild 20

M.471
Himmel Bild 21

M.472
Himmel Bild 22

M.473
Himmel Bild 23

M.474
Himmel Bild 24

M.475
Himmel Bild 25

M.476
Himmel Bild 26

M.477
Himmel Bild 27

M.478
Himmel Bild 28

M.479
Himmel Bild 29

M.480
Himmel Bild 30

M.481
Himmel Bild 31

M.482
Himmel Bild 32

M.483
Himmel Bild 33

M.484
Himmel Bild 34

M.485
Himmel Bild 35

M.486
Himmel Bild 36

M.487
Himmel Bild 37

M.488
Himmel Bild 38

M.489
Himmel Bild 39

M.490
Himmel Bild 40

M.491
Himmel Bild 41

M.492
Himmel Bild 42

油彩/キャンバス
45.5×53cm
2013

M.493
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-6

M.494
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-7

M.495
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-8

M.496
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-9

M.497
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-10

M.498
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-11

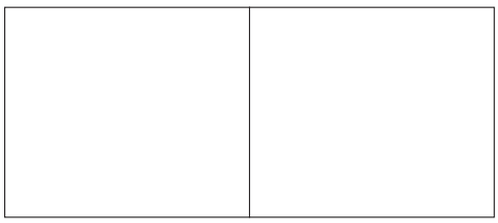
M.499
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-12

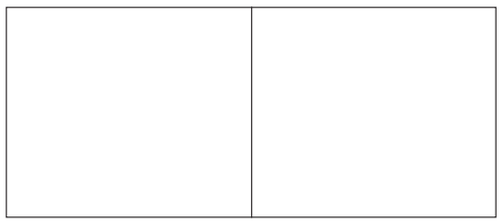
M.500
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-13

M.501
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-14

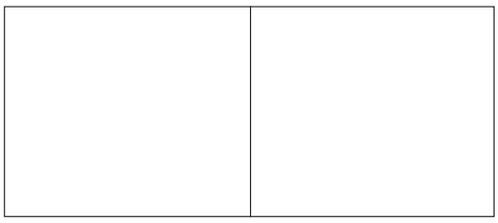
M.502
Qf SHOH《掌》
90・HOlz-15

アクリル・油彩/綿布
45.5×53cm
2014

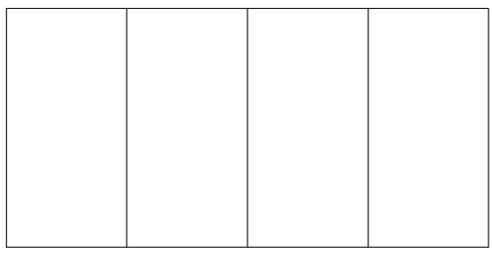




M.503　TA・KO MO RO
アクリル・油彩/綿布　175×1300cm（6枚組）　2014



M.504　TA・KO MO RO 2
アクリル・油彩/綿布　53×475cm（6枚組）　2014



M.505　ASAM
アクリル・油彩/綿布　200×400cm（4枚組）　2014

M.506
Himmel Bild 43

M.507
Himmel Bild 44

M.508
Himmel Bild 45

M.509
Himmel Bild 46

M.510
Himmel Bild 47

M.511
Himmel Bild 48

M.512
Himmel Bild 49

M.513
Himmel Bild 50

M.514
Himmel Bild 51

M.515
Himmel Bild 52

M.516
Himmel Bild 53

M.517
Himmel Bild 54

M.518
Himmel Bild 55

M.519
Himmel Bild 56

M.520
Himmel Bild 57

M.521
Himmel Bild 58

M.522
Himmel Bild 59

M.523
Himmel Bild 60

M.524
Himmel Bild 61

M.525
Himmel Bild 62

M.526
Himmel Bild 63

M.527
Himmel Bild 64

M.528
Himmel Bild 65

M.529
Himmel Bild 66

油彩/キャンバス
45.5×53cm
2015

M.530
Himmel Bild 67

M.531
Himmel Bild 68

M.532
Himmel Bild 69

M.533
Himmel Bild 70

M.534
Himmel Bild 71

M.535
Himmel Bild 72

M.536
Himmel Bild 73

M.537
Himmel Bild 74

M.538
Himmel Bild 75

M.539
Himmel Bild 76

M.540
Himmel Bild 77

M.541
Himmel Bild 78

M.542
Himmel Bild 79

M.543
Himmel Bild 80

M.544
Himmel Bild 81

M.545
Himmel Bild 82

M.546
Himmel Bild 83

M.547
Himmel Bild 84

M.548
Himmel Bild 85

M.549
Himmel Bild 86

M.550
Himmel Bild 87

M.551
Himmel Bild 88

M.552
Himmel Bild 89

M.553
Himmel Bild 90

M.554
Himmel Bild 91

油彩/キャンバス
45.5×53cm
2015

M.555　TA・MSK－shuso
アクリル・油彩/綿布
80.5×196㎝（3枚組）
2016

M.556
V・MSK－sHuso1
アクリル・油彩/綿布
125×30㎝
2016

M.557
V・MSK－sHuso2

M.558　TA・KAZE2
アクリル・油彩/綿布
73×125㎝（2枚組）
2016

M.559　TA・Shuso1
アクリル・油彩/綿布
45.5×76㎝（2枚組）
2016

M.560　TA・Shuso2
アクリル・油彩/綿布
45.5×76㎝（2枚組）
2016

M.561　TA・Shuso3
アクリル・油彩/綿布
34.5×48.8㎝（2枚組）
2016

M.562　TA・Shuso4
アクリル・油彩/綿布
34.5×48.8㎝（2枚組）
2016

M.563　TA・Shuso5
アクリル・油彩/綿布
34.5×48.8㎝（2枚組）
2016

M.564　TA・Shuso6
アクリル・油彩/綿布
34.5×48.8㎝（2枚組）
2016

M.565　HimmmelBild92
油彩/キャンバス
45.5×53㎝
2017

M.566　TA・Koiga-Kubo
アクリル・油彩/綿布
182 ×890㎝（6枚組）
2017

M.567
Himmel Bild 83

M.568
Himmel Bild 84

M.569
Himmel Bild 85

M.570
Himmel Bild 86

M.571
Himmel Bild 87

M.572
Himmel Bild 88

M.573
Himmel Bild 89

M.574
Himmel Bild 90

M.575
Himmel Bild 91

M.576
Qf SHOH《掌》90・HOlz-16
アクリル・油彩/ 板
90 ×90cm
2018

M.577
V・20120809

M.578
V・20141021

アクリル・油彩/ キャンバス
164×31.8cm
2018

M.579
Himmel Bild 102

M.580
Himmel Bild 103

M.581
Himmel Bild 104

M.582
Himmel Bild 105

M.583
Himmel Bild 106

M.584
Himmel Bild 107

M.585
Himmel Bild 108

M.586
Himmel Bild 109

油彩/キャンバス
45.5×53cm
2018

M.587
Himmel Bild 110

M.588
Himmel Bild 111

M.589
Himmel Bild 112

M.590
Himmel Bild 113

M.591
Himmel Bild 114

M.592
Himmel Bild 115

M.593
Himmel Bild 116

M.594
Himmel Bild 117

M.595
Himmel Bild 115

M.596
Himmel Bild 116

M.597
Himmel Bild 117

M.598
Himmel Bild 118

油彩/キャンバス
45.5×53cm
2015

M.599
Qf SHOH《掌》90・HOlz-17
アクリル・油彩/ 板
90×90cm
2018

M.600
Qf SHOH《掌》90・HOlz-18（背）
アクリル・油彩/ 板
90×90cm
2018

オリジナルとの縮小比　1：62

７．絵画　作品データ

リスト：絵画　M1〜M600

	Title	Material	Size	Date
M1	神話の墓 B2	テンペラ・油彩／綿布	95×144㎝（4Panels）	1987
M2	神話の墓 B3	テンペラ・油彩／綿布	95×144㎝（3Panels）	1987
M3	神話の墓 B4	テンペラ・油彩／綿布	47×76㎝（2Panels）	1987
M4	神話の墓 B5	テンペラ・油彩／綿布	70×100㎝（2Panels）	1987
M5	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	85×18.5㎝	1987
M6	神話の墓 B6	テンペラ・油彩／綿布	180×360㎝（6Panels）	1987
M7	神話の墓 B6	テンペラ・油彩／綿布	75×126㎝（4Panels）	1987
M8	神話の墓 B7	テンペラ・油彩／綿布	65×170㎝（2Panels）	1987
M9	まだまだ遠くに居る人に	テンペラ・油彩／綿布	182.5×486㎝（8Panels）	1988-89
M10	TACHI-YURI	テンペラ・油彩／綿布	91.5×387㎝（12Panels）	1989
M11	トスカーナ・Toscana	テンペラ・油彩／綿布	62.5×137.5㎝（6Panels）	1989-90
M12	テル・エル・アマーナ・Tell el Amarna	テンペラ・油彩／綿布	62.5×137.5㎝（6Panels）	1989-90
M13	Shūsō	テンペラ・油彩／綿布	62.5×188㎝（8Panels）	1989-90
M14	スーズタール・Suzdal	テンペラ・油彩／綿布	91.5×257㎝（8Panels）	1989-90
M15	水府・Suifu IIa	テンペラ・油彩／綿布	91.5×120㎝	1990
M16	水府・Suifu IIb	テンペラ・油彩／綿布	91.5×122㎝（2Panels）	1990
M17	水府・Suifu	テンペラ・油彩／綿布	110×160㎝（4Panels）	1990
M18	Untitled a.b.c.d	テンペラ・油彩／綿布	each 60×45.5㎝	1990
M19	ノイ・イーゼンブルク・夏 New-Isenburg Summer	テンペラ・油彩／綿布	260.5×120.5㎝	1990
M20	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	170×77㎝（2Panels）	1990
M21	ウナスへの参道・Approach to Unas	テンペラ・油彩／綿布	260.5×245㎝（2Panels）	1980-90
M22	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	120×32.5㎝（2Panels）	1990
M23	葦舟・Ashifune	テンペラ・油彩／綿布	31.5×58㎝（2Panels）	1980-90
M24	ティ・マスタバ・Ti-mastaba	テンペラ・油彩／綿布	240×244㎝（2Panels）	1990
M25	ミケリノス・Mykerinos	テンペラ・油彩／綿布	220×190㎝（2Panels）	1990
M26	am Nil	テンペラ・油彩／綿布	182.5×391㎝（6Panels）	1990
M27	月夕・Gesseki	テンペラ・油彩／綿布	110×27㎝（2Panels）	1990
M28	Untitled a.b.c.d	テンペラ・油彩／綿布	each 60×45.5㎝	1990
M29	葦舟No2・Ashifune No.2	テンペラ・油彩／綿布	31.5×58㎝（2Panels）	1990
M30	im Wäldchen.	テンペラ・油彩／綿布	210×45㎝	1990
M31	Aziki for MR.	テンペラ・油彩／綿布	46×61㎝（2Panels）	1990
M32	Aziki for MR. No.2	テンペラ・油彩／綿布	46×61㎝（2Panels）	1990
M33	Aziki for MR. No.3	テンペラ・油彩／綿布	46×61㎝（2Panels）	1990
M34	Untitled	油彩／キャンバス	18×13㎝	1990
M35	Untitled	油彩／キャンバス	18×13㎝	1990
M36	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	91.5×27.5㎝	1990
M37	im Wäldchen No.2	テンペラ・油彩／綿布	25×17.5㎝	1991
M38	im Wäldchen No.3	テンペラ・油彩／綿布	25×17.5㎝	1991
M39	Aziki for MR. No.4	テンペラ・油彩／綿布	60×85㎝	1990
M40	Shūsō, No.2	テンペラ・油彩／綿布	25×35㎝（2Panels）	1991
M41	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	160×45㎝（2Panels）	1991
M42	Untitled	油彩／キャンバス	18×13㎝	1991
M43	Untitled	油彩／キャンバス	18×13㎝	1991
M44	Untitled	油彩／キャンバス	18×13㎝	1991
M45	Untitled	油彩／キャンバス	18×13㎝	1991
M46	Untitled	油彩／キャンバス	18×13㎝	1991
M47	Untitled	油彩／キャンバス	18×13㎝	1991
M48	Aki-No	テンペラ・油彩／綿布	160×524㎝（8Panels）	1991
M49	Naguri. No.1	テンペラ・油彩／綿布	183×111.5㎝	1991
M50	Aziki for MR. No.5	テンペラ・油彩／綿布	140×280㎝（2Panels）	1990
M51	Naguri. No.2	テンペラ・油彩／綿布	120×240㎝（4Panels）	1991
M52	Shūsō, No.3.a	テンペラ・油彩／綿布	120×270㎝（6Panels）	1991
M53	Shūsō, No.3.b	テンペラ・油彩／綿布	120×270㎝（2Panels）	1991
M54	Ti	テンペラ・油彩／綿布	160×280.5㎝（4Panels）	1991
M55	月夕・Gesseki No.2	テンペラ・油彩／綿布	170×75㎝（2Panels）	1991
M56	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	70×56㎝（2Panels）	1991

M57	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	70×56cm	1991
M58	im Wäldchen.No.4, Oktober	テンペラ・油彩／綿布	120×15cm	1991
M59	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	70×112cm（2Panels）	1991
M60	im Wäldchen.No.5, November	テンペラ・油彩／綿布	160×44cm（2Panels）	1991
M61	Koigakubo	テンペラ・油彩／綿布	53×129.5cm（6Panels）	1991-92
M62	P. C.	テンペラ・油彩／綿布	182.5×280.5cm（4Panels）	1991-92
M63	figure1.a	テンペラ・油彩／綿布	160×89cm（2Panels）	1991-92
M64	figure1.b	テンペラ・油彩／綿布	160×89cm（2Panels）	1991-92
M65	figure1.c	テンペラ・油彩／綿布	160×89cm（2Panels）	1991-92
M66	figure1.d	テンペラ・油彩／綿布	160×89cm（2Panels）	1991-92
M67	P. M	テンペラ・油彩／綿布	160×220cm（4Panels）	1991-92
M68	figure2.a	テンペラ・油彩／綿布	50×40cm	1992
M69	figure2.b	テンペラ・油彩／綿布	50×40cm	1992
M70	figure2.c	テンペラ・油彩／綿布	50×40cm	1992
M71	figure2.d	テンペラ・油彩／綿布	50×40cm	1992
M72	figure2.e	テンペラ・油彩／綿布	50×40cm	1992
M73	figure2.f	テンペラ・油彩／綿布	50×40cm	1992
M74	Koigakubo No.2.a	テンペラ・油彩／綿布	45.5×88cm（4Panels）	1992
M75	Koigakubo No.2.b	テンペラ・油彩／綿布	45.5×88cm（4Panels）	1992
M76	Koiga-kubo	テンペラ・油彩／綿布	182.5×890cm（12Panels）	1992-93
M77	Wolga, a	テンペラ・油彩／綿布	160×260cm（4Panels）	1993
M78	Wolga, b	テンペラ・油彩／綿布	160×260cm（2Panels）	1993
M79	Tief im Wald, No.1	テンペラ・油彩／綿布	180×188cm（2Panels）	1993
M82	Tief im Wald, No.2.a	テンペラ・油彩／綿布	180×45cm	1993
M83	Tief im Wald, No.2.b	テンペラ・油彩／綿布	180×45cm	1993
M84	Tief im Wald, No.2.c	テンペラ・油彩／綿布	180×45cm	1993
M85	Tief im Wald, No.2.d	テンペラ・油彩／綿布	180×45cm	1993
M86	Tief im Wald, No.2.e	テンペラ・油彩／綿布	180×45cm	1993
M87	Tief im Wald, No.2.f	テンペラ・油彩／綿布	180×45cm	1993
M88	Tief im Wald, No.2.g	テンペラ・油彩／綿布	180×45cm	1993
M89	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	80×80cm	1993
M90	Tief im Wald, No.3.a	テンペラ・油彩／綿布	60×60cm	1993
M91	Tief im Wald, No.3.b	テンペラ・油彩／綿布	60×60cm	1993
M92	Tief im Wald, No.3.c	テンペラ・油彩／綿布	60×60cm	1993
M93	Tief im Wald, No.3.d	テンペラ・油彩／綿布	60×60cm	1993
M94	Tief im Wald, No.4.a	テンペラ・油彩／綿布	45×45cm	1993
M95	Tief im Wald, No.4.b	テンペラ・油彩／綿布	45×45cm	1993
M96	Tief im Wald, No.4.c	テンペラ・油彩／綿布	45×45cm	1993
M97	Twigy 1	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M98	Twigy 2	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M99	Twigy 3	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M100	Twigy 4	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M101	Twigy 5	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M102	Twigy 6	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M103	Twigy 7	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M104	Twigy 8	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M105	Twigy 9	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M106	Twigy 10	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M107	Twigy 11	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M108	Twigy 12	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M109	Twigy 13	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M110	Twigy 14	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M111	Twigy 15	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M112	Twigy 16	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M113	Twigy 17	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M114	Twigy 18	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M115	Twigy 19	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M116	Twigy 20	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M117	Twigy 21	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M118	Twigy 22	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M119	Twigy 23	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M120	Twigy 24	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M121	Twigy 25	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993
M122	Twigy 26	テンペラ・油彩／綿布	30×30cm	1993

M123	Tief im Wald No.5	テンペラ・油彩／綿布	45×45cm	1993
M124	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	45×45cm	1993
M125	figure 3	テンペラ・油彩／綿布	60×184cm（4Panels）	1993
M126	figure 4	テンペラ・油彩／綿布	65×136cm（6Panels）	1993
M127	figure 5	テンペラ・油彩／綿布	60.5×146cm（2Panels）	1993
M128	f.p.F	テンペラ・油彩／綿布	72.7×91cm	1993
M129	f.p.S	テンペラ・油彩／綿布	72.7×91cm	1993
M130	f.p.H	テンペラ・油彩／綿布	72.7×91cm	1993
M131	f.p.W	テンペラ・油彩／綿布	72.7×91cm	1993
M132	Shuso, No4	テンペラ・油彩／綿布	92×254cm（4Panels）	1993
M133	figure. 6	テンペラ・油彩／綿布	62×89cm（4Panels）	1993
M134	figure. 7	テンペラ・油彩／綿布	30×60cm（2Panels）	1993-94
M135	figure. 8	テンペラ・油彩／綿布	30×60cm（2Panels）	1993-94
M136	figure. 9	テンペラ・油彩／綿布	30×60cm（2Panels）	1993-94
M137	figure. 10	テンペラ・油彩／綿布	30×60cm（2Panels）	1993-94
M138	figure. 11	テンペラ・油彩／綿布	30×60cm（2Panels）	1993-94
M139	figure. 12a	テンペラ・油彩／綿布	60×111cm（6Panels）	1993-94
M140	figure. 12b	テンペラ・油彩／綿布	60×111cm（6Panels）	1993-94
M141	figure. 13a	テンペラ・油彩／綿布	60×148cm（8Panels）	1993-94
M142	figure. 13b	テンペラ・油彩／綿布	60×148cm（8Panels）	1993-94
M143	figure. 13c	テンペラ・油彩／綿布	60×148cm（8Panels）	1993-94
M144	figure. 14	テンペラ・油彩／綿布	60×18.5cm	1993-94
M145	figure. 15	テンペラ・油彩／綿布	91.5×240cm（6Panels）	1994
M146	figure. 16	テンペラ・油彩／綿布	45×120cm（6Panels）	1994
M147	Landschaft	アクリル・テンペラ・油彩／Airtex	130×840cm（12Panels）	1994
M148	Hossawa-weiB	アクリル・油彩／綿布	182×335cm（4Panels）	1994-95
M149	Hossawa-Aki	テンペラ・油彩／綿布	182×361.5cm（6Panels）	1994-95
M150	Hossawa	油彩／綿布	220×91.5cm	1994-95
M151	TA to TA	テンペラ・油彩／綿布	182×700cm（8Panels）	1995
M152	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	35×113cm（3Panels）	1995
M153	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	35×113cm（3Panels）	1995
M154	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	35×70cm（2Panels）	1995
M155	Untitled	テンペラ・油彩／綿布	35×70cm（2Panels）	1995
M156	Waage·TA, a	テンペラ・油彩／綿布	220×640cm（8Panels）	1995
M157	Waage·TA, b	テンペラ・油彩／綿布	220×720cm（9Panels）	1995
M158	Waage·TA, c	テンペラ・油彩／綿布	220×480cm（6Panels）	1995
M159	Untitled	アクリル・油彩／綿布	20×17cm	1995
M160	Untitled	アクリル・油彩／綿布	20×17cm	1995
M161	Untitled	アクリル・油彩／綿布	13×13cm	1995
M162	Untitled	アクリル・油彩／綿布	20×20cm	1995-96
M163	Untitled	アクリル・油彩／綿布	13×13cm	1995-96
M164	Untitled	アクリル・油彩／綿布	20×17cm	1995-96
M165	Untitled	アクリル・油彩／綿布	20×20cm	1995-96
M166	Untitled	アクリル・油彩／綿布	13×13cm	1995-96
M167	Untitled	アクリル・油彩／綿布	20×17cm	1995-96
M168	M P	アクリル・油彩／綿布	13×26cm（2Panels）	1995-96
M169	Untitled	アクリル・油彩／綿布	20×17cm	1995-96
M170	Untitled	アクリル・油彩／綿布	45×36.5cm	1995-96
M171	Stephan	アクリル・油彩／綿布	200×229cm（3Panels）	1995-96
M172	Winter	アクリル・油彩／綿布	45×36.5cm	1995-96
M173	Jürgensen	アクリル・油彩／綿布	20×17cm	1995-96
M174	Lajta	アクリル・油彩／綿布	80×182cm（2Panels）	1995-96
M175	Schiller Platz	アクリル・油彩／綿布	200×50cm	1995-96
M176	Wien Zeile	アクリル・油彩／綿布	20×20cm	1995-96
M177	Untitled	アクリル・油彩／綿布	13×33cm（2Panels）	1995-96
M178	Untitled	アクリル・油彩／綿布	53×45.5cm	1996
M179	Stephan II	アクリル・油彩／綿布	220×91.5cm	1996
M180	Untitled	アクリル・油彩／綿布	27.5×22.3cm	1996
M181	Untitled	アクリル・油彩／綿布	27.5×22.3cm	1996
M182	Untitled	アクリル・油彩／綿布	27.5×22.3cm	1996
M183	Untitled	アクリル・油彩／綿布	53×45.5cm	1996
M184	Untitled	アクリル・油彩／綿布	53×45.5cm	1996
M185	Untitled	アクリル・油彩／綿布	73×60.2cm	1996
M186	Untitled	アクリル・油彩／綿布	73×60.2cm	1996

M187	Untitled	アクリル・油彩／綿布	27.5×22.3cm	1996
M188	Untitled	アクリル・油彩／綿布	27.5×22.3cm	1996
M189	Untitled	アクリル・油彩／綿布	27.5×22.3cm	1996
M190	Untitled	アクリル・油彩／綿布	73×60.2cm	1996
M191	Untitled	アクリル・油彩／綿布	60.2×73cm	1996
M192	Untitled	アクリル・油彩／綿布	13×13cm	1996
M193	Untitled	アクリル・油彩／綿布	20×20cm	1996
M194	Untitled	アクリル・油彩／綿布	13×13cm	1996
M195	TAAT	アクリル・油彩／綿布	160×750cm（12Panels）	1996
M196	TAAT, No2	アクリル・油彩／綿布	100×500cm（8Panels）	1996
M197	TAAT/im Wäldchen	アクリル・油彩／綿布	220×187cm（2Panels）	1996
M198	TAAT/im Wäldchen· α	アクリル・油彩／綿布	70×70cm	1996
M199	NA·KA·OH	アクリル・油彩／綿布	220×193cm（3Panels）	1996
M200	Nakaoh 1	アクリル・油彩／綿布	55×50cm	1996
M201	Nakaoh 2	アクリル・油彩／綿布	35×30cm	1996
M202	Nakaoh 3	アクリル・油彩／綿布	70×50cm	1996
M203	Nakaoh 4	アクリル・油彩／綿布	90×60cm	1996
M204	Nakaoh 5	アクリル・油彩／綿布	65×140cm（4Panels）	1996
M205	Nakaoh 6	アクリル・油彩／綿布	35×40cm	1996
M206	Nakaoh 7	アクリル・油彩／綿布	13×13cm	1996
M207	Nakaoh 8	アクリル・油彩／綿布	13×13cm	1996
M208	Nakaoh 9	アクリル・油彩／綿布	100×85cm	1996
M209	Nakaoh 10	アクリル・油彩／綿布	25×25cm	1996
M210	Nakaoh 11	アクリル・油彩／綿布	40×35cm	1996
M211	Nakaoh 12	アクリル・油彩／綿布	115×160cm（2Panels）	1996
M212	Nakaoh 13	アクリル・油彩／綿布	25×25cm	1996
M213	Nakaoh 14	アクリル・油彩／綿布	13×13cm	1996
M214	Untitled	アクリル・油彩／綿布	25×25cm	1996
M215	Untitled	アクリル・油彩／綿布	25×25cm	1996
M216	Untitled	アクリル・油彩／綿布	45.5×36cm	1996
M217	TAaT-a	アクリル・油彩／綿布	160×180cm（3Panels）	1997
M218	TAaT-b	アクリル・油彩／綿布	160×120cm（2Panels）	1997
M219	TAaT-c	アクリル・油彩／綿布	160×180cm（3Panels）	1997
M220	TAaT-d	アクリル・油彩／綿布	160×360cm（6Panels）	1997
M221	Untitled	アクリル・油彩／綿布	16×16cm	1997
M222	Untitled	アクリル・油彩／綿布	16×16cm	1997
M223	Untitled	アクリル・油彩／綿布	16×16cm	1997
M224	Untitled	アクリル・油彩／綿布	16×16cm	1997
M225	Untitled	アクリル・油彩／綿布	16×16cm	1997
M226	Untitled	アクリル・油彩／綿布	13×13cm	1997
M227	Untitled	アクリル・油彩／綿布	190×30cm	1997
M228	Untitled	アクリル・油彩／綿布	36×45cm	1997
M229	TAa·im Wäldchen	アクリル・油彩／綿布	30×342cm（2Panels）	1997
M230	Untitled	アクリル・油彩／綿布	20×20cm	1997
M231	Untitled	アクリル・油彩／綿布	20×20cm	1997
M232	Untitled	アクリル・油彩／綿布	36×45cm	1997
M233	Untitled	アクリル・油彩／綿布	20×20cm	1997
M234	TAa	アクリル・油彩／綿布	107×400cm（4Panels）	1997
M235	Untitled	アクリル・油彩／綿布	26×30cm	1997
M236	Untitled	アクリル・油彩／綿布	60×60cm	1997
M237	TAa・Erde 1	アクリル・油彩／綿布	80×60cm	1997
M238	TAa・Erde 2	アクリル・油彩／綿布	180×126cm	1997
M239	TAa・Erde	アクリル・油彩／綿布	200×184cm（2Panels）	1997
M240	Untitled	アクリル・油彩／綿布	45×40cm	1997
M241	Untitled	アクリル・油彩／綿布	50×50cm	1997
M242	Untitled	アクリル・油彩／綿布	21×60cm	1997
M243	NA·KA·OH II	アクリル・油彩／綿布	200×225cm（3Panels）	1997
M244	SA·MA	アクリル・油彩／綿布	41×364cm（2Panels）	1997
M245	Setsu	アクリル・油彩／綿布	70×60cm	1997
M246	Brugge	アクリル・油彩／綿布	120×90cm	1997
M247	yama 1	アクリル・油彩／綿布	13×13cm	1997
M248	waagechen 1	アクリル・油彩／綿布	15×50cm	1997
M249	waagechen 2	アクリル・油彩／綿布	15×50cm	1997
M250	waagechen 3	アクリル・油彩／綿布	15×50cm	1997

M251	waagechen 4	アクリル・油彩／綿布	15×50cm	1997
M252	waagechen 5	アクリル・油彩／綿布	15×50cm	1997
M253	waagechen 6	アクリル・油彩／綿布	15×50cm	1997
M254	waagechen 7	アクリル・油彩／綿布	15×50cm	1997
M255	waagechen 8	アクリル・油彩／綿布	15×50cm	1997
M256	waagechen 9	アクリル・油彩／綿布	15×50cm	1997
M257	waagechen 10	アクリル・油彩／綿布	15×50cm	1997
M258	yama 2	アクリル・油彩／綿布	30×36cm	1998
M259	Yama 1	アクリル・油彩／綿布	245×130cm	1998
M260	ta·KK·ei	アクリル・油彩／綿布	244×354cm（3Panels）	1998
M261	ta·KK·ei 1	アクリル・油彩／綿布	220×335cm（3Panels）	1998
M262	ta·KK·ei 2	アクリル・油彩／綿布	200×180cm	1998
M263	TA·ENTJI	アクリル・油彩／綿布	180×630cm（10Panels）	1998
M264	TA·ENTJI 1	アクリル・油彩／綿布	35×245cm	1998
M265	TA·ENTJI 2	アクリル・油彩／綿布	60×60cm	1998
M266	Yama 2	アクリル・油彩／綿布	245×35cm	1999
M267	TAat-d’	アクリル・油彩／綿布	160×120cm（2Panels）	1999
M268	Arthursseatar 1	アクリル・油彩／板	20×8.6cm	1999
M269	Arthursseatar 2	アクリル・油彩／板	20×76cm（２枚組）	1999
M270	Arthursseatar 3	アクリル・油彩／板	20×32.5cm（２枚組）	1999
M271	Arthursseatar 4	アクリル・油彩／板	20×40.2cm（２枚組）	1999
M272	Arthursseatar 5	アクリル・油彩／板	20×53.5cm（３枚組）	1999
M273	Arthursseatar 6	アクリル・油彩／板	20×32cm（２枚組）	1999
M274	Arthursseatar 7	アクリル・油彩／板	20×53cm（２枚組）	1999
M275	Arthursseatar 8	アクリル・油彩／板	20×40.5cm（２枚組）	1999
M276	Arthursseatar 9	アクリル・油彩／板	20×58.3cm（２枚組）	1999
M277	Arthursseatar 10	アクリル・油彩／板	20×40.8cm（２枚組）	1999
M278	Arthursseatar 11	アクリル・油彩／板	20×50.8cm	1999
M279	Arthursseatar 12	アクリル・油彩／板	20×20.2cm	1999
M280	Arthursseatar 13	アクリル・油彩／板	45×10.5cm	1999
M281	Arthursseatar 14	アクリル・油彩／板	78×25cm	1999
M282	ARTH・UR・S・SE・ATAR			
	(ARTH)	アクリル・油彩／綿布	180×248cm（４枚組）	1999
	(UR)	アクリル・油彩／綿布	180×170cm（２枚組）	1999
	(S)	アクリル・油彩／綿布	70×70cm	1999
	(SE)	アクリル・油彩／綿布	150×115cm（２枚組）	1999
	(ATAR)	アクリル・油彩／綿布	150×248cm（４枚組）	1999
M283	無題	アクリル・油彩／綿布	14×18cm	2000
M284	無題	アクリル・油彩／綿布	14×18cm	2000
M285	twigy 8	アクリル・油彩／綿布	30×30cm	2000
M286	magino 1	アクリル・油彩／綿布	125×603cm（４枚組）	2000
M287	magino 2	アクリル・油彩／綿布	260×70cm/260×30cm	2000
M288	magino 3	アクリル・油彩／綿布	160×160cm	2000
M289	magino 4	アクリル・油彩／綿布	15×15cm	2000
M290	magino 5	アクリル・油彩／綿布	15×15cm	2000
M291	magino 6	アクリル・油彩／綿布	15×15cm	2000
M292	magino 7	アクリル・油彩／綿布	15×15cm	2000
M293	magino 8	アクリル・油彩／綿布	260×30cm	2000
M294	TA·MA UNOU H1 1-1	アクリル・油彩／綿布	180×600cm（８枚組）	2001
M295	TA·MA UNOU H1 1-2	アクリル・油彩／綿布	200×38cm	2001
M296	TA·MA UNOU H1 1-3	アクリル・油彩／綿布	200×15cm	2001
M297	TA·MA UNOU H1 1-4	アクリル・油彩／綿布	200×50cm	2001
M298	TA·MA UNOU H1 II	アクリル・油彩／綿布	280×600cm	2001
M299	mag-ino 1	アクリル・油彩／綿布	110×500cm（４枚組）	2001
M300	mag-ino 2	アクリル・油彩／綿布	62.5×724cm（４枚組）	2001
M301	mag-ino 3	アクリル・油彩／綿布	220×220cm（２枚組）	2001
M302	mag-ino 4	アクリル・油彩／綿布	220×220cm（２枚組）	2001
M303	mag-ino 5	アクリル・油彩／綿布	260×25cm	2001
M304	mag-ino 6	アクリル・油彩／綿布	125×125cm	2001
M305	mag-ino 7	アクリル・油彩／綿布	60×90cm	2001
M306	mag-ino 8	アクリル・油彩／綿布	13×13cm	2001
M307	Quadrat/full 1	アクリル・油彩／綿布	160×160cm	2001
M308	Quadrat/full 2	アクリル・油彩／綿布	160×160cm	2001
M309	Quadrat/full 3	アクリル・油彩／綿布	160×160cm	2001

M310	quadratfull 1	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M311	quadratfull 2	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M312	quadratfull 3	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M313	quadratfull 4	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M314	quadratfull 5	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M315	quadratfull 6	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M316	quadratfull 7	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M317	quadratfull 8	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M318	quadratfull 9	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M319	quadratfull 10	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M320	quadratfull 11	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M321	quadratfull 12	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M322	quadratfull 13	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M323	quadratfull 14	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M324	quadratfull 15	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M325	quadratfull 16	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M326	quadratfull 17	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M327	quadratfull 18	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M328	quadratfull 19	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M329	quadratfull 20	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M330	quadratfull 21	アクリル・油彩／板	25×25cm	2001
M331	水府/HAND	テンペラ・油彩／綿布	110×160cm（４枚組）	1990/2002
M332	TA·SHOH〈掌〉	アクリル・油彩／綿布	220×1757cm（14枚組）	2003
M333	TA·SHOH〈掌〉1	アクリル・油彩／綿布	160×160cm	2003
M334	TA·SHOH〈掌〉2	アクリル・油彩／綿布	160×160cm	2003
M335	h·SHOH	アクリル・油彩／綿布	190×30cm／ 200×50cm	2003
M336	Qf·SHOH 220	アクリル・油彩／綿布	220×220cm	2003
M337	Qf·SHOH 220	アクリル・油彩／綿布	220×220cm	2003
M338	TA·TSUMAALI	アクリル・油彩／綿布	150×800cm（８枚組）	2004
M339	Tsumari 1	アクリル・油彩／綿布	245×45cm	2004
M340	Tsumari 2	アクリル・油彩／綿布	80×70cm	2004
M341	Tsumari 3	アクリル・油彩／綿布	80×70cm	2004
M342	TAAT/im Waldechen 1	アクリル・油彩／綿布	157×244cm（２枚組）	2005
M343	TAAT/im Waldechen 2	アクリル・油彩／綿布	67×67cm	2005
M344	ta·KK·ei 2	アクリル・油彩／綿布	167×157cm	2005
M345	Qf·SHOH 150- Ⅰ	アクリル・油彩／綿布	167×157cm	2005
M346	Qf·SHOH 150- Ⅱ	アクリル・油彩／綿布	167×157cm	2005
M347	Qf·SHOH 150-Ⅲ	アクリル・油彩／綿布	167×157cm	2005
M348	Qf·SHOH 150-Ⅳ	アクリル・油彩／綿布	167×157cm	2005
M349	Qf·SHOH 150- Ⅴ	アクリル・油彩／綿布	167×157cm	2005
M350	Qf·SHOH 150-Ⅵ	アクリル・油彩／綿布	167×157cm	2005
M351	Quadratfull 35- Ⅰ	アクリル・油彩／綿布	35×35cm	2005
M352	Quadratfull 35- Ⅱ	アクリル・油彩／綿布	35×35cm	2005
M353	Quadratfull 35-Ⅲ	アクリル・油彩／綿布	35×35cm	2005
M354	Quadratfull 35-Ⅳ	アクリル・油彩／綿布	35×35cm	2005
M355	Quadratfull 35- Ⅴ	アクリル・油彩／綿布	35×35cm	2005
M356	Quadratfull 35-Ⅵ	アクリル・油彩／綿布	35×35cm	2005
M357	TA·Ecke 1	アクリル・油彩／綿布	27.5×44cm（２枚組）	2005
M358	TA·Ecke 2	アクリル・油彩／綿布	27.5×44cm（２枚組）	2005
M359	TA・kaze	アクリル・油彩／綿布	60.5×146cm（２枚組）	2005
M360	Qf·SHOH 160	アクリル・油彩／綿布	160×160cm	2005
M361	Qf·SHOH 150 Ⅲop	アクリル・油彩／綿布	150×150cm	2005/2006
M362	TA·KOHJINYAMA	アクリル・油彩／綿布	160×800cm（10枚組）	2006
M363	kohjinyama 1	アクリル・油彩／綿布	45.5×38cm	2006
M364	kohjinyama 2	アクリル・油彩／綿布	45.5×38cm	2006
M365	magino 4	アクリル・油彩／綿布	15×15cm	2007
M366	figure 07.1	アクリル・油彩／綿布	40×40cm	2007
M367	figure 07.2	アクリル・油彩／綿布	40×40cm	2007
M368	figure 07.3	アクリル・油彩／綿布	40×40cm	2007
M369	TA·Tsumari for MR	アクリル・油彩／綿布	90×180cm	2007
M370	TA·OHNITA	アクリル・油彩／綿布	150×600cm（６枚組）	2007
M371	Yoshikawa-Sugi	アクリル・油彩／綿布	180×75cm	2007
M372	Yoshikawa-Kaede 1	アクリル・油彩／綿布	45.5×38cm	2007
M373	Yoshikawa-Kaede 2	アクリル・油彩／綿布	45.5×38cm	2007

M374	葦舟 2 op	アクリル・油彩／綿布	31.5×58㎝	2007
M375	twigy 07.1	アクリル・油彩／綿布	30×30㎝	2007
M376	Tief im Wald 08.1	アクリル・油彩／綿布	170×44㎝（２枚組）	2008
M377	TA·KY OB AS HI	アクリル・油彩／綿布	150×1030㎝（８枚組）	2008
M378	kyobashi 1	アクリル・油彩／綿布	200×160㎝	2008
M379	kyobashi 2	アクリル・油彩／綿布	200×160㎝	2008
M380	kyobashi 3	アクリル・油彩／綿布	33.5×24.2㎝	2008
M381	kyobashi 4	アクリル・油彩／綿布	33.5×24.2㎝	2008
M382	kyobashi 5	アクリル・油彩／綿布	33.5×24.2㎝	2008
M383	kyobashi 6	アクリル・油彩／綿布	33.5×24.2㎝	2008
M384	TA·Ohnita-a	アクリル・油彩／綿布	70×100㎝	2008
M385	TA·Ohnita-b	アクリル・油彩／綿布	70×100㎝	2008
M386	TA·Ohnita-c	アクリル・油彩／綿布	70×100㎝	2008
M387	im Wald op 4	アクリル・油彩／綿布	182×75㎝	2008
M388	im Wald op 5	アクリル・油彩／綿布	182×75㎝	2008
M389	im Wald op 6	アクリル・油彩／綿布	182×75㎝	2008
M390	im Wald op 7	アクリル・油彩／綿布	182×75㎝	2008
M391	TAaT-d op	アクリル・油彩／綿布	160×360㎝（６枚組）	2009
M392	im Wald op 1	アクリル・油彩／綿布	182×45㎝	2009
M393	im Wald op 2	アクリル・油彩／綿布	182×45㎝	2009
M394	im Wald op 3	アクリル・油彩／綿布	182×45㎝	2009
M395	TA·Chi-Sat Vorbild	アクリル・油彩／綿布	106×91.5㎝	2009
M396	TA·Chi-Sat	アクリル・油彩／綿布	250×220㎝（２枚組）	2009
M397	TA·Chisato	アクリル・油彩／綿布	50×90.5㎝/50×180㎝（２枚組）	2009
M398	Qf·SHOH 90 Holz 1	アクリル・油彩／板	90×90㎝	2009
M399	Qf·SHOH 90 Holz 2	アクリル・油彩／板	90×90㎝	2009
M400	Qf·SHOH 90 Holz 3	アクリル・油彩／板	90×90㎝	2009
M401	Qf·SHOH 145	アクリル・油彩／綿布	145×145×9.2㎝	2009
M402	quadratfull 25	アクリル・油彩・ペンキ／板	25×25㎝	2009
M403	quadratfull 25	アクリル・油彩・ペンキ／板	25×25㎝	2009
M404	quadratfull 25	アクリル・油彩・ペンキ／板	25×25㎝	2009
M405	quadratfull 25	アクリル・油彩・ペンキ／板	25×25㎝	2009
M406	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M407	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M408	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M409	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M410	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M411	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M412	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M413	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M414	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M415	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M416	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M417	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M418	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M419	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M420	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M421	quadratfull 30	アクリル・油彩・ペンキ／板	30×30㎝	2009
M422	TA·MAGI N	アクリル・油彩／板	47×406㎝（４枚組）	2010
M423	TA·MADA	アクリル・油彩／板	72.5×125㎝（２枚組）	2010
M424	lily-a	アクリル・油彩／板	50×50㎝	2010
M425	lily-b	アクリル・油彩／板	50×50㎝	2010
M426	lily-c	アクリル・油彩／板	50×50㎝	2010
M427	wisteria	アクリル・油彩／板	40×30㎝	2010
M428	TA·TARO	アクリル・油彩／板	150×250㎝（４枚組）	2010
M429	TA·UEDA	アクリル・油彩／板	90×600㎝（４枚組）	2010
M430	TA·Kohjinyama	アクリル・油彩／綿布	70×320㎝（４枚組）	2010
M431	TA·Sui-Kei	アクリル・油彩／綿布	90×260㎝（２枚組）	2010
M432	Qf SHOH《掌》90・Holz-1	アクリル・油彩／板	90×90㎝	2011
M433	Qf SHOH《掌》90・Holz-2	アクリル・油彩／板	90×90㎝	2011
M434	Qf SHOH《掌》90 ／ HO12-3	アクリル・油彩／板	90×90㎝	2011
M435	Qf SHOH《掌》90 ／ HO12-4	アクリル・油彩／板	90×90㎝	2011
M436	TA・TARO Ⅱ	アクリル・油彩／綿布	200×500㎝（4枚組）	2011
M437	TA・TARO Ⅲ	アクリル・油彩／綿布	65.5×80.5㎝	2011

M438	PH-C	アクリル・油彩／板	34×34cm	2011
M439	PH-d	アクリル・油彩／板	34×34cm	2011
M440	PH-a	アクリル・油彩／板	34×34cm	2011
M441	PH- b	アクリル・油彩／板	34×34cm	2011
M442	PH-e	アクリル・油彩／板	34×34cm	2011
M443	PH-f	アクリル・油彩／板	34×34cm	2011
M444	V・Nishihara	アクリル・油彩／綿布	150×100cm（2枚組）	2011-12
M445	Stephan2012	アクリル・油彩／綿布	300×100cm	2012
M446	V・Misogihagi 1（M83 OP）	テンペラ・アクリル・油彩／綿布	182×45cm	2013
M447	V・Misogihagi 2（M80 OP）	テンペラ・アクリル・油彩／綿布	182×45cm	2013
M448	V・Misogihagi 3（M84 OP）	テンペラ・アクリル・油彩／綿布	182×45cm	2013
M449	V・Misogihagi 4（M87 OP）	テンペラ・アクリル・油彩／綿布	182×45cm	2013
M450	Qf SHOH《掌》90・HOlz-5	アクリル・油彩／綿布	90×90cm	2013
M451	Himmel Bild 1	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M452	Himmel Bild 2	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M453	Himmel Bild 3	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M454	Himmel Bild 4	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M455	Himmel Bild 5	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M456	Himmel Bild 6	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M457	Himmel Bild 7	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M458	Himmel Bild 8	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M459	Himmel Bild 9	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M460	Himmel Bild 10	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M461	Himmel Bild 11	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M462	Himmel Bild 12	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M463	Himmel Bild 13	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M464	Himmel Bild 14	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M465	Himmel Bild 15	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M466	Himmel Bild 16	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M467	Himmel Bild 17	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M468	Himmel Bild 18	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M469	Himmel Bild 19	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M470	Himmel Bild 20	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M471	Himmel Bild 21	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M472	Himmel Bild 22	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M473	Himmel Bild 23	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M474	Himmel Bild 24	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M475	Himmel Bild 25	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M476	Himmel Bild 26	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M477	Himmel Bild 27	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M478	Himmel Bild 28	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M479	Himmel Bild 29	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M480	Himmel Bild 30	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M481	Himmel Bild 31	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M482	Himmel Bild 32	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M483	Himmel Bild 33	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M484	Himmel Bild 34	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M485	Himmel Bild 35	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M486	Himmel Bild 36	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M487	Himmel Bild 37	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M488	Himmel Bild 38	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M489	Himmel Bild 39	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M490	Himmel Bild 40	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M491	Himmel Bild 41	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M492	Himmel Bild 42	油彩／キャンバス	45.5×53cm	2013
M493	Qf SHOH《掌》90・HOlz-6	アクリル・油彩／板	90×90cm	2014
M494	Qf SHOH《掌》90・HOlz-7	アクリル・油彩／板	90×90cm	2014
M495	Qf SHOH《掌》90・HOlz-8	アクリル・油彩／板	90×90cm	2014
M496	Qf SHOH《掌》90・HOlz-9	アクリル・油彩／板	90×90cm	2014
M497	Qf SHOH《掌》90・HOlz-10	アクリル・油彩／板	90×90cm	2014
M498	Qf SHOH《掌》90・HOlz-11	アクリル・油彩／板	90×90cm	2014
M499	Qf SHOH《掌》90・HOlz-12	アクリル・油彩／板	90×90cm	2014
M500	Qf SHOH《掌》90・HOlz-13	アクリル・油彩／板	90×90cm	2014
M501	Qf SHOH《掌》90・HOlz-14	アクリル・油彩／板	90×90cm	2014

M502	Qf SHOH《掌》90・HOlz-15	アクリル・油彩／板	90×90㎝	2014
M503	TA・KO MO RO	アクリル・油彩／綿布	175×1300㎝（6枚組）	2014
M504	TA・KO MO RO 2	アクリル・油彩／綿布	53×475㎝（6枚組）	2014
M505	TA・ASAM	アクリル・油彩／綿布	200×400㎝（4枚組）	2014
M506	HimmelBild 43	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M507	HimmelBild 44	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M508	HimmelBild 45	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M509	HimmelBild 46	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M510	HimmelBild 47	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M511	HimmelBild 48	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M512	HimmelBild 49	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M513	HimmelBild 50	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M514	HimmelBild 51	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M515	HimmelBild 52	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M516	HimmelBild 53	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M517	HimmelBild 54	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M518	HimmelBild 55	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M519	HimmelBild 56	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M520	HimmelBild 57	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M521	HimmelBild 58	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M522	HimmelBild 59	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M523	HimmelBild 60	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M524	HimmelBild 61	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M525	HimmelBild 62	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M526	HimmelBild 63	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M527	HimmelBild 64	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M528	HimmelBild 65	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M529	HimmelBild 66	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M530	HimmelBild 67	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M531	HimmelBild 68	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M532	HimmelBild 69	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M533	HimmelBild 70	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M534	HimmelBild 71	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M535	HimmelBild 72	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M536	HimmelBild 73	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M537	HimmelBild 74	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M538	HimmelBild 75	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M539	HimmelBild 76	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M540	HimmelBild 77	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M541	HimmelBild 78	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M542	HimmelBild 79	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M543	HimmelBild 80	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M544	HimmelBild 81	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M545	HimmelBild 82	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M546	HimmelBild 83	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M547	HimmelBild 84	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M548	HimmelBild 85	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M549	HimmelBild 86	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M550	HimmelBild 87	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M551	HimmelBild 88	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M552	HimmelBild 89	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M553	HimmelBild 90	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M554	HimmelBild 91	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2015
M555	TA・MSK－shuso	アクリル・油彩／綿布	80.5×196㎝（3枚組）	2016
M556	V・MSK－shuso1	アクリル・油彩／綿布	125×30㎝	2016
M557	V・MSK－shuso2	アクリル・油彩／綿布	125×30㎝	2016
M558	TA・KAZE2	アクリル・油彩／綿布	73×125㎝（2枚組）	2016
M559	TA・Shuso 1	アクリル・油彩／綿布	45.5×76㎝（2枚組）	2016
M560	TA・Shuso 2	アクリル・油彩／綿布	45.5×76㎝（2枚組）	2016
M561	TA・Shuso 3	アクリル・油彩／綿布	34.5×48.8㎝（2枚組）	2016
M562	TA・Shuso 4	アクリル・油彩／綿布	34.5×48.8㎝（2枚組）	2016
M563	TA・Shuso 5	アクリル・油彩／綿布	34.5×48.8㎝（2枚組）	2016
M564	TA・Shuso 6	アクリル・油彩／綿布	34.5×48.8㎝（2枚組）	2016
M565	HimmmelBild 92	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2017

M566	TA・Koiga-Kubo	アクリル・油彩／綿布	182.5×890㎝（6枚組）	2017
M567	HimmmelBild 93	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2017
M568	HimmmelBild 94	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2017
M569	HimmmelBild 95	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2017
M570	HimmmelBild 96	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2017
M571	HimmmelBild 97	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2017
M572	HimmmelBild 98	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2017
M573	HimmmelBild 99	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2017
M574	HimmmelBild 100	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2017
M575	HimmmelBild 101	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2017
M576	Qf SHOH《掌》90・HOlz-16	アクリル・油彩／板	90×90㎝	2018
M577	V・20120809	アクリル・油彩／キャンバス	164×31.8㎝	2018
M578	V・20141021	アクリル・油彩／キャンバス	164×31.8㎝	2018
M579	HimmelBild 102	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M580	HimmelBild 103	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M581	HimmelBild 104	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M582	HimmelBild 105	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M583	HimmelBild 106	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M584	HimmelBild 107	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M585	HimmelBild 108	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M586	HimmelBild 109	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M587	HimmelBild 110	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M588	HimmelBild 111	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M589	HimmelBild 112	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M590	HimmelBild 113	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M591	HimmelBild 114	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M592	HimmelBild 115	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M593	HimmelBild 116	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M594	HimmelBild 117	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M595	HimmelBild 118	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M596	HimmelBild 119	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M597	HimmelBild 120	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M598	HimmelBild 121	油彩／キャンバス	45.5×53㎝	2018
M599	Qf SHOH《掌》90・HOlz-17	アクリル・油彩／板	90×90㎝	2018
M600	Qf SHOH《掌》90・HOlz-18（背）	アクリル・油彩／板	90×90㎝	2018

８．対談　「母袋俊也（画家・東京造形大学教授）＋金井直（美術史家・信州大学教授）」

対談１：2016年1月28日（木）信州大学人文学部

対談２：2018年11月14日（水）東京造形大学

８－１　母袋俊也（画家・東京造形大学教授）×金井直（美術史家・信州大学准教授）

「母俊也レクチャー＋対談」信州大学人文学部芸術論講義９　信州大学人文学部311実習室　2016年1月28日(木)

はじめに

◆金井　それでは、芸術論講義９の特別授業をはじめます。講師は東京造形大の教授で、画家の母袋俊也さんです。どうぞよろしくお願いいたします。

◆母袋　どうぞよろしくお願いいたします。

◆金井　さて、授業との関連で申し上げますと、ここまで戦後の日本の美術を振り返り、インスタレーション以降、今日の展開まで概観してきました。そのなかで絵を描くということがそれほど自明ではなくなった時代があるというお話をしました。おそらく1960年代後半から1970年代にかけての、アートにおける地殻変動です。そういった時期を実際間近に感じながら、しかし絵を描くということにこだわり抜いておられる、画家としての自己の立場を貫いておられる母袋さんのお話を今日はうかがいます。

まずは、母袋先生のご活動の紹介からはじめて、そこから話を広げていければと思います。よろしくお願いします。

絵画性―〈絵画〉／〈絵画のための見晴らし小屋〉

◆母袋　よろしくお願いいたします。改めまして、今金井先生からご紹介いただきましたけれども、僕は東京造形大学の教員ではありますが、まず第一義的には、自分自身のアイデンティティとしては絵描きであるという風に考えています。ですから、画家であって、東京造形大学絵画専攻というところで教員をしている、というように自分自身は位置づけています。

では、画家とは一体なんなのか？　ということになると思いますし、画家が制作する絵画というものは、果たしてどういうものなのかということになると思いますけれど、今金井さんがおっしゃられたように、今すでに21世紀になっていますけれども20世紀後半、21世紀前半、我々の世紀というのは、必ずしも絵画が美術において、あるいは文化においても中心的な役割を果たしているわけではないということは、僕も十分承知をしているんですね。では、その中で絵画を制作する、絵画を追究するというのはどういうことなのかということだと思うんですけれども。時代区分で言うと、今は現代というよりもポスト現代という時代だと思うのですが、そのポスト現代という時代の中にあって、言ってみれば伝統工芸のようにも一見思えるような絵画というものの可能性を僕は持っている、あるいは、可能性を確信している、あるいは、確信したいということで絵画を制作しています。ただ、僕が絵画と呼ぶのは、絵画そのものだけではなく、絵画性、言ってみると絵画の持つ特性というものそのものが絵画なのではないだろうかと思って制作をしています。

金井さんとの対話の中でもそのようなことに触れることができればいいかなと思っています。

僕が絵画を制作している、あるいは絵画性と言っているわけですけれども、今ホームページ（註1）の表紙が映っています。特徴的なフォーマートの絵画作品のインスタレーシ

註1　母袋俊也 official website
http：//www.toshiya-motai.com/

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

ョンがループで流れてますが、絵ではなく、風景に小屋の写真が含まれていることからもわかるように、僕は絵だけを描いているわけではなく、〈見晴らし小屋〉という実際の小屋を建てているのです。これはさまざまな異なったフォーマートの窓で風景を切り取る〈絵画のための見晴らし小屋〉というシリーズになります。これは、しいていえば建築に近いようなものかもしれませんけれども、その小屋の窓をとおした外界との関係、僕がフォーマートと呼ぶ縦横の比率が横長なのか、縦長なのか、正方形なのかというフォーマートと表現の対象の問題、絵画の現れる位置、場の問題などの「絵画」「絵画性」というものを考えるための体験装置として制作しているんですね。

その画面の比率が、絵画に込められるメッセージ、精神性とどのような関わりを持っているのか、「絵画における精神性とフォーマートの相関」が僕の最も重要なテーマになっています。

ところで、いつから絵画は、矩形であるという風に思われているのでしょうか？　ここでは深く触れませんがとても関心のあるところです。これは美術史にとってすごく重要なことだと思うのですけれども、いずれにしても、絵画は水平と垂直の四角で画面が作られているとされているわけですね。それはきっと絵画の発生と関係すると思われるのです。洞窟画は別として、それは石造、木造を問わず垂直と水平による組み立てが軸になる建造物と関連していると僕は考えるのです。西洋は教会内の壁画、日本では襖、屏風が絵画の描かれる場としてあったのですから、自ずと水平と垂直となる……。

〈絵画のための見晴らし小屋〉は、建物の中に窓が切り取られていて、その窓で風景が切り取られている。それがあたかも絵画作品を見るかのように、絵を見ていくことができるわけですね。絵画というのは、描かれたアトリエを離れ、運搬、例えば白い壁に包まれた特権的で特別な場に移動させていくことが可能なのですが。それに対して、この〈見晴らし小屋〉の場合は、むしろ場所はここに固定されていて、窓から見えるこの風景、切り取られた光景、外界の風景が季節や天候とともに変化をとげます。ですから、一切僕はこの矩形の中には手を加えることなく、環境が変わることによって、異なった絵のようになっていくということですよね。これが〈絵画のための見晴らし小屋〉の装置になります。

フォーマート 4つの系列　〈TA 系〉〈バーティカル〉〈Qf系〉〈奇数連携〉

註2, 3, 4, 5　〈TA系〉〈バーティカル〉〈奇数連携〉〈Qf系〉
母袋絵画4 系統のカテゴリー。参考資料A「母袋　絵画カテゴリー」(「母袋俊也　絵画　マトリックス」(『東京造形大学研究報』12号、p.94〜95、2011年)

図1　M151　TAtoTA　182×700cm（8枚組）1995

図2　M171　Stephan　200×220cm（3枚組）1996

ペインティング・絵画作品は、〈TA 系〉(註2)、〈バーティカル〉(註3)、〈Qf系〉(註4)、〈奇数連携〉(註5)という大きく４つの系で展開されています。

〈TA 系〉が、中心的な作品系になるのですが、それは複数のパネルが横に連続されることによって横長の一つの大きな画面を作るという仕事です。ほとんどの場合偶数組で制作されています。これら〈TA 系〉(図1) は、日本の障屏画をモデルとして制作が進められてきているのですが、障屏画は単一画面ではなく複数のパネルの組み合わせによっているわけですが、ほとんど偶数連結になっている。そこがポイントなのです。

というのは、日本のふすまとか屏風は、壁であると同時に開閉自在な家具でもあり、その収納機能から偶数であることが条件付けられていた。それを媒体として絵を描くという命題を日本の絵画に与えたのだったのです。それは画面中心に最も重要なものを配置することを許さず、結果、中心性を持たない装飾性に特徴を有す絵画が生成されていったのではないか。というのが僕の考えなんです。横長フォーマートと風景の中に見られる水平性の問題からか、近年は〈絵画のための見晴らし小屋〉と連動して制作されることが多いですね。

それに対して〈奇数連携〉(図2)、これはヨーロッパの祭壇画などに見られるような中

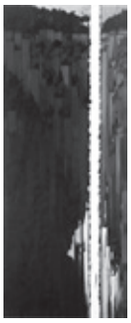


図3　M150　Hossawa
220×91.5㎝　1995

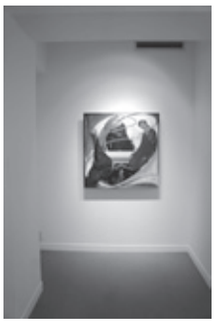


図4　M502　Qf SHOH90・Holz15
2014

心に重要なものを配し、左右に副次的なものを配していくという方法なんですね。こちらは伝統的な西洋の絵画の形態をモデルにしているもので、95年から〈TA 系〉と対峙的に始まられたのですが、中心性問題は後ほど説明する垂直にも水平にも中心を持つ〈Qf 系〉に吸収されすすめられているという感じです。

こちらは、こちらは縦長のフォーマート〈バーティカル〉（図3）ですね。極端に縦に伸ばされている作品で断続的に制作されています。

それらとは別に、正方形の仕事もしています。これは〈Qf系〉（図4）というシリーズ、これは2001年から始めてきていて、もう10年以上経つんですけれども、さまざまなものを統合していくという形でかなり複雑な絵の成り立ち方をしていまして、今もってまだ完成型が定まっていないというか更新され続けている。僕にとっては、最も重要なテーマになっていくシリーズだと位置づけ、さまざまな課題が投入されて生成され続けているという仕事です。

以上が、僕の仕事の概略になります。これらについては、また時間をかけて話せればいいかなと思っています。ただ、今日はもともと芸術論講義ということで、日本現代美術史というようなことがサブのタイトルになっているということですので、むしろ僕の時代的な流れも含めて、捉え直すことができるとおもしろいかなという風に思っています。

先ほど配布した資料、バイオグラフィにもあるんですけれども、僕は1954年に長野県の生まれです。なので、戦後美術史ということでいうと、戦後間もない時期、10年後ぐらいに生まれているということです。

造形大学出身なんですけれども、在籍したのは74年から78年になりますね。そして少しブランクがあるんですけれども、1983年から87年までドイツのフランクフルトの美術大学、シューテーデルシューレといいますけれども、そこに留学をしていました。留学を終えて日本に帰国したのが87年なんですけれども、87年の12月の本当の暮れに帰ってきていますので、88年から再び日本で制作活動をしているということになります。

それと、日本の現代美術の文脈と、僕の展開がどういう風に関わってきたかというようなことを後ほど金井さんとお話できればいいかなと思っています。大まかにバイオグラフィはこのような形になります。それでは具体的に最近の作品の動画（註6）を見て頂きながら、話をすすめられればと思います。

註6　母袋俊也展　市立小諸高原美術館
https://www.youtube.com/watch?v=lxP_JoEHpn8

小諸高原美術館での試み

これは2014年に小諸、長野県ですので、みなさんご存じの小諸ですが、市立小諸高原美術館での個展（註7）の動画になります。この展覧会では美術館の外に拡がる浅間山の稜線を切り取る六角形の〈見晴らし小屋〉の構想のもと、仮設の〈見晴らし小屋〉《仮構・絵画のための見晴らし小屋KOMORO》（図5）を仮設置、一年間の取材を経て13mの絵画《TA・KO MO RO》を制作、展示したものです。展覧会タイトルは、「母袋俊也　絵画《TA・KO MO RO》《仮構・絵画のための見晴らし小屋KOMORO》－仮想の見晴らし小屋から浅間を切り取る－」です。

註7 「母袋俊也　絵画《TA・KO MO RO》《仮構・絵画のための見晴らし小屋KOMORO》―仮想の見晴らし小屋から浅間を切り取る―」展
2014年6月20日（金）－7月21日（日）
市立小諸高原美術館
『東京造形大学研究報』17号、p.5～59、2016年に詳しい。

図5　仮構・見晴らし小屋KOMORO　2014

展示室にインスタレーションとして展示してあるのが、《仮構・絵画のための見晴らし小屋KOMORO》ですね。こちらの方に緑のテープが貼ってありますけれど、この中側から、このフレームを見る形になっています。構想としては、この美術館の特徴的形態でもある６角形の小屋を建てたかったんですが、館敷地内に大きな建物を建てるということは困難だったので、それはあきらめまして、三面の衝立状の枠組みだけの見晴らし小屋を作り、《仮構・絵画のための見晴らし小屋KOMORO》と名づけたのでした。小諸を訪ね、これを組み立て、この三面の横長の窓から切り取られた風景、季節の折々の姿をスケッチ、写真撮

図7　壁画ドローイングKOMORO＋枠窓　2014

図6　M503　TA･KO MO RO　175×1300㎝　2014

図8　絵画のための見晴らし小屋　1999

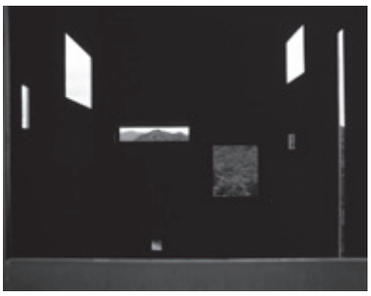


図9　窓．絵画のための見晴らし小屋　1999

図10　M288 magino 3　160×160㎝
M287 magino 2　260×70㎝/260×30㎝
M286 magino1　125 ×603㎝　2000

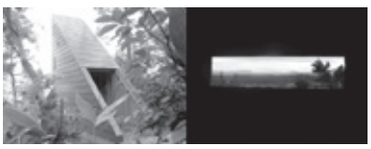


図11　絵画のための見晴らし小屋・妻有＋窓
2003

図12
M338 TA・TSUMAALI　160×800㎝　2004
M286 magino1　125 ×603㎝　2000

影と取材は重ねられていったのです。

こちらが取材を経て制作された《TA・KO MO RO》（図6）です。TA系の作品は、横長フォーマートで、複数のパネルで、余白が用意されていて、水平軸のラインが入っているんですが。これは、基本的には大地と空とを分ける地平線、いわばゼロ軸という風に位置づけています。上方に空があって山が風景を創るという形ですね。ここでは浅間山の稜線が絵を形成しています。これも偶数、６枚組、２枚接続パネルが空きをとって横に３回繰り返している。実はタイトルにも作品の構造が示されていて、本作《TA・KOMO RO》もKOMOROの６文字を２文字づつで空きを取って３回繰り返しKO MO ROにしています。

こちらは、布に木炭でTA・KO MO ROとほぼ同じサイズのドローイング《壁画ドローイングKOMORO》（図7）と最近進めている作品《枠窓》（図7）です。これはフレーム《枠窓》を浮かせるように設営、フレーム越しにドローイングをもう一度見ていくという形の仕事です。

絵画というのは、どうも固定された１点に立ち、絵画を正面から見るということが、絵画の原理としてはかなり重要な意味を持っていると思われています。それは異方性という概念にも通じると僕は考えているのですが、絵画の正面性の唯一性は絵画の絶対性とも深く関わるのですが、そこに安心するのではなく、異方性の視点からさらに本質を深く追究していくことが必要なのではないかなと僕は思っています。《膜窓》体験、視点の移動によって、絵がずれていく、描かれた像自体が崩れてしまう。その不安定さこそが絵画にとって重要なのではないかなという風に思っているんですね。絵画というのはもともと実体ではなくて、画像として存在するわけです。その画像が像として見えているということがすごく重要で、彫刻のように実体として認識されるのではなく、薄い膜として認識されることが重要なのです。それは、視点が移されることによって、その意識の覚醒の瞬間が発生する。その瞬間が絵画にとって重要な役割を果たしているし、絵画を考える上でもすごく重要なものなのではないかなと思っているわけですね。ですから、先ほどの〈枠窓〉体験は、その視点がずれることによって、像がずれていきますから、そのずれる瞬間に絵画の本質に気づく瞬間があるのではないかなという風に考えているわけです。

この展覧会ではもう一つ別の会場でも展示をしていまして、こちらは、今までに作られてきた〈TA 系〉の典型的な作品を展示しています。この部屋で展示しているのは、ほとんど〈絵画のための見晴らし小屋〉との関係で制作されたものです。これは第１作目《絵画のための見晴らし小屋》（図8）、外観と室内の窓（図9）で、山の稜線を切り取った窓からの光景を絵にしたものが《magino1》（図10）になります。これは、縦に切り取られた窓をモデルにして描いた《magino2》（図10）作品です。こちらは正方形、山肌を切り取っていたんですけれども秋の山面《magino3》（図10）です。

こちらは､先ほどのホームページの中にでていた《絵画のための見晴らし小屋･妻有》（図11）と絵画《TA・TSUMAALI》（図12）越後三山の描出です。

これは、例外的､〈見晴らし小屋〉との連動ではない絵画作品《TA・TARO2》（図13）です。僕は長野県の上田市の出身なのですが、その上田には太郎山という山がありまして、その太郎山は実にゆったりとした豊かな姿の大きな山なんですね。その山から緩やかな扇

図13　M436 TA・TARO 2　200×500㎝
（4枚組）2011

状地になっていて、おだやかに平らな場所があって、そこに人々が住んでいるんです。そこで生まれた僕はこの山を見て育った。暮らしは山の内側にあったではないか、あるいは、その山に見守られて生きてきたのではないかなという思いが僕の中にはあるのです。そのいわば視線の双方向性、「見、そして見られる」関係として郷里の山を〈TA 系〉として描いた作品なのです。しかし、それは原理的には〈TA系〉の非中心性には抵触する試みではあったのです。小諸での動画は以上になります。

インスタレーション《浮かぶ像・現出の場》　絵画の位置

次の動画（註8）は2014年の作品《浮かぶ像・現出の場》（図14）、これはまたもう一つ違う試みなんです。

東京の西部に青梅という町があるんですけれども、そこでやっているアートプログラムでの展示（図15）です。この話はちょっとやっかいな話になってしまうんですけれども、先ほど、絵画というのは像なのではないか、絵画自体はもちろん物質をともなったものですけれども、そこで表象されているのは像である。さてその像というのものが、現出されるのは一体どこなのかということをここ５年ほど前から考えているのです。

像がどこに生成されるのかというのが、僕にとってはかなり大きな関心事なんです。うまく説明できるかわからないんですけれども、僕らが生きている現実の世界がここにあるとすれば、それと瓜二つのよく似た姿をしている世界、物質を伴わないもう一つの世界というものがあるのではないか。これは、イデア論などで言われているようなことに近いのかも知れませんが、もう一つの世界というものがあって、そこから投影された影がここに表れる。それが我々現実の世界なのだのというようなことなのかもしれないんですけれど……。プラトンが言うには、あちらが本物で、こちらが影なんだということなのかもしれないですけれども、僕には必ずしもそういう風には思えなくて、現実の世界は、現実のリアルな世界があるのだと。ただし、絵というものは、もう一つの精神だけの世界、概念の世界、イデアの世界でいいと思うんですけれど、あちらの方にあって、断絶しているのでなく、その二つの世界はわずかながら重なりあっているのではないか。その重なり合ったところにこそ、プラトンの言う影が表れてくる。僕らのような、芸術や哲学、思想のようなものは、現実の世界に属するのですが、もう一つの世界の側ギリギリの場のわずかに重なり合ったところに現れるのではないかと思っているのですね。そう考えたときに、この重なり合った薄い空間には彫刻や建築のようなボリュームのあるものを入れるのは難しいわけですが、絵画は、僕が先ほど話したように、薄い像なわけですよね。薄い存在である

註8　母袋俊也「浮かぶ像・現出の場」
https：//www.youtube.com/watch?v=iMolzDkpanw

図14　プランドローイング
「浮ぶ像・現出の場」 2013

図15　インスタレーション
「浮ぶ像・現出の場」 2013

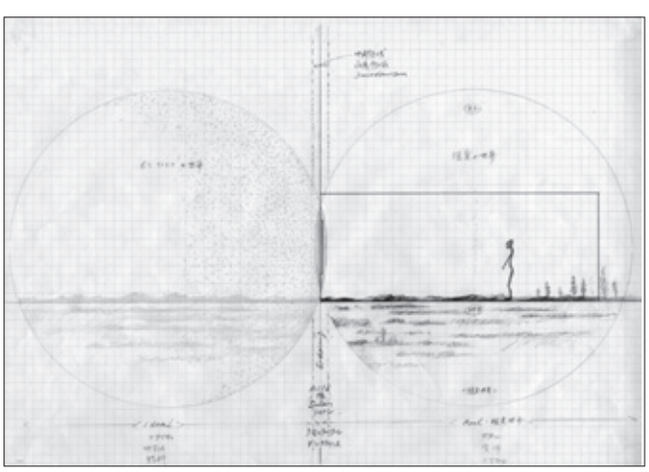


図16　現出の場　ドローイング７

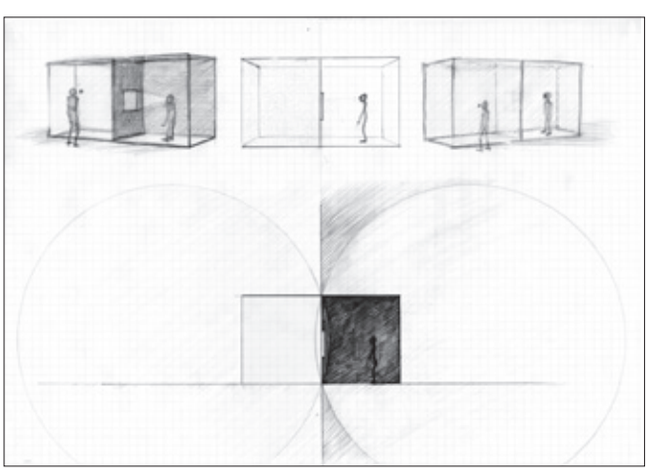


図17　ドローイング［像・現出の場］

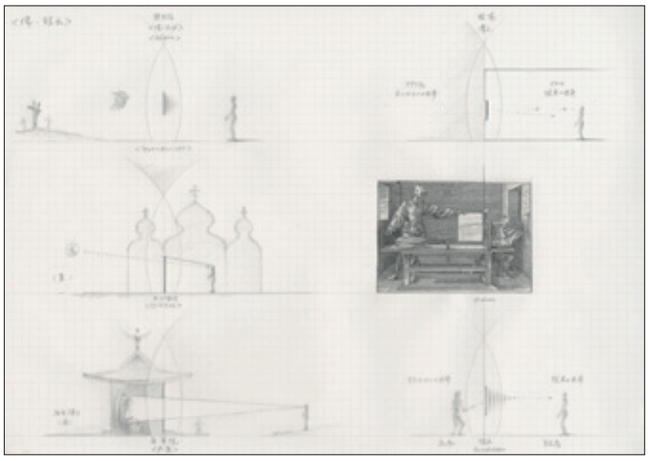


図19　現出の場　ドローイング8

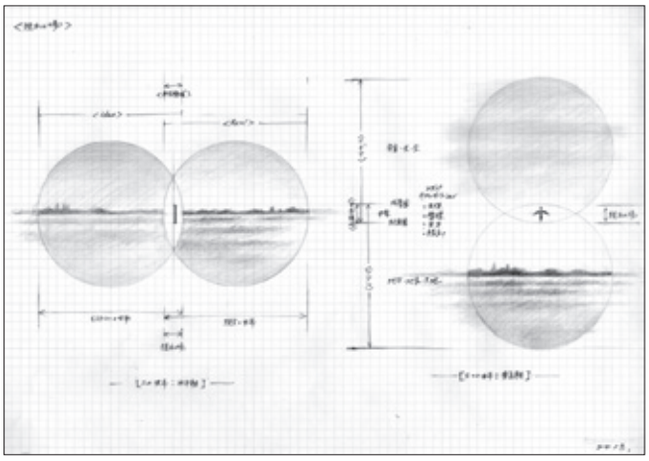


図21　現出の場　ドローイング1

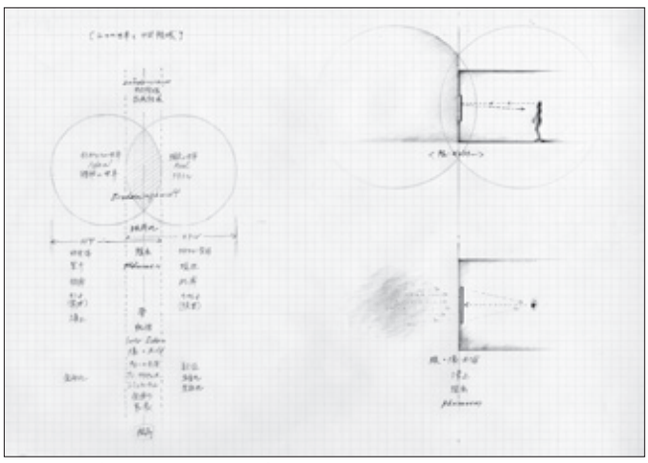


図22　　現出の場　ドローイング6

がゆえに、この隙間に差し込むことができる（図16）。そのためにも絵画は像の特性とその薄さを保持し続けてきたのではないかというのが僕の考えなんです。

それを、具体的に作品化してみたいなと思ったのが、この展示になります。二つの部屋に区切られた小屋を会場中央に設置しています（図17）。一つは黄色く塗られた光に満ちたスペースがここにあるという風に作られていて、女性がその中を覗き穴から見ています。もう一方は暗い部屋があって明るい部屋を背後に仕切られた壁に〈Qf〉絵画が掛けられている（図18）のです。照度の低い現実の世界があって、背後には明るい部屋、もう一つの世界との仕切り壁には絵が掲げられている。という風になっているわけですね。

図18　M450　Qf SHOH〈掌〉90・Holz 5　2013

これは、ロシア教会なんです。二つの世界ということでいうと、ロシア正教はも聖と日常を隔てる部屋、司祭だけが入れるような聖なる部屋がありまして、その部屋と我々の世界を区切っている壁が用意されている。イコン壁、イコノスタシスが形成されて無数のイコンがかけられているのです。あるいは、平等院の場合も丸窓が切ってあって、その丸窓の奥の方に阿弥陀如来像がある。阿弥陀を拝もうとする人は、手前の池越しにその丸窓に切り取られた像と対面するのです。これは仏教なので、西方浄土で、西側に向かっているわけですけれど、黄泉の国、もう一つの世界があちら側にあって、黄泉の国に渡る三途の川の手前の方に人々はいて、西方浄土の世界を垣間見るという形になっているわけですね。先ほどのロシアイコンの場合も、東側は聖なるスペースということで、切り取られている部屋は東の方が区切られているわけです。ともに現実の世界と精神の世界のぎりぎりのところに、絵・像が存在している、作られている（図19）という構造になっているわけですね。

図20 《浮かぶ像・現出の場》 2013

壁面上方には、複数の小作品が掛けられています。これは4、5年ほど始めている〈Himmel Bild〉（図20）という空の絵を描くというシリーズです。先ほど現実の世界とイデア、精神の世界が横軸方向で世界が分かれているのではないかと言ったんですけれど、縦軸方向

では、我々が立っている大地に対し、上方に天なる世界がある（図21）ということでいうと、絵が現れる場、中空に絵が現われるのではないかなと考えているんですね。ドイツ語で空のことをHimmel というんですけれども、日本語と同じように「天」という意味もあるんですよ。ですから、天と地の中間にあるところ、そこは絵が現れる場であり、Himmel Bild、空の絵が描かれ壁上方に掲げるシリーズなのです。小屋の壁の掛けているのは《Qf･SHOH〈掌〉Holz》なんですけれど、イコン作家アンドレイ・ルブリョフの《聖三位一体》をモデルのひとつとしているんですが、そこには３人の天使が描かれているんですね。そういうことで言うと、天使という存在そのものも、神の教えを我々に告知するため、我々の地上に天から降りてくるということになっているわけです。

天使は天上界と地上界を行き来する。そう考えてくると、絵画の役割も含めてですけれども、絵画というのは天使のような存在で、現実の世界とイデアなる世界の中間に色彩を帯びた像として生まれ、活動するのではないかな。という考えているのです。

〈Himmel Bild〉の壁面には二つ円弧を描いていまして、この二つの円の重なりあった中間領域（＝ZwischenRaum）には「像」「Bild「Schein」などの文字が書かれています。（図22）「Bild」はドイツ語で「像」なんですけれども、「Schein」というのは「仮の像」という意味です。この中心のライン上に先ほど見ていただいた正方形の絵《Qf･HOH〈掌〉Holz》があったということになります。

これが、2013年の展示のものです。動画を二つ見ていただきました。今日は金井さんと一緒に対話をしていくということがすごく重要な内容だと思っていますので、このくらいで……。

メディア　媒介　表象　天使　中間領域

◆金井　本当にたくさんの作品について系統立ててお話していただきました。その他の作品についても、また母袋さんのWeb の方で見ていただければと思います。

さて、お話の最後のほうで、天使と言われて、これってみなさん、ドイツ語をやっている方ならば近しく感じるかと思いますが、ヴァルター・ベンヤミンやパウル・クレーのような人たちが、天使にこだわり、かかわっていますよね。特に戦間期から第二次世界大戦期にかけて。まさに、そういった時代の芸術家のありようだと思います。ある戦争から次の戦争へとうつるときに、アーティストは見ているんですよね、多分、その時代の動きを。声高になにかやる人ももちろんいるんだけれども、そうではなく、見る。見ることに特化していった時代の証人のような人もいたわけであって、それが天使というメタファーの重要さだと思います。そういった天使について思いを馳せることで、私たちは、その時代を今、受け取る。媒介としての天使ということです。

天使の議論、みなさん興味がおありだと思いますし、僕より詳しいと思うんですけれども、例えば性別とか、年齢とか、ふつう僕らを弁別するための特徴が基本ないんですよね。あらゆることをつないでいく媒介ですから、天使がまさしく空というか、まさしくヴォイドなんでしょうね。その在り方と絵画をつないでいくところに、母袋さんの絵画のおもしろさ、作品の豊かさがあると思います。

天使を語りながらいま、ふと浮かんだのがトリエステです。イタリアの東の端にトリエステという町があって、そこは文化的にはイタリアで、基本イタリア語が通じるわけですけれども、歴史的には常にハプスブルクの影響下にありました。非常に重要な地中海への出口、軍港であり商業港であったわけです。なにが今気になるかというと、そこで、ヴィンケルマンが殺されるんです。誰が殺したかというと、フランチェスコ・アルカンジェリという男なんです。ヴィンケルマンというのは、美術史を作った人です。プロイセンの、

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

北のドイツの人です。美術史を僕らが知っている美術史に鍛え上げた人物。様式というものを立ち上げた。つまり、分析可能な、語りうる近代的な美術史を立ち上げた人です。その人が、前段の話とゆるやかにつながるわけですが、アルカンジェリに殺された。アルカンジェリ、つまり大天使です。

そういった名を持つ人にトリエステで殺された。学問的な筋を求める美術史学ないし考古学と、天使的・媒介的なるものの行き違いないし行きずりとでも言いましょうか。話を戻しますが、天使と絵画の関わりを語るとき、無論、クレーにのみこだわる必要はないと思います。実際ルネサンスの画家たちがなぜあんなにも天使を描いていたのか、天使という形象がほしかった理由を考えると、今母袋さんがお話された媒介性、それの発露としてとらえてもよいのではないかと感じました。

もう一つは遠近法の問題です。みなさんも透視図法の技法はおわかりになると思いますけれども、消失点があって、画面奥へとヴァーチャルな世界を開いていくという方法。これに対して、母袋さんの場合は、むしろこちら側にくるというのかな、あちらとこちらをつなぐところ、まさしく今言っている媒介、天使の部分ですけれども、そこに関わっておられる。それはイコンの経験ということになるかと思うのですけれども、それ以外に、こちらへの働きかけを実感されるご経験などございますか？　絵を描く立場でも、作品を見る立場でもいずれでも結構です。

正方形フォーマート―イコン体験　見／見守られる
視線の双方向性　あるいは見／監視される

◆母袋　例えば美術史的なことで言ってみれば、絵画というものはもともと平らなわけですから、平らなものに空間性を作りたいというように、面よりも奥に空間をほしかったのですよね。ですから、今おっしゃったように、ルネッサンスのパースペクティブというのは、みなさんのほうから見ると、ここに絵があるとすれば、奥にどれだけ空間をひいていけるか、奥行きがどのくらいとれるかということが大きな目的であったわけですよね。それが、おそらくは、徐々に変質していって、セザンヌの場合は、奥ではなく、小さな面が少しづつずれた緊張した空間を作るようなことをしたわけですよね。ただ、このときも少しは奥行き感や凸凹感は作りたかったので、それぞれの面は正対ではなく角度がついていたわけです。それがモンドリアンぐらいになってくると、別に平らな面が平らであってもいいんじゃないかという風になる。ただ、これは一面の全面ではなかった。黄色、青、赤はそれぞれに前進、後退に強弱がありそこでの空間性の操作がある。とはいうものの、平らな面として平らな面に描き始めたというのが大きな転換だったと思いますよね。それが現代の美術になっていったとき、ミニマルあたりになると、空間性ではなくて、平らな面が平らな面としてあるという形になったわけではないですか。イリュージョンではなくリテラルな空間としての空間表現。そのときに、描く人間だけではなく、見る人間が、その面と対峙するという感じ。だから、見る人の視線が奥に送り届けられるわけではないわけですよね。それらに対して、先ほどのイコンの場合は、金井さんと以前お話したときにも僕のイコン体験をお話したことがあったのですが、みなさん初めてなので、改めてさせていただきたいと思います。ドイツ留学中にロシアに旅行したのです。先生と一緒にロシアの古都を尋ねたわけですけれど。ノヴゴロードだとか、スーズタリだとか、奈良のようなものでしょうかね。そこにはクレムリンがあり歴史的なすばらしいロシア教会があって、ルブリョフも含めた優れたイコンの作品があるわけです。そこをたずねる旅行をしたわけですけど、ドイツから行くには結構遠かったりするわけですね。だけどそこには、どこか遠くの田舎の方からいらしただろうと思われる老人がいたりして、僕らは右の方にあるの

がルブリョフで、左にあるのが、グレークなんだとか、図版とどのくらい色が違うか、形が違うかみたいな話しをしているときに、そこに立っているおばあさんがいたのです。その姿は絵と対面していることでは同じなんだけれども、僕らが絵を学究していくというような姿勢に対して、おばあさんはイコンからの視線を受け止めているかのように感じたんですよね。それは、よくよく考えて見ると、イコンは、パースペクティブ的には未成熟で、形態把握も未熟で不明瞭のようにも見えるわけですね。むしろ逆遠近のようなかたちになっていて、稚拙にすら見えるわけです。けれどもイコンを見ようとしたとき、先ほどのルブリョフ《聖三位一体》も、３人の天使がいるわけですけれども、見る人間に対して３人の天使がいて、天使の３つの視線が見る側に注がれる形になっているわけですよね。

イコノスタシスと言われるイコンの壁があるのですが、そこには複数のイコンが壁いっぱいに配されているんですね。もちろん中心にはイエスがいて、さまざまな聖人たちが左の方にも右の方にも散らばっているわけですけれども、その描かれ方というのは、イエスだけが正面に立っていて、聖人たちは、若干こちらの方を向いてくるわけですね。７枚横にあるとすれば、徐々に体の方向を変えて聖人が描かれているわけですね。見る者がちょうどその正面に立ったときに、その人に向けて聖人たちの視線が送られて来るようになるという構図なんですね。ですから、むしろ空間自体は奥に行くのではなくて、手前に押し寄せてきているということが実感として感じられるのです。

さて僕の作品の空間性のことでいえば、〈TA系〉の横長のフォーマートの作品は、画面の視線のラインが奥にではなく横に滑っていくというような画面の作り方をしているんですね。それに対して正方形の〈Qf系〉シリーズは、複雑な何層かのレイヤーも含めて組み立てられているわけですけれども、それは奥に退くのではなく、見る人間にむかってレイヤーがやってくるようなことができればいいかなと思って制作をしているんですね。

〈Qf系〉はいくつかの試みをしてきているのですが、実際に立方体の箱形を作っている場合もあります。空間性だけではなくて、空間そのものをそこで作ろうというような仕事をしているんですね。

◆金井　今伺っているところで、僕らが考えている近代的な絵画、あるいはルネサンスの絵画と構造的に何が違うかというと、絵からみつめられるということだと思います。ロシア教会の衝立の話がありましたけれども、衝立に聖人の絵が描かれていて、その前に立つと、むしろこちら側が見られている気がするというものです。

似たような経験として思いだすのは、平等院鳳凰堂の阿弥陀さんです。そのお顔が、ぽんっと開いている窓から見えるのですが、みなさんご存じですか。特に夜は阿弥陀さんの顔がこちら側にせり出すように感じられます。向こうからぐっと見つめられている感じがして、そのまなざしのもと、僕らはむしろ囚われる。そうした感覚を学生時代に経験しました。

例えばこの経験を、近代絵画の話と重ねれば、何が言えるかなと考えたときに、またしても飛躍ですが、別のパノプティコンだなと思うんですね。管理社会的なモデルとしてよく出てくるのが、ベンサムの刑務所ですよね。真ん中に監視する人がいて、360度全方位的に監視できるという。それがパノプティコン。近代の統治のテクノロジーということで語られるのでしょうけれども、そういった近代なるものをモデルとして、盛んに語られる視線とは別の視線。要は、我々は眼差しに包まれている。フーコーが語ったような、パノプティコン、こちら側から見てやる、みんな見ているぞという力学が融解してくるような印象があって、簡単に言ってしまうとポストモダンということになるのかもしれませんけれども、こういったところに、母袋さんご自身どういう認識・意識をお持ちでしょうか。絵画を考えるということを徹底的におすすめになっている点で、先生の実践には極めてポストモダン的な印象もあって、こうしたことを伺っています。

071

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987〜2018　M1−M600

◆母袋　そうですよね。見守られる。見る主体が全能であると考えれば、神に見守られているということは成り立つんですけれども、フーコーが言ったように、権力に監視されているのだというふうに捉えることもできますよね、もちろん。だから、あちら側のものがなんなのかということが、きっと重要なんだろうなと思うんですけれども。絵というものはそもそも前提となるものが、性善説と性悪説という話だと思いますけれども、善であると絵を描こうと思っている人間として、僕はそう思いたいということであると思うんです。ロシアイコンそのものもそうであるわけですよね。僕が行ったときはまだソビエト連邦の時代なんですね。そのロシア革命が起きているときは、一番やっかいなものがロシア正教だったわけですよね。

なぜならば、人々は神に見守られているということで統治しやすかったんだろうと思うし、そういう面で言えば、確かに監視をされているという視点に立つこともできるんだろうなと思います。視線の双方向性のようなものも、同時に複数の視線があるというときに、複数の視線に捉えられているということにもなるわけですよね。

◆金井　セザンヌがモデルかもしれないですけれども、複数の視点を画面に投じるということ、視点の複数化は一応実現している。ただ、いずれにしても画家は、主体的にまなざしで世界を切り取ってキャンバスに向き合うわけで、こういう強い視線をコントロールする立場として存在したと思うのですけど、母袋さんの場合は、強い、まなざす画家という部分も半分ありながら、逆に向こう側から見つめられるというか、まなざしに突き刺されるような在り方、これも求めているように思えて、そこがポスト近代というとことかもしれませんね。今、絵画を考える上での重要なポジションだと思います。

そのこととも関わるのですが、今日のお話で「おっ」と思ったのが、「視点が崩れる」という言葉です。

僕の中で強く響くところがあって、つまり、こっちが見るのか、あちらから見られるのかという問題だけじゃなくて、要は、一枚の絵画を通してまなざすこと自体が崩れる、そこもやはり重要なのだろうなと、今日思ったのです。美術史に取り込んでしまえば、いわゆるアナモルフォーズの問題とも絡むのかもしれません。優勢有効な一つの視点というのではなくて、複数の視点がわっと立ちあらわれてくるような、あるいはずれ、崩れだすような。そのような契機というか距離・視点の変化が、母袋さんの作品の中で重要なのかなと思っているんですけれど。「視点が崩れる」という、そのブレのところについて……。

絶対的なるものへの不信、もっと大切なるもの
像、数値、記号

◆母袋　絵画というか、芸術といってもいいと思うんですけれど、絵画が魅力的なのは絶対的ではないからだと言えると思うんです。

例えば、学問ということでも、どうも自然科学の絶対性が前提としてあるように思われるのですが、それは数値の持つ絶対性によるもののようにも映るのです。それに対して、人文系というのは、絶対的、客観的ではない、ともすると主観の側のものだという扱いとなる。それは絶対的数値ではない言葉、言語による科学構築だからで、主観の入り込む余地があり、虚妄にすぎないかもしれないという指摘なのだと思うのです。そういうことでいうと絵画はその言語でもなく像を扱うわけですから最も虚妄に近く、最も不安定なものとしてあるんじゃないかなと思うんですよね。絵は物質でもあるわけだから、意味、主観の世界をなるべく遠ざけ、メディウムや様式を対象とするフォーマリズム批評なども出て

くるのですが、そこにあるのは像です。

像というものは本当に不確かなものではないですか。例えば記号と像の違いというのは、形象性があるかないかの違いだけではなくて、記号の方がより的確性を持っているでしょうし、その分、像は極めて不安定な曖昧な伝達の手段であるわけです。なんですけれども、だからこそ、できることというのはあって、その前提をとってしまうと、芸術というもの自体の存在も危ぶまれていくでしょうし、文化そのものだって危ぶまれていってしまうんじゃないかなと。像が崩れてしまうようなものだったり、言葉にはならないものの存在だったり、言ってみれば僕の、あるいはみなさんの目の中に映っているもの。そういうものこそが実はすごく重要で、先ほどの話で言えば、現実の世界と非現実の世界があるとすれば、現実の世界の極右には経済とか、科学とかさまざまな現実があるですか。

その対極、非現実のリアルから遠い最も怪しげなところに、実体に則さない、有用性の乏しい存在として芸術とか人文系学問の位置があるのですが、それは、むしろイデアというか理想と近いところにあるのです。数値による科学はで絶対性があるようではあるのですが、その数値がいかに不安定で不確かなものであったということを、震災のあと我々は嫌というほど実感したじゃないですか。この数値であれば大丈夫ですよと言われても、それは全然大丈夫じゃなかったり、その数値もいくらだって操作されるものだったり。絶対的な安定ではなく不安定な崩れやすいものこそが真実を表象させることができるのではないでしょうか。それが僕の、我々の立場。あの大津波だって海抜0という絶対値を前提としているのでしょうが、そもそも絶対的0など存在しないのです、水平面は常に潮の満ち干で変動しているじゃないですか。科学の数値に対する絶対性こそが虚妄なのです。真実は外部にあるのではなく、むしろ我々の内部にあるのです。

◆金井　記号、または数字のような明晰で、合理化可能なものが頭の側であるとして、例えば先生が今おっしゃっている像の問題は目の側にあるということ。目は、非常に優秀な感覚だということでレオナルドがほめたたえるんだけど、目とて目ですから、頭の中の世界とは違うブレをそもそもはらんでいるだろう。それがまずあると。さらに言えば、今日のお話でおもしろいと思ったのは、斜めから見ていると何を見ているかわからなくなってしまう、つぶされるといったら変な言い方ですけれど、まなざしが役に立たない瞬間があるなと。例えば先生の作品も斜めから見ることによって感ずるところもあって、でも、結構それもまた重要だろうなと思っているんですね。やはり触覚的な部分が僕の中では意識として上がってくるんですよね。原初的と、かつて18世紀の人が呼んだような感覚がすれすれのところに見えてくる。ヴィジョンの問題がいわば皮膚の問題、肌で感ずるということ、その触覚性のところにふっと揺れる。視覚性がどこかにいっちゃって、触覚性が立ち現れるような。ヴィジョンが peauつまり皮膚に切り替わっちゃうところ、そのきわのところで絵画が力を持つし、母袋さんの語る媒介性も理解できるかなというのが、今日のお話を聞いて強く思っているところです。

◆母袋　触覚性というものは、絵画が本当に唯一、一点からのみ見ていくものだとすると、触覚性は読み取れないんだと思うのです。角度を変えて見た時にその時の肌合いだとかテクスチャーが認識できるんだと思うんですね。ただ、もちろん当然正面から、ある一点から見るわけですけれど、定められた一点に到るまでに、同時にいくつかの像を見ていくわけですもんね。その微妙な差異によって肌でも感じられる触覚性というのも表れるんだと思うんですよね。そこが美術史の場合は、絵画の正面性の問題が語られたときになおざりにされていたところがある。もちろん絵画は異方性というか、一点から見ていくものなんだけど、それは同時にそれだけで見えるわけではなくて、同時にブレながら見えていくことによって、触覚的なものまで含めて見えてくる。そこが、その像のありようというか、

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987〜2018　M1−M600

すごく重要なことだと思いますよね。

◆金井　ちょっと戻る感じになりますが、みなさんに対して補足をしておきましょうかね。今何の話をしているかというと、たとえば、マザッチョの《聖三位一体》という有名な絵がありますね。遠近法絵画のお手本みたいな絵です。美術史の本の図版で見ていると、まさしくまなざしで見透す絵画ですね。奥行き感たっぷり。しかし、実際見に行くとそんなものじゃないんです。本当に光の状態が良くて、真正面から見れば、きれいに奥行きくっきり。しかし、ちょっと光が斜めから当たったり、教会だから斜めから当たるわけですよ、太陽の方向が変わるし。そうすると、古いフレスコ画だから、表面が白化しているんです。ちょっと横に入り込むと、絵がふわーっとオブラートに包まれるように見えたり、あるいはそれがさらっとひいたりとか、経年変化といえばそれまでなんだけど、なにがしかの歴史を経て今ここにあるという手触りが見えてくる。その時に、この《聖三位一体》という絵はすばらしいなと実感したんです。それは、なんというか、今言っている触覚性という問題だし、こちらにくるという問題だし、それらが視点をずらして初めて立ち上がってくるということなんですよね。昔から見ていたはずなんですけれど、最近フィレンツェに行って改めてこれこそが絵なんだと。とすると、図版で見る絵というのは逆になんなんだろうという気さえしてきます。

◆母袋　正面性であること、像であると同時に、マテリアルであるということが絵じゃないですか。マテリアルであると同時に像すなわち空間性であるという認識がすごく重要だと思うんですよね。あたかもなにかのように見えているもの、それが像として認識されるということが重要で、そのためには絵が膜のように見えているということ、平らな面なんだということが自覚されることが重要なんですよね。一点から見ると完璧な遠近法的に描かれていればそこに整合性ある空間が生成されているわけですけれども、それが見る角度が変われば、消失点自体が変わってくるわけですから、遠近法は不整合を起こしてしまう。そのときに、それが実は描かれたものなんだ、あるいは膜なんだという目覚めは絵画とはなんなのかということを思わせるわけで、その絵画とはなんなのかという問いは絵画を超えての問いを生み出すことになります。

ドイツ　イタリア

◆金井　ところで美術を考える枠組みや用語について、母袋先生は基本ドイツ語ベースです。僕はイタリア語。

ドイツ語ベースで考えるか、イタリア語ベースで考えるかで、言葉の背後の世界も変わってきます。英語、フランス語が加わればなおさらややこしかったりするんですが、ヴィジョンとかイマージュの問題とか……。

あるいは、peau（皮膚）もそうですね。母袋さんはドイツのフランクフルトで勉強されています。また、シュテファン大聖堂、ウィーンでのご経験を語られる。そこのところをぜひ、ここは人文学部という場ですのでうかがいたいんですけれど。つまり、グローバリズムということで、英語ありきという強い風潮がある。

そのなかで、ドイツ語という別の言語から考えていくことの刺激というか、意義といいますか。あるいは、これまでの経験の中で、よかったなと思うことなど、いかがですか？

◆母袋　あえてドイツ語ということではなくて、たまたまというか……、たまたまではなく、ドイツに留学しているんですけれど、そこでの５年間というのはすごく充実していた

し刺激的であったわけです。ゲーテというのは僕にとってはすごく重要なのですが、帰国後、ゲーテの研究をする方々との出会いもあったりとかして、ドイツ語を通して考えることというのはたまたま多かったりするので。むしろだから英語なり違う言語には訳しづらい部分ってどうしても出てくるので、ドイツ語を使っているということなんです。

◆金井　さきほど先生がチョークでドイツ語をぱっと書いているところを見ていると、ドイツ語圏の、美術の世界だったら例えばヨーゼフ・ボイスを思いだすんですね。黒板に文字を書き付けつつ、未来のアートを強く語ったわけですね。さらにさかのぼれば、シュタイナーの黒板も。ドイツ語が特別だということではないんですけれど、連想として、母袋さんが使われるドイツ語は、強く文化に呼びかけてくる。ドイツ語を使うことによって、それぞれの個別の時代・場所の出来事というものが見えてくるところがあって。

だから英語ももちろん、意識的に使えばいいということなのかもしれませんけれど。このあたりの言語の個性に、私としては魅力を感じます。

それから、ポストモダンに関連して、ひとつ。インスタレーションという語が80年代以後、大いに用いられるようになりましたが、〈見晴らし小屋〉のシリーズも含めてなんですが、先生はご自身の作品あるいは展示が、インスタレーションと呼ばれることに対して、どのような感覚をお持ちでしょうか。それと関連するんですけれども、ジャンルとしてのインスタレーションという言葉が広まった当時、それについて、母袋さんはどう感じていたか、おうかがいできればと思います。

70年代以降のアート、絵画の潮流

◆母袋　先ほど、僕は1974年から78年までが日本の大学で勉強していたということでいうと、78年頃というのは、日本でもインスタレーションというのが特化した様式として表れてきた時代ですよね。川俣正さんなんかは、同じ年代で当時は少しお付き合いをしていたりしたんですけれども、インスタレーションとして作品を展開するという形になっていましたよね。僕は学生のときにむしろフィルムの仕事とかコンセプチュアルの仕事を大学２年ぐらいのときからしているんですね。当時の日本のアートスクールというか美術大学の中ではほとんどの人が凡庸な物語的なペインティングというか絵画というか、当時はタブローと呼んでいたのかな、の作品を制作し、公募展に出品するということが一般的だったんですね。そもそも美術史というか歴史って記述じゃないですか。書かれたもの。だから、僕が実際に経験し、現場にいたそこの視点からすると今記述されている70年代はこういう時代でしたというようなことは必ずしもそうではなくて、ごく一般的にはもっと凡庸なナイーブな絵画をみんな制作していました。造形大学というのは、日本の美術大学の中では比較的現代美術に少し開いた大学ではあったんですね。だけど、学生でコンセプチュアルな仕事をするとかいうのはほとんどいなくて、僕のクラスでも２、３人くらいだけで、あとは普通の絵を描いていたんですよね。その中で美術手帖のような先鋭的な美術を紹介するメディアにおいては、インスタレーションというのが出てきたんですね。僕はそもそもフィルムだとかコンセプチュアルな仕事をしていて、極端に物質から離れて観念だけ、頭の中だけで起きているものを展示をするようなことをしていたんですけれど、でも、すぐ限界を感じたんですね。73年とか74年あたりですよね。ですから僕はほとんど絵を描いていなくて、再び絵をやるべきなんだろうなと思って、絵を描き始めるんですね、それが、77年、大学の後半です。そういう中で、インスタレーションというものが華やかに登場してくるのです。もちろんその時の現代美術というのは、もちろんモダニズムですから、新しい様式のものが更新されていく時代ですよね。ミニマルな時代が終わったら、次はこう

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987〜2018　M1－M600

いう時代みたいな。その時にインスタレーションという新たな表現方法が登場したんです。が、様式の変遷を更新をしていくということでは、解決がつかないものがある。という風に思って、絵をもう一度描こうと思うわけですよね。だから、今僕の作品をインスタレーションという風に呼ぶ人がいるかどうかはわからないですけれど、僕自身は絵画だけではなく、さまざまなものを総合的に展示するというようなときに、インスタレーションという言い方をしています。僕の場合は、フォーマートの作品をどういう風に会場の中で展示をするかというのはすごく重要ですから、僕の作品は絵画そのものであると同時に、絵画インスタレーションなんだろうなと思います。ですから、インスタレーションという言い方自体には、そんなにこだわりはありません。

◆金井　拒絶もないということですね。インスタレーションと、80、90年代に台頭してくるアジアの美術など、ポストモダン的状況がしばしば重ねて語られますが、そういう単一の話ではなくて……ということかと思います。

もう一つおうかがいしたいんですけれども、いわゆるニューペインティング、3C、そういった動きが母袋さんが絵を描き始めたときにきていると思うんですね。ドイツ語圏であれば、キーファーやペンクですが、そういったタイプの絵が目の前にあらわれたときの印象というか、どういう風に先生ご自身反応されたんでしょうか。

◆母袋　ナイーブだという風に思いました。ただ、今金井さんがおっしゃられた中でも、キーファーはニューペインティングの中で登場していたとは思いますけれども、明らかな違いがあったという風に思いますよね。バセリッツなんかもそうだと思いますけれども、日本だとニューペインティングという言い方ですけれども、ドイツ語だとノイエ・ヴィルデ＝Neue Wilde という言い方をするんですね。ノイ neu というのは英語のnew、Wilde はワイルドですね。つまり「新しいワイルド」なのですが英語のワイルドはフランス語でのフォーブ。すなわち「新フォービズム」ということになるのです。ここが重要なところですね。確かに絵画の低迷の後に現れたのですからニューペインティングではあるのでしょうが、そこをその作風の特徴である荒々しいタッチと色彩の強さに着目し、美術史、絵画史に遡りフォビズムに接続させつつ展開させたのがドイツだった訳です。「ニューペインティング」というのは、「新しい絵」じゃないですか。やっぱりだからすごくナイーブというか、なにも考えていないなというか、その大らかさ、大胆さがマーケットとあいまってムーブメントとなったともいえるのでしょうが……。そのノイエ・ヴィルデだとしてもその中にキーファーは必ずしも入らないと思うのです、ペンクとか、バセリッツとかはその中に入ると思います。キーファーの場合は、物語とのとても高い親和性があるじゃないですか。歴史も含めてそうですし、あるいは本当のところはどういうものかはわからないですけれども、ポリティカルなものもありますよね。

その位置が実のところはよくわからないのですが。ヒトラーよろしく本当にやっているわけだし。それが、どうして特権的にキーファーだけあれが許されたのかというのは、そこは本当に謎ですよね。言ってみるとネオナチみたいなありようなわけですよね、でもイスラエルのユダヤ美術館でも早い時期に大きな個展を開催している。このようなポジションを彼だけがどうして築くことができたのかというのは、本当に謎です。確かに大きな画面で荒々しいタッチで表現しているけれど、いわゆるニューペインティングの３Cと言われたクレメンテとか。クレメンテはまた少し違うと思うんですけれど、多くはほとんどの制作者は制作を継続していないような感じですよね。それはやっぱりナイーブさだと思うなと思います。僕はもう一度絵画をするんだという風には決めましたけど、そういう絵画ではなかったので、あまり気にもしなかったし可能性は感じなかったですね。ただ今の日本の絵画のありようにも同じ空気を感じているのですが……。

◆**金井**　今言われている、例えばイタリアだと、トランスアヴァングァルディアと言って、英語とイタリア語の合体で、かなり微妙なネーミングなのですが、まさにナイーブなものが続々と登場していた。おっしゃるように、クレメンテという画家は少し性格が違って、瞑想的な魅力があるんですけれども、それはそれとして。

ニューペインティングの話が出たんですけれど、そうしたいわゆる絵画の復権を、母袋先生はドイツの状況に即して、また、日本の状況についてもご存じだと思います。70年代末から80年代に日本の美術には何が起こっていたのか、それは表現の問題でもいいし、システムの問題でもいいし、つまり制度でもマーケットの問題でもいいし、母袋さんご自身が、フランクフルトにいらっしゃったころ、日本では何が起こっていたんでしょうか。フランクフルトにいらっしゃったから、距離はあるんですけれど……。

◆**母袋**　僕のドイツ滞在は、アートシーンに深く関わるというよりも、僕の先生だったライマー・ヨヒムスという美術史のドクターを持っていたペインター、彼のもとで本当に勉強した時期でもあり、アートシーンにどういう風に関わるかというよりも、大学という場の中で美術史を、フォーマリズムの考え方を、さまざまな理念についてじっくり取り組んでいたので、正に勉強していたという感じなんですね。だから、むしろシーンとは、断絶はしていませんでしたが、少し離れたところに位置していたんです。

今日はむしろ日本で何が起きたかということでいうことを、思想史、美術史も含めて話せればいいかなとちょっと思っていたことが一つありました。今がどういう時代なのかということもあるのですが、例えばポストモダンという時代区分もあるわけじゃないですか。それはでも決定的にモダニズムとは違いますよね。モダニズムというのは、単一的な単線的な一つの答えが常に更新されていきます。ということは、多様を認めないということになるんですよね。それに対して、ポストモダンということは、周辺というか全てありますよということになるわけじゃないですか。だから中心がないということになるわけですよね。

そう考えたときに、日本の現代美術、こんな言い方ももはや存在しないとも思うのですが、日本のそれは、今もってモダニズム的な捉え方しか持っていないような気がするんですね。今年はこういうことになりました、と、モードの展開だけしているような。そう考えたときに、例えば時代思潮と芸術とか美術とかを考えたときに、作家というのは頭は良くはないかもしれませんが、感覚的に極めてするどいものがあって鋭敏に反応し、哲学や科学者が感じたりする前になにかを受け止め、それを表象することができる先見性を持っている。それが芸術、あるいはアートというものかもしれないと言う風に、どっかで僕は思っていたんですね。ですけれど、ポストモダンという概念の起こりからすればですけれど、ポストモダンて建築からですよね。もともと1970年代、僕の学生時代に当る1970年代中盤くらい、後半ですかね。ポストモダンというのが建築において始まるわけですよね。それに追従するように思想界がポストモダンになってくるわけですよね。僕らが美術をやっている学生であった僕が体験した1970年においては、実践的な美術においてはバリバリのモダンで、要するになんとかイズムが終わったら、今度はなんとかなのか、それで待ちに待っていたときに今度はニューペインティングというのがあらわれましたよと。マーケット的にもにっちもさっちもいかなかったときに「これは売れるかも知れないよ」と爆発的にヒットにつながっていったというのがニューペインティングだったと思います。ただ、日本の場合はマーケット自体がそもそもないから、そういう形にはならなかったということなのかなと思うのですけれど。だけど、1970年代に、思想界にフーコーですとかデリダだとか登場し、学生である僕も日本語でしたけど、本を買ったりしているわけです。そう考えたときに美術のポストモダニティみたいなものは、今もって実はほとんど体現されて

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987〜2018　M1−M600

いないという風に僕には見えて……。最低でも美術大学においてはそうですよね。美術大学では、モダニズムの継続の中にポストモダンのような作風のものがあらわれているに過ぎなくて、マーケットというか日本のアートシーンもそのようなものなんじゃないかなと思えなくもない。そうなると美術の先見性と言うこと自体に実は限界というか問題があるという風に残念ながら自覚しなくちゃいけないのかなと。

◆金井　今思うことは、80年代には差異を生むこと、それが今日ではもっと支配的・単一的に世界を包んでいるわけですが、そういった差異の産出が、ニューペインティングの興隆を支えていたな、ということです。差異が売られたということなんだと思うんです。それをもしポストモダンと呼ぶのであれば、それもまたよしという時代だったのだと思います。用語が建築によってリードされることによって、一定の見える形に落とし込まれたのかもしれませんね。それに対して今はなにかというと、これはもう盛んに言われすぎて言葉としてはエッジがなくなってしまいましたけれども、いわゆるダイヴァーシティ、多様性というようなところに僕らのアクセントは明らかに移っています。そういった現在において、アートというのはどういうエッジを持つのかということなんですが、普通に考えると難しいんですよね、やっぱり。とはいえ私は、この状況を結構楽しんでいます。というのも、鶴見俊輔が「限界芸術」と見立てたことの逆のことが、今起こっていると思っているんです。鶴見俊輔がお作法どおりの芸術の脇にあること、限界、マージンに対して示した活路を、そのまま美術に置き換えて考えることができるようになった、と。今明らかに、美術よりも人類学だと思うんですよね、リードしているのは。イメージ人類学ですとか、映像人類学といったところでの研究の生産・蓄積には目を見張るものがある。そうした現状分析をふまえて、しかし、観点を変えれば、美術を考えることには、逆に限界人類学的な意義があるのではないか、人類学のマージンとしてかなりしぶとい価値をもつのではないかと思うのですね。いわゆる主導権は、もしかすると、別の大きな学問に明け渡したかもしれないけれど、美術をめぐって考えるということが、今僕らが重視している人類学的な21 世紀的なアプローチに対して、結果的に、いい歯止めになったり、アクセントになったり、エッジになったりする可能性はないだろうかという、一種、逆転の発想です。その中で、作家さんがどういう作品を作るかという重要な問題が私には語り切れていないわけですけれども、これについてはまた別の機会に考えたいです。授業としてはこのあたりでいったん締めていきますので、まとめとして、母袋先生から学生たちにひとことお願いします。

◆母袋　みなさん、どういうご専門なのかわかりませんけど、僕の場合は絵を描くようになって、絵を中心に考え、制作しているわけですけど、不確かなものってたくさんあって、その不確かなものの中にこそ確かなものがあるのではないかなという風にどこかで思っているんですね。絵というのはイリュージョンなわけですから、そこにあるのは本物ではなくて、嘘のもの、実体ではなく、虚なものとして。それがゆえに、虚と真実の中間というか、いったりきたりの往還の中に確かなものがあるというわけですけれども。それぞれのご専門の中にもそういったところがきっとあるのではないかなという風に思えなくはなくて、それは、さっき冗談っぽく、人文系のことを文科省がどういう風に思っているかみたいなことも含めてそうですけど、確かなものであるということが、確かなものではないということの方が多くて、なので、さきほどパウル・クレーがなぜ天使の絵を描いたのかというと、天使がかわいらしいイラストレーションのように見えたから描いたのではなくて、より確かなものを見つめたい、確かなものがどっかにあるはずだというときに先ほど先生がおっしゃった「媒介」として天使があるわけですよね。表象、リプレゼンテーションとして天使がいるわけだから。僕のような絵を描くものにとって、あのベンヤミンが自殺を

する最後の最後のときに、パウル・クレーが描いた《新しき天使》とを持っていたというのは、僕にとって大きな励みになるわけです。大哲学者であるベンヤミンが、パウル・クレーの絵を持っていたのだ、それが天使の絵だったのだ。でも、考えてみると、パウル・クレーは自分の活動自体を天使だと思ったのだと思うし、ベンヤミン自身もご自身の活動を天使のように思えたんだと思うんですよね。それは、思う人が思わない限り、思うことができないことだと思うので、ぜひ、みなさんこれからどういう活動を行っていくのかわからないですけれども、重要な活動に違いないと思うので、一緒に頑張って行けたらいいかなと思っていますけれど。

◆金井　このなかには４年生の学生さんもいると思います。卒業に向けての母袋先生からの励ましの言葉というか、人生への導きという風に、受け止めて刻んでください。2、3年生のみなさんもぜひ、これからの研究や将来を考えるヒントにしてください。母袋先生、ありがとうございました。

※（〈TA系〉〈Qf系〉〈奇数連携〉の表記は、2018年の作品集『母袋俊也　絵画』刊行を契機に〈TA系〉→〈TA〉系、〈Qf系〉→〈Qf〉系、〈奇数連携〉→〈奇数連結〉に改変した。本対談は、それ以前の収録であり、改変前の表記のままとした。）

はじめに

◆母袋　金井先生、一部のレクチャー「albusへ：図像学とフォーマリズムからあふれる表面をめぐって」有難うございました。それでは第二部、「レクチャーを受けての対話」に入っていこうと思います。

先生は１年間のサバティカルでイタリアで研究なさっていらしたので、その間の僕の活動、展示をご覧になっていらっしゃらない。そこで先ずは展示動画がいくつかありますので、それを見ていただきながら、それを見終わった段階で、先ほどの話と、僕の活動を含めて、お話を繋げていければいいかなと思います。途中から皆さんも意見を言ってもらえればいいのかなと思っています。では始めます。

奈義町現代美術館での試み　〈TA〉系・〈Qf〉系

註1　「母袋俊也《Koiga-Kubo》1993/2017　そして〈Qf〉」展
奈義町現代美術館企画展示室
2017年10月21日（土）～12月3日（日）
に開催。

図1　母袋俊也展
奈義町現代美術館　展示室１

図2　M566　TA・Koiga-Kubo
182.5×890㎝（6枚組）　2017

図3　M76　Koiga-Kubo
182.5×890㎝（12枚組）　1992～1993

これは、１年前の岡山県の奈義町現代美術館での個展「母袋俊也《Koiga-kubo》1993／2017そして＜Qf＞」（註1）の動画です。企画展示室は二室あって、大展示室では〈TA〉系、もう一方では〈Qf〉系を展示しました。

こちらの方、今見ていただいているのが大展示室（図1）。横長フォーマート、偶数組パネルで、風景をテーマにして描いている〈TA〉系の〈Koiga-Kubo>新旧２作と〈枠窓〉〈絵画のための垂直箱窓〉などの装置作品で展示構成されています。

こちらが展覧会タイトルにもなっている作品《TA・Koiga-Kubo》（図2）2018年バージョンになります。壁面上部には天井ギリギリ高さ360cmまで複数の《Himmmel Bild》（図2）が掲げられています。「Himmmel Bild」というタイトルですが、Himmelヒンメルというのは、ドイツ語の「空」「天」という意味で、Bildビルドというのは「絵」または「像」という意味ですから、「空の絵」、「空の像」、あるいは「天の像」となります。そもそも絵は実体そのものではなくイリュージョンだと揶揄されたりするわけです。空は実体ではなく酸素と水素が光を受け色を生成させる現象なのですが、そこには確かなものがあると僕は考えるのです。それはまた、どこかパレット上で様々な色が次々と生まれては消えていく様のようでもあります。ならばそのパレット上の出来事をＦ10号のキャンバスへ油絵の具で移し返すだけの作品があってもいいのではないかと……。ただ展示に際しては、壁の上方に展示をするということが約束事になっています。

こちらが1993年作《Koiga-Kubo》（図3）という作品なんですね。岡山県の鯉ヶ窪という湿地帯を描いた作品です。実は僕の家内は岡山の新見市出身で、結婚当時、義理の父は鳥取、島根、岡山県内のいろいろなところへ車で連れて行ってくれたのですが、そんな中で県北西の鯉ヶ窪を訪れた時の光り輝く湿地帯の光景に感銘を受けて描いたのがこの《Koiga-Kubo》だったのです。

岡山での展示ということで、あれこれ展示構成を練っている時、岡山を描いたこの《Koiga-Kubo》を軸に展示する発想が浮かんできたんです。この作品は典型的な〈TA〉系作品といえるのですね。〈TA〉系は86年から始まったフォーマート追究の中でも最も中心的な系列になります。〈TA〉系の構造というか特徴は、横長フォーマートで偶数連結、水平のラインが一本あり、余白と色柱が交互に繰り返していて、この時期1993年当時にはほぼ確立しているのです。ただ、タイトルに「TA」がつくのは1995年以降になるので、まだ「TA」はついていません。

そこで同一フォーマートで2018年バージョンを制作、新旧2作の《Koiga-Kubo》を対峙的に、対面に展示をすることで、僕自身が〈TA〉系を確認していきたいなという思いに

図4　絵画のための垂直箱窓　枠窓

註2　〈絵画のための見晴らし小屋〉系装置的作品
1999年の《絵画のための見晴らし小屋》第一作以降〈絵画のための垂直箱窓〉〈ヤコブの梯子〉〈枠窓〉などの様々なフォーマートの窓・枠で対象を切り取る視覚体験装置。書籍　母袋俊也作品集Vol 1『絵画のための見晴らし小屋』、東京造形大学研究報2017「母袋俊也〈絵画のための見晴らし小屋〉1999～2016－絵画原理にむけて拓かれた窓を有す視覚体験装置、その構想と構造」に詳しい。

註3　磯崎新（1931～）
ポストモダン建築を牽引した建築家。1990年代にロサンゼルス現代美術館を皮切りに、群馬県立近代美術館、水戸芸術館、北九州市立美術館等、美術館建築を手がけ、ルーブル美術館（1793年）などを第一世代、ニューヨーク近代美術館（1939年）などに代表される白い壁のニュートラルなホワイトキューブな展示空間を備えた第二世代、それらに対して第三世代は、場との固有性を求めサイトスペシフィックな美術館を目指すと分類した。

註4　白井晟一（1905～1983）
建築家。京都高等工芸学校卒後、ハイデルベルク大学、ベルリン大学でヤスパースに学ぶ。帰国後、モダニズム建築に迎合せず、象徴的な形態と光による精神性の強い独自な建築、ノアビル、親和銀行大波止支店、渋谷区立松涛美術館などを残す。1955年には「原爆堂計画」を立案。本学付属マンズー美術館は生前の『M美術館計画案』をもとに白井晟一研究所によるものである。

至ったのです。さらに最近、「枠の問題」や「像の現出性」などへの関心として試みている〈絵画のための見晴らし小屋〉系装置的作品（註2）の《絵画のための垂直箱窓》（図4）や《枠窓》（図4）なども設営することにしたのです。

もうひとつ、この美術館は磯崎新建築で1994年、磯崎新（註3）さん自身が世代別美術館の分類では第三世代、サイト・スペッシフィック時代の代表作と位置づけています。これは偶然でもあるのですが、93年制作の《Koiga-Kubo》とは一年違い。

また東京造形大学の高尾から相原へのキャンパス移転は93年、建築は磯崎さんなのです。その後、大学院棟やＣＳプラザなど新設されていますが、当時は美術館は白井晟一（註4）ですが、それ以外すべて磯崎建築なのでした。時期も近いので実際に、美術館の内部に意匠として扱われているガリバリウムが、色は違いますが大学の４号館外壁のガリバリウムと同じだったりと、いろいろなところで、親和性、共通項を発見したりしたのでした。

93年の旧作《Koiga-Kubo》の前面には《枠窓》や垂直に立っている《絵画のための垂直箱窓》と名付けられた〈見晴らし小屋〉系作品が設営されています。

《枠窓》はフレームそのものが宙に浮いている状態ですが、〈垂直箱窓〉では視点穴と対面に切られた窓が限定されていて対象は固定されています。これらのフレームで切り取られるのは、背後にある僕が描いた絵そのものということになります。それが再び絵画作品のように、薄い膜の平らな面としてフレーム上によりイリュージョン性を増幅させ画像として現れるわけです。これは「膜状性」という造語を作って僕が関心を寄せている［像］「絵画」の特性を顕かにしようという試みでもあるのです。

新旧２作は〈TA〉系、偶数組ですが旧作は12枚組、一方新作は６枚組。描材も旧作はテンペラに油彩、新作はアクリルに油彩。筆致も旧作は縦にタッチ、新作は横などと微妙に差異があるのです。

では、もうひとつの展示室。こちらはやや形態が違うんです。というのは壁が垂直に立っているのではなくて、上方の面が少し内側に向いていてお堂のような形になっているんですね。こちらには〈Qf〉を展示するように考え、照度を落とし〈TA〉とは対峙的に〈Qf〉系作品を展示（図5）しています。

2001年に開始した〈Qf〉系も様々変遷があるのですが、2009年以降は90㎝×90㎝の板に描くというのが原則になっているんです。今回は90㎝×90㎝の板を支持体にして側面を削り出し、膜状化というか膜状性を顕かにする〈Qf SHOH 90・Holz〉のみの展示になっています。ちなみにHolzとはドイツ語で、木材、木という意味です。

ギャラリーなつかでの試み　〈Qf〉系

今度は、ギャラリーなつかで開催した〈Qf〉系だけでまとめた展覧会（註5）です。去年は、『絵画のための見晴らし小屋』の作品集（註6）を出版したんですけれど、今年は作品集『母袋俊也　絵画』（註7）を刊行、その出版記念の展覧会という形で、展覧会を二つ開催しまして、その書籍では、系列ごとに纏める編集だったので、展覧会も系列に沿った二つの展示にしたのでした。一つが縦長の作品〈バーティカル〉だけを集めた展示をギャラリーTAGA（註8）。こちら、ギャラリーなつかでは〈Qf〉系の作品をまとめた展示（図6）です。回顧するということではギャラリーは小さかったのですが、小さいながらも2001年の〈Qf〉系第一作《Quadrat／full 1》（図7：右）からの〈Qf〉系の大きな流れがつかめる展示になるように心がけました。

これは〈Qf のキューブ〉（図8）という作品で、立方体の一面が〈Qf〉作品となっています。実は〈Qf〉系作品の目指している空間性というのは、立方体を想定しているのです。

図5　母袋俊也展 奈義町現代美術館　展示室2

註5　「母袋俊也〈Qf〉源泉と照射」展
2018年5月28日～6月9日　ギャラリーなつか

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

図6　母袋俊也展　ギャラリーなつか

図7　M307 Quadrat/full 1 160×160㎝　2001（右）

図8　Qfキューブ90

図9　M337 Qf・SHOH220 220×220㎝　2003（左）

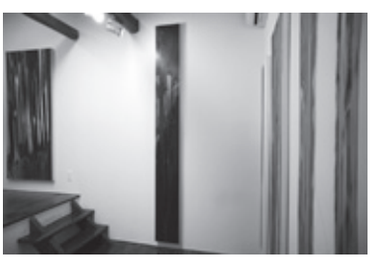


図10　母袋俊也展　ギャラリーTAGA 2
M293 magino 8　260×30㎝　2000

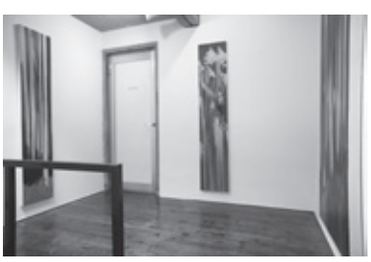


図11　M577 V・20120809　164×31.8㎝　2018
M578 V・20141021　164×31.8㎝　2018

絵画の空間性は通常は、線的遠近法がそうであるように奥のほうへ引いていくということなのでしょうけど、〈Qf〉で僕が実現したいと考えているのは、手前に押し寄せて来る空間性なのです。ですから、90㎝角の作品だとすると画面から90cm手前に出てくる空間性なのです。そこで僕が想定している空間性の手がかりとして、視覚的にも作品としてもそれが具現化できないかというのが、〈Qf のキューブ〉なのです。

これは、220cm×220cm、〈Qf 〉系最大の作品《Qf　SHOH　220》（図9：左）です。今は〈Qf〉に大きさは求めないのですが、2003年には、大きなQfの作品を作りたいという一心で、この時は作っていました。ただ、この作品で、描かれるモチーフのイエスや阿弥陀の手などの形が画面の外に色もタッチも脱出することなく、ビリヤードの玉が、枠の外に出ることなく永遠に枠の中を廻るように画面内を旋回するという原則が確立したのでした。

以上、あともう一つ、ギャラリー TAGA 2でのバーティカルの展覧会（図10，11、12）の説明をしたいんですけれど、それは動画がないので、金井先生に見ていただきたかった作品はこれらです。

では、金井先生に復帰していただいて、今の動画を含めてお話が勧められたらいいかなと思っています。よろしくお願いします。

2016年信大での対話　3 っのポイント「膜状性」「眼差される」「像のずれ」

◆金井　よろしくお願いします。以前、お話をご一緒させていただいた機会があって、その時に、母袋さんの作品と向き合うためのいくつかの観点を共有できたかと思います。それが何であったかといえば、一つ目は、今のお話にもありましたけれど、膜状性です。皮膜として絵画を捉えること。もう一つは、今のお話では直接は出て来なかったかもしれないですけれど、「眼差される」というのでしょうか、絵の方から、画面の方から、こちらに、見る側へと向かってくるということ。それからもう一つ、今の二つの点にも関わるんですけれども、視点の移動によって、絵がずれるということ。像自体がずれるというか。揺れていく。これら３点をふまえつつ、まずお訊ねしたいのは、旧作と新作を対峙させるという展示の効果です。その空間の中で何が見えてきたかということです。膜状性、眼差されること、ずれ、は、どのような可能性に開かれたでし.ょうか。

〈TA〉新旧作品の対面展示と枠･膜状性

◆母袋　今おっしゃられた、「見、そして見られる」関係みたいな、その「眼差される」関係、それは絵画の本質としてどの系列に対しても、そういうことを求めてはいるのですが、より積極的に使命としているのは〈Qf 〉と考えているんです。後ほど〈Qf 〉の展示のところで詳しく触れたく思います。今はちゃんと説明できなかったんですが､今回〈TA〉の作品は古い作品と新しい作品を出品しています。僕のフォーマート研究と制作は〈TA〉系から始まっていて、随分時間をかけて描いてきています。それを僕自身が一度見て見たいなというのが一つありました。そしてもう一つが対面展示。通常風景というのは、大地があって空がある。その地平線の大地ギリギリのところに視点があって、その大地と空は上下に二分され水平方向に伸びていると思うんですけれども、先ほどの鯉ヶ窪は湿地帯なので、水面が反射し水平ラインを軸として上下にリフレクションしているわけです。そこで会場に新旧作品を対面展示（図13）し、時代を隔てて同一テーマ同一フォーマートをこ

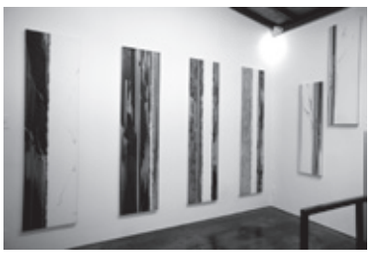


図12
M446 V・Misogihagi 1（M83 OP），M447 V・Misogihagi 2（M80 OP），M448 V Misogihagi 3（M84 OP），M449 V・Misogihagi 4（M87 OP）
182×45㎝　2013

図13
M76 Koiga-Kubo　182.5×890㎝（12枚組）1993
M566 TA・Koiga-Kubo 182.5×890㎝（6枚組）2017

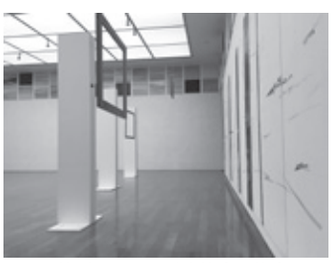


図14　絵画のための垂直箱窓　枠窓

こでもリフレクションさせるという展示を考えていったんです。

今回〈TA〉の旧作では《枠窓》《絵画のための垂直箱窓》を前面に設営（図14）するように、膜状性や見、見られる関係に対して試みていますが、よりラディカルに試みていこうとしているのは〈Qf〉の方と位置付けています。

◆金井　〈TA〉の展示においては、作品の対面というリフレクションに加え、イメージの中にもリフレクションがあるのですね。そこに〈枠窓〉が据えられる。ところで、そのフレーミングによる方向性・指向性については、どのようにお考えでしょうか。簡単に言ってしまうと、フレームの両側から、それぞれの壁面の絵を覗くことができるわけですが。そうした構造については、いかがでしょうか。

◆母袋　93年の〈TA〉旧作の前にのみフレームを設営しました。それは一方では、ちゃんと絵を見て欲しいなという気持ちと、僕自身がちゃんと絵を見てみたいという思いも同時にあるわけです。そこで、僕にとっては既に知っている93年の方のみに集中して、〈垂直箱窓〉と、〈枠窓〉を設営しようという風に思ったんですね。

枠とそれによって切り取られ膜状化した像（図15、16）の問題はとても興味深いのです。それは視点と対象の問題なのですが、先生がおっしゃったように身体が移動していくときに像は崩れていきますよね。そこのタイミングみたいなものも面白くて、ですから、本来、絵があってフレームがあったりすると、フレーム越しに見たとき、その絵画面自体が手前の枠のところに近づいてくる感覚は、とてもリアリティを感じるが、一たび視点位置がずれると像は崩れ、枠の面上に現れていた像は奥の絵画面に戻っていってしまう。視点から遠ざかっていってしまうのですね。それは異方性／等方性というちょっと難しい概念とも関連するのでしょうが、絵画と視線、ことに異方性の相関にはすごく関心があるところなのです。ですから動画撮影の際には、枠で捉えられた姿とそれが崩れていく瞬間、その枠の設営されている位置も含めて撮っていきたいと……。

ですから、〈垂直箱窓〉には視点穴と窓の二つがあることで像を固定化しているのですが、窓のほうから視点穴の方に見ていくように撮影しています。ただ、本来はそのようには見ないわけです。

◆金井　窓や枠、視点穴が惹起する異方性ですね。そして、それに対するところのQfということになるのだと思います。〈Qf〉についてのさきほどのお話を伺っていて、すごくおもしろく思ったのが、板を削り出すことによって、支持体のところに一つの層を与えるということです。ここでもやはりイコンを連想します。ヴィチェンツアにイコンの大コレクションがあって、それは美術作品として展示されているのだけれど、それぞれのイコンには独特のレイヤーというか、端的に言えば、長年の加筆があって、なにが、どこがオリジナルか語りがたい厚みがあります。さらに、その図像部分、つまり聖母やキリストの顔立ちですが、それらを見せつつ護るかのように、独特のかたちの金属フレームが施されている。イメージの、いわば手前に来る、そして奥に収まる厚みを増幅させているのですが、そうしたイコンの効果にご関心はお持ちでしょうか。

〈Qf〉イコン・手前に押し寄せる空間性

◆母袋　リテラルな厚みということには関心がない、というか遠ざけようとしているのが僕の立場のようです。むしろ徹底的に薄さを示そうとしつつ、こちらに押し寄せてくる空間性を模索しているのです。そもそもその装飾はオクラード（註9）とか言う金属の覆いで、

註6 『絵画のための見晴らし小屋　母袋俊也作品集Vol.1』
編集 櫻井拓　デザイン 小沼宏之
A5判並製、オールカラー 68頁、表紙切抜加工、A2判変型の作品年表・系統図付　和英併記　発行：BLUE ART

註7 『母袋俊也　絵画　母袋俊也作品集Vol.2』
編集 櫻井拓　デザイン 小沼宏之
A5判（ヨコ型）並製、オールカラー 116頁、和英併記、函（スリーブケース）付き　発行：BLUE ART

註8 「母袋俊也〈バーティカル〉展
ギャラリー TAGA 2　2018年6月7日～7月2日開催。

註9　オクラード
聖人の顔、手などを残し光輪部などに金属の打ち出しや宝石象嵌を施した覆い。

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

図15　枠窓

図16　窓：絵画のための垂直箱窓

それは金や銀だったと思われます。高価な金属が故に盗難や換金によって今はほとんど喪失して釘の跡だけが残っているのです。ではその金に細工を施したオクラードは一体なんなのかというと、背後から押し寄せてくる見えもしない光を金というマテリアルを使用、実際に手前に実体化させているのです。

それってやはり、考えがすごく面白くて、背後にある光というものが、実体化させているのでしょうが、僕は表象させたいのです。そこには大きな隔たりを僕は感じます。
そういうことでいうと、そういう空間性を作りたいという気持ちは、僕の中にあるんですよね。ですからさっきの〈Qfキューブ〉という立方体、あれはいってみると、すごく厚みのある膜の層みたいなことでもあるんです。

それっていうのも、そもそも90cm×90cmの〈Qf〉の絵の空間性というのは、遠のいていくような深い遠近感のある奥行きのある空間ではなくて、僕が設定しているのは奥ではなく手前に90cmせり出した空間として絵を描こうとしているんですね。それをどうにか表すことができないかという試みとして、〈Qfキューブ〉を作っているんですけれど、と同時にさっきのイコンの金細工を使っているというようなことでいれば、実際には、僕の思いとしては、イコンの場合は背後にある聖なる世界から発する光が画面のイコンを経て信者に向けられているものもあるとすると、僕の場合は、空間性ということでいうと、奥ではなく手前に押し寄せてくる、90cm×90cmの厚みで、手前に押し出てくるものを作りたいなと思っているんですね。

◆金井　それは絵画をめぐる身体性の問題でもありますよね。その意味では、作品のサイズも気になるところです。例えば220cmであれば、収まりも広くなって、明らかに我々を大きく包むわけですが、しかし、主に90cmというサイズで制作を展開されています。その辺り、何かお聞かせいただけますか？

◆母袋　はい、身体をはるかに超えたサイズの場合、それは環境になってしまいます。対面しているのがイリュージョンというか、シャイン・仮象であるという気づきを遅らせてしまいます。この逆説的な自覚というか気づきはとても大切なものと考えているのです。

大きくないことに加えて、ベニヤの短辺が90cmということがありました。「膜状性」のための側面削り落としのためには木枠ではなく板の必要があります。90cm角のサイズは僕にとって小さいサイズにはなりますが、大きい必要はないと思っているんです。イコンの場合も、大きなロシア教会の中では、イコノスタシスは決して小さくはなく、一定の大きさはありますが、そこは絵の力みたいなことでいうと必ずしも大きい必要はないというとも思っているのです。

大きさも確かに表現の力の一つであるとは思いますが、その力が一体どこに向けられた力なのかが問題なのだと思うんです。

最初、少し先生がおっしゃられたと思うんですけれども、最近ちょっと話題になったヤノベケンジさんの作品（註10）はすごく大きいのですね。実際2012年の福島ビエンナーレに参加した際に見ていますけれど、その大きさというのは一体どこに向けられているのか？もちろん大きさとは力だから、力を信じたい、力を示したいのだとすれば、それは、美術の力なのか、あるいはマイノリティの人たちの力なのかとか？　様々あると思うんですけれど……。ベラスケスもルーベンスも大きい、宮廷画家ですから。ダヴィットも大きい、ナポレオンを描くのだから。また抽象表現主義も大きいです。もちろん画面の内側に入ってしまうような大きさ、オールオーバーな画面を身体を通して実現したかったということもあるのでしょうが、一方では国策としてアメリカの大きさを示したかったのだろうと思うのです。明らかに行き先は個人に送られるものではなく、送り先は美術館であり、美術史という大きな物語にむけられていて、そのためにあの大きさが必要であった。とい

註10 《サン・チャイルド》2011年
ヤノベケンジ作。
胸に「0」を表示したガイガーカウンターを付け、空を見上げる防護服姿の6.2mの巨大彫像。2012年の福島現代ビエンナーレでは福島空港ロビーに展示される。その後様々な経緯を経て2018年福島市内の公共空間に設置されたが、批判を受け撤去された。

註11　アンドレイ・ルブリョフ
（1360頃－1430）
15世紀ロシアの最も重要なイコン画家。モスクワのブラゴヴェーシェンスキー聖堂、ウラジミールノウスペンスキー大聖堂の壁画、イコンを制作。ザゴルスクの聖セルギーのために描かれた、創世記17章に材をとった『聖三位一体』（＝『至聖三者』）はイコンの名作。タルコフスキーが1967年に映画『アンドレイ・ルブリョフ』を製作。

図17　M450
《Qf･SHOH〈掌〉90・Holz-5》

図18　アンドレイ･ルブリョフ
聖三位一体　142×114㎝　1422-27

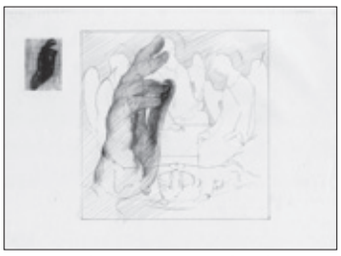


図19　Qfブランドローイング　グレークの手

註12　フェオファン・グレーク
（1350頃－1410）
ギリシア出身のロシアのイコン作家。1370年ロシアに移り、1395年にモスクワに移り住んだ。ルブリョフの師とされる。作品にはノヴゴロド、ソパソ・プレオブラジェーニエの聖堂の天井フレスコ画、モスクワ、クレムリン、ブラゴヴェーシェンスキー聖堂のイコノスタシスなど。

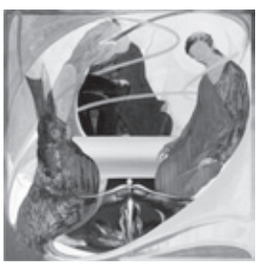


図20　M502 Qf SHOH《掌》90・HOlz-15
90×90cm　2014

う風に見えなくはないですよね。

そういうことでいうと、今僕が〈Qf〉の中でやろうとしていることでは、大きい必要はなくて、むしろイコンでもハウスイコンというのがあって、教会ではなくそれぞれのお家に小さなイコンがあった。そしてそこでは濃密な視覚体験を通した精神世界が繰り広げられていたのだと思うのです。小さくてもちゃんと力を発揮することができる。むしろ小さいから濃密な関係が築かれることもある。そこからすると、僕がやっている〈Qf〉には、大きさは必要ないという結論が出ている。

2003年当時、220㎝角の〈Qf〉作品を２点制作したんですが、それ以後150～160cmm角となり、さらに90㎝角となっていくのです。220㎝角の作品では画面の外側にラインが脱出せず画面内を旋回する原則ができたという点で重要な作品なのですが、あまり見て欲しい作品ではないんだけれど、勇気を持って出したということなんです。

◆金井　わかりました。先生もおっしゃった通り、イコンはポータブルであったり、小型のものも多いわけですが、場合によってはそこに、一つの街を支えるような大きな力が求められるのですよね。そうした物理的な大小を超えた力能の可能性にこそ向き合うべきかもしれませんね。

ところで、描かれている形象、図についても、改めて伺わせてください。〈Qf〉のシリーズにおいて、基本的には当初から、同じモチーフをお使いになっている印象があるのですが、いかがでしょうか？

〈Qf〉モデル　描かれるイメージ

◆母袋　例えばこれはM450《Qf･SHOH〈掌〉90・Holz-5》（図17）ですが、いくつかのモチーフがあります。先ず主要なモチーフとしてはルブリョフ（註11）の描いた《聖三位一体》（図18）。人型が見えると思いますが、これは三人の天使で、テーブルを囲んでいて中央には聖杯があります。

それと、ちょっとわかりづらいんですがグレーク（註12）の描いたイエスの手（図19）です。右手を天にむけ立てて親指と薬指を結んでいます。彼はルブリョフの先輩格にあたるイコン作家でグレークという名からするとギリシャ人ですよね。ギリシャから来たイコン作家だったのでしょう。ただイコンの作家というふうに言いますけれど、本来のイコンは厳密に決められた画像を繰り返し繰り返し教義のように描いていくのですから。そこには作家性はないわけです。

それからするとルブリョフやグレークには作家性の目覚めのようなものが認められるわけで、イコン作家が無名性であるということならば最後のイコン作家みたい存在なのだと思います。

それと阿弥陀如来の手（図20）があるんですね。親指の先端を重ね定印を結んでいます。この３つが〈Qf〉の主要なモチーフになっています。

◆金井　それらのモチーフを常にということですよね。一つひとつのモチーフの面白さ、豊かさがありますよね。ところで、その選択には、どのような背景や経緯があるのでしょうか。

図21　M307 Quadratfull 1　160×160㎝　2001

図22　グリューヴァルト　磔刑図

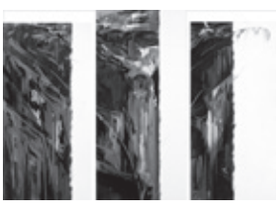


図23　M261　ta・KK・ei 1
220×335㎝（3枚組）　1997

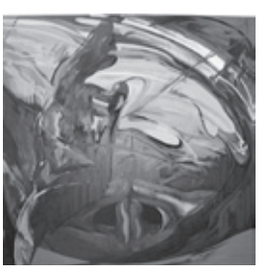


図24　M334 Qf・SHOH 掌2
160×160cm　2003

註13　グリューネヴァルト
（1470/75－1528）
ルネサンス期ドイツの画家。本名マティス・ゴットハルト・ナイトハルト。ヴュルツブルク生まれマインツの宮廷画家と推定されるが詳細は不明。ルネサンス期の作家であるがゴシック的要素を色濃く残し、有機性の高い形態と色彩は深い精神的内面性を現している。その真価は20世紀に入りドイツ表現主義形成期に再評価された。

註14　「TA・SHOH〈掌〉–Qf・SHOH〈掌〉」展
ギャラリーなつか　2003年2月24日～3月15日　開催。
M332《TA・SHOH掌　》220×1757㎝（14枚組）、M333《Qf・SHOH 掌1》、M334《Qf・SHOH 掌2》160×160㎝　2003　を出品。阿弥陀如来とイエスの手をモチーフとした〈TA〉〈Qf〉両系の作品を発表。

「磔刑図」から「掌・SHOH」へ

◆母袋　そもそも〈Qf〉系ということでいうと、一番最初は2001年に《Qurdrat/full》（図21）というタイトルで160×160㎝の3作を制作していました。ちなみにQuadratはドイツ語で正方形です。モデルはグリューネバルト（註13）の《磔刑図》（図22）なんですね。実は僕はコルマールに出かけ調査取材をし、1998年に３枚組の《ta・KK・ei》（図23）を描いているのですが、その中心性のある〈奇数連結〉での試みが後に垂直軸にも水平軸にも中心性のある平方形フォーマートで展開していくことになったのでした。それが《Qurdrat/full》だったのです。

2003年には、先ほどの阿弥陀如来の定印と、イエスの手が入っているんですがまだルブリョッフの《聖三位一体》は登場していません。タイトルは《Qf・SHOH〈掌〉》「掌」がついていますが、掌というのはたなごころですから、手の外形よりも手の内側に対する意識みたいなことですよね。定印にしてもイエス・キリストの手にしても、手の内側への意識、祈りに通じるような何か、メディテーションの役割があるようにしたいなと思っての命名だったわけです。

この時は、「TA・SHOH〈掌〉－Qf・SHOH〈掌〉」という展覧会（註14）をしているんです。ですからこの時点では、〈TA〉系でもイエスやブッタの手を描く試みをしていたのですが、その後このモチーフは〈Qf〉系のみが引き受けていくようになるのです。その2003年というのは、ちょうどイラク戦争が、勃発する直前で、最近もずっと嫌な空気が流れ続けていますが、その当時も本当に、嫌な空気が流れていました。一方で2000年に僕は今までの作品をフォーマートのレゾネという形で紀要（註15）に纏めたんですね。僕のテーマは、「フォーマートと精神性」、予算の都合でカラー図版は扱えないので、画像なしの輪郭だけで纏めたんです。それはある意味で、本当にフォーマートの問題を検証する機会になったのですが、その時僕は一枚の絵も描いてこなかったようにも思えたのでした。だってそこにあるのは輪郭だけですから木枠をつくっただけと変わらないわけです。その時にすごく悔しい気持ちになって、しばらく考えているうちに、それは僕だけの問題ではなく20世紀後半の絵画というのは、「絵画とはどういうことなのか」と徹底的に自己言及的に問いかけ、フォーマリスティックに絵画の本質を明らかにしてきた。けれどみんな一枚の絵も描かなかった。画家は「絵画」を追究したが「絵」を描かなかったと、思い至ったのでした。じゃあ、一枚の絵というのはなんなのかといえば、先生の今日のレクチャーのテーマである「図像学とフォーマリズム」ということでいえば、図像学的視点、すなわち意味、シニフィエとしての絵、何がテーマで、どういう画像を描いていくのかみたいなことだとすれば、それがきっと欠けていたのかなと考えたのです。小さな子供が描く絵も、障害を持った時にアウトサイダーと呼ばれるの方々が描く絵も、そこには充分に生気感に満ちた表現がある。そうした中でかつて体験として僕の中にあったイコンと阿弥陀如来の祈りの像がどこからか浮んできたのでした。そしてその阿弥陀如来とイエスの手を思っているのならば、ここから始めるしかないだろう。と正方形フォーマートで描いたのが《Qf・SHOH 掌1》と《Qf・SHOH 掌2》（図24）でした。

その展覧会に際しての「“TA・SHOH-Qf・SHOH”〈絵〉／〈絵画〉に寄せて」というテクスト（註16）の中、冒頭僕は「絵を描く者にとって、絵は正しくなければならない」と書いています。

ルブリョフの《聖三位一体》は2005年以降、描かれるようになるのですが、どういう場面で描き始めたのか今はもうはっきりしないのです。

僕には、まだソ連時代のロシアでのイコン体験があって、それは今言った、一枚の絵みたいなことに近い体験なのですが、それがルブリョフの絵がモデルとして登場してくることに繋がっていると思うのです。

註15 『母袋俊也　絵画　フォーマート　1989－1999』
「東京造形大学研究報」2000（p.35-68）

図25　M347　Qf・SHOH 150-III
150×150cm　2005

註16 「“TA・SHOH-Qf・SHOH”〈絵〉/〈絵画〉に寄せて」
「東京造形大学研究報別冊13」『母袋俊也　著述集〈絵画へ〉1990－2017』
p.124

図26　M352 Quadratfull 35-II　35×35cm　2005
M346 Qf・SHOH 150-II　150×150cm　2005

図27　Qf Holz作品の側面

図28　Qf Holz作品の展示

図29「Qf・SHOH〈掌〉90・Holz」2014　細部

2005年の《Qf・SHOH 150》（図25）ではルブリョフは入っているんですが、中央のテーブルの位置はかなり上方に描かれています。ですから天使はかなりゆがんで無理矢理押し込まれている感じになっています。どうしてこうなったのかを改めて考えてみると、それは「掌」というタイトルと関係があって、三人の天使も手の部分だけがあればいいのだとこの時は考えたのかもしれません。

◆金井　これは初期の作品ですか？

◆母袋　これは2005年のM346《Qf・SHOH 150-2》M352《Quadratfull35-2》（図26）ですね。この時には〈Qf〉本体に、もう一つここに小さな正方形をつけて、連動させている。〈Qf〉は画面内で完結しているのですが、小さな正方形と連動している。その断絶と連動を試みていたのだと思いますが、その後継続されることはありませんでした。

◆金井　手や足を描くということは何かというと、単に人体を再現するということではなく、観る者に対するアプローチないしキューとして登場することも多いですよね。とくにバロック絵画などを想起すればよいわけですが、突き出た肘、向けられた指先、あらわな足の裏などを介して、我々は絵に導かれる。そうした文法がある。それを考えると、ここで先生が描かれている定印ですとかキリストの手というのは、特別な手であると思います。近いような遠いような、どこに定まるのか、決定しがたい手ですよね。一番近いところに大きく描いているから、ここにありそうだけれど、しかし、そこにあるとは思えない。一体どこにあるのか、問いかけてくる位置の手だと思っています。それに対して、ルブリョフのイコンというのは、これはちょっと性格が違うかもしれませんね。私たちにもっと呼びかけてくれる性格を持っているような感じがあって、そうした二つの、というか二種類のイメージ＝距離を重ねることによって、いっそう重層的なレイヤーができてきているという印象を抱きます。

定印に現れた　アンク・天使・クリオネ

◆母袋　2009年以降は90㎝角の板、それも側面の削り出し（図27）を施した板を支持体として、グレークが描いたイエスの手、阿弥陀如来の定印、ルブリョフの《聖三位一体》をモチーフに描いている（図28）のですが、結論があって描いてきいるわけではなくて、振り返るとこうだったのかな、みたいなことがありますね。

ちょっと話がずれてしまうかもしれないですけれど、例えば画面中央やや下に定印で阿弥陀如来の手が描かれているんですが、ある時からこのクリオネのような奇妙な形（図29）が生まれて来て、今はもっとも大切なものになっているのです。ただそれがいつから始まったのかもあまり気づかないでいたんですけれども、振り返ってみると、この2005年の作品のここに現れているんですね。今は赤で描くことになっているんですけれど、この時には、緑で描かれています。さらに前のこの作品にもここではすごく小さく描かれています。実は、ここにもいるんですよね。どうしてここで何を考えたのかというのはわからないんですけれど……。

でも、これは一体なんだ？　ということを制作しながら考えている時期があって、今はこう位置付けているんですね（図30）。これって、エジプトのファラオが持っている、アンクと呼ばれているもので、どの王も肖像彫刻やレリーフの中でこの鍵みたいなものを握りしめているんですね。アンクと呼ばれるものなんですけれど、アンクというのはそもそもエジプトでは「生きる」という意味で、ヒエログラフでは「生」という文字でもあるの

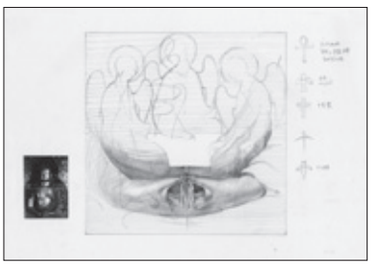


図30　Qfブランドローイング・ドラフト8

です。留学中、古代エジプトをめぐる研修旅行でカイロのコプト博物館に行ったことがありました。コプトとはキリスト教の意ですから、古代エジプト信仰とキリスト教の変遷とその相関がとても興味深かったのですが、そこでアンクの図像的な気づきがあったのです。アンクの形って、ギリシャ正教、ロシア正教、東方教会の正十字とは違う、西洋の縦に伸びた十字架の形に似ていたりもする訳ではないですか。アンクと十字架の間にあるさまざまな図像をみるといろいろなイメージが浮んでくる。アンクの上部を頭部に置き換えると横の棒は手を広げている人のようにも見えてくる、さらに横棒の末端を太くすると天使の羽のようにもなる。アンクの図像的変遷の中で天使のかたちをコプト博物館で発見したんですね。

そして、たまたま定印を描いているときに、手のネガティブの形にこの形が浮かび上がっていたのがきっかけだったんですけれど、この形がアンクや天使の形へと連想を拡げて来たんですね、さらにふわふわと浮遊するクリオネみたいにも見えてくる。そのように〈Qf〉にとって重要なものとして成長してきたのでした。

この展覧会を見た方が「梵字にも似ていますよね」と。サンスクリットの梵字との親和性を指摘してくださったこともありました。

◆金井　ですから、あらかじめ図像学的にコントロールして、画面を埋めていく制作ではないということですね。情報をインプットして、それを順序だててアウトプットとして描くというよりも、今のお話を伺っていると、制作をすすめるなかで輝くものといいますか、関係や要素の出現ないしその徴候を見極めつつ、かたちを導きだしていく。そういったものがまとまって作品の構造が生じ、そして、そこから意味が、言わばアナクロニックに生成していくということだと思います。

ところで、〈TA〉と〈Qf〉との関係ですが、単純化をお許しいただけるならば、〈TA〉の、フレームを置くとか、照準を定めるといった要素を内包するかたちで、〈Qf〉が展開しているという捉え方も可能なのでしょうか。

統合としての〈Qf〉

◆母袋　僕の中での位置付けということでいうと、要するにフォーマートの系列に沿ってすすめて来ているということは、それぞれの系はそれぞれのフォーマート原理を追求していっている、というように思っているんですね。

例えば〈TA〉は横長、バーティカルは縦長なわけですよね。それぞれが自分の道をしっかりいきなさいという話なんですけれども。ところが〈Qf〉の場合はすべての系の統合が〈Qf〉の課題。最終的に僕がしなくてはいけないのは〈Qf〉なのだ！　というか、そのためだけにやっていってもいいんじゃないかとも思っているのです。

〈Qf〉の始まりは2001年からですから、考えてみると20年近くやったことになっちゃうんですけれど、一向にまだ始まったばかりという気持ちがあるんですね。一方、〈TA〉に関しては、もう出来上がったものという感覚がある。新たな刺激的な光景に触れたり、あるいは、一つの会場が設定され制作課題が与えられたら、それに応えるように新作に臨むことはできると思うんですが、でも〈Qf〉は、まだわかっていないこともたくさんあるし、僕が、これから今日のような機会で、何かを得るとか、何かを知るとか、感じることがあったら、そういうものが全部、ここに投影されていく。また図像学／フォーマリズム、形式主義／意味論的アプローチということで言うと両方必要だと思っていて、その立場から〈Qf〉を捉えていくと、図像学とフォーマリズムの統合そして各系列の統合と二重に統合されていくことが課題なのかなという気はしています。時間があとどのくらい残されて

いるのかみたいなこともあるので、その中で僕がどのくらいできるのかなみたいなことだと思うんですけれども。

◆金井　さまざまな経験や方法の総合として、〈Qf〉の制作があるのですね。そのうえで、もう一度、イコン的な、こちら側に来る、溢れる感覚についてお話したいのですが、以前にも触れたように、〈Qf〉を前にすると、絵に見られているような感じがするんですね。ヴィチェンツァでイコンのコレクションを見ていたときに、たくさんの気配が向こうからやってくる気がしたのですが、それに似たような感覚です。ところで、イコンの前に立つとき、もうひとつ感じるのは、独特の時間の流れです。過去の作品を、現在、見ているわけですが、むしろその２つの時制の中間に吊るされているかのような、留まる時間がある。もちろん、イコンの古色や欠損の現前が、この印象を支えている気もするのですが、一方、母袋先生の作品を見ているときにも、瞬時か持続かといった、ある種ジャンル論的な択一とはまったく別の時間の質を感じます。フォーマートが関わるのかもしれませんが、本当に気になるところです。

　ところで、先生ご自身は制作上、そもそも時間との折り合いの付け方というか、あるいは歴史との向き合い方について、どのようなお考えをお持ちですか。

◆母袋　その時間というのを、ここでは歴史みたいなことで言っていくと、先生の専門である美術史、あるいは歴史学というのがあると思うんですけれども、その時に中世というものは、無視してきているところがあると思うのですね。例えば中世というものに関しては、美術史はつまびらかにされてはいなくて、そこを暗黒時代・中世と呼んで、そこには人間がいないのです。ギリシャが求めた人間がいなくて、信仰にがんじがらめにされて自由も文芸もない。だから暗黒時代と呼ぶ。確かにイコンというものは教義に近い様式があって、それに沿って坦々と作っていく。そこには個人とかの表現、あるいは表現の生々しさだとか、更新していくダイナミズムとかはないんだと思うんですね。だから変化こそに価値を見出そうとする歴史観からすると中世は無視されていくのでしょうが、見落としてきたものもあるのではないだろうと思うのですね。

　そこからやり直すことができるのではないかなということが僕の中には強くあるんですね。先ほどのアナクロニズムの話面白いなと思って聞きました。文脈によって歴史が形成されるのだとすれば「モネの影響をゴヤが受けている」という逆説。

◆金井　そうなりますね。

◆母袋　歴史が様式の変遷ということでいうと、イコンは固定された様式であり語るべきものがない。時間の流れに沿ってかたちが変遷していく、しかもそれは上方に向かうとする進歩主義的で線的な歴史観からイコンを捉え、イコンを様式の変化の中に見出そうとするのではなく、僕はむしろイコンが頑なに守ろうとした様式、ことに眼差しの構造を考えた時に、何か違うものの気づきがある可能性があるのではないだろうかと思っているんですね。

◆金井　興味深いのは、欧州の東と西の接点のヴェネツィアで、イコンといわゆるペインタリーなヴェネツィア絵画が共存・両立していたという事実です。様式的にはまったく異なるものの、両者ともに、透明ではなく、いわば薄い振動面としての絵画を志向していたのではないか、という気がします。ヴェネツィア絵画の反古典性は、プロトモダニズムとみなされがちですが、そうした標準的な美術史の語りを止めてみれば、ヴェネツィアの聖堂内で、イコンの横にティツィアーノが並ぶことの意味や魅力もまた明かです。

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987〜2018　M1−M600

とはいえ、多くのイコンの場合、作者名が失われています。制作時期もなかなか特定しがたいものです。したがって、作家主義的な美術史にのりにくかったというところがあるし、発展史観にも、様式史にも収まらなかった。展開は読みがたく、むしろシークエンスのところどころで、ひとつひとつのイコンが、シグナルを発するようなものです。その明滅を感受することを、いま、大切にしたいと思います。

また、そうしたイコンの経験と、母袋さんの作品の経験の共通性についても再認識しておきたいところです。そこにこそ、母袋作品とポストモダン的な作家たちのおこなった操作との根本的な相違が認められるはずです。美術史上のモチーフや様式の単なる引用ではないのです。近代の手前か、後か、といったモードの問題とは相容れない、絵画そのものへの問いかけがあります。そのことが、母袋さんのこれまでの制作のシークエンスからも読み取られるはずです。

像の現出する場、絵画の位置

◆母袋　僕はイコンあるいは絵、像というものがどこに現れて、どこに向けられているのか？　ということに関心があるのです。先ほども眼差しの構造の話がでましたが、視覚の双方向性にかかわる事なのです。

これは《現出の場》という構想ドローイング（図31）です。ロシアイコンの場合は、教会内にイコノスタシスと呼ばれる複数のイコンが掲げられた壁が設けられていて、その壁によって聖なる空間とこちらの空間が隔てられているのです。教会に入って来た信者たち

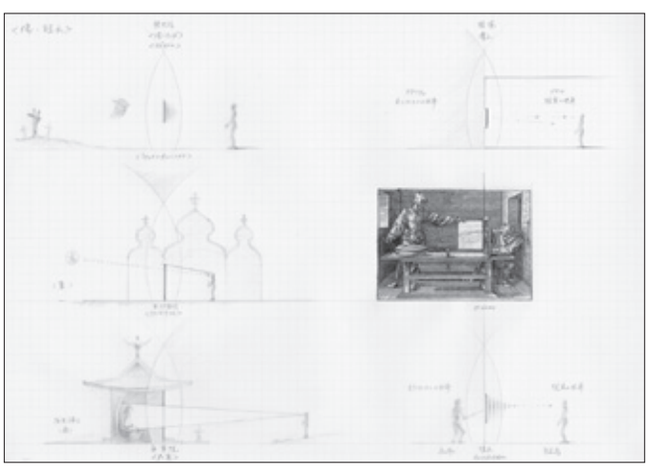


図31　現出の場 ドローイング 8

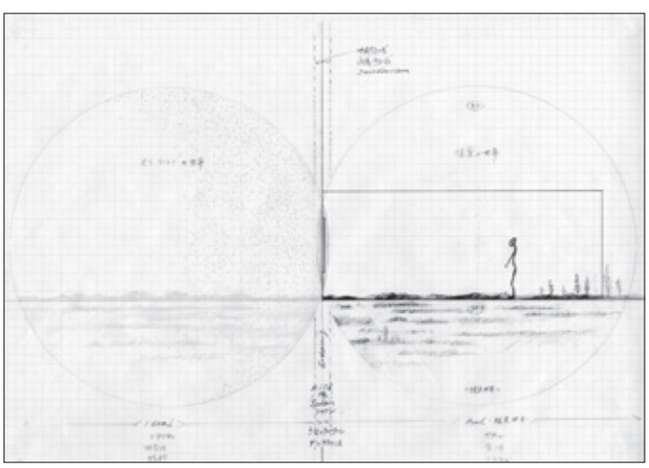
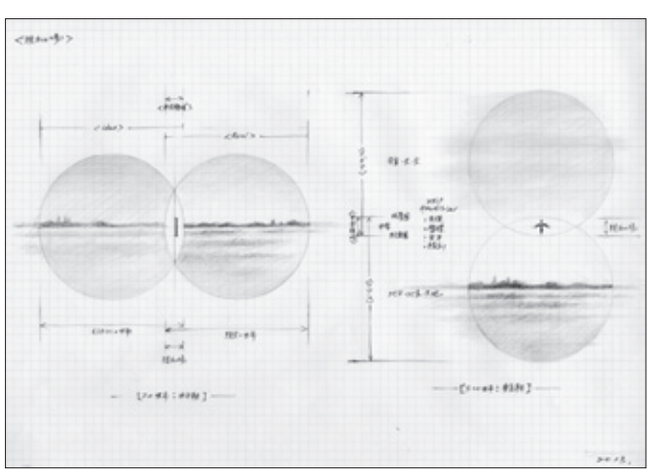
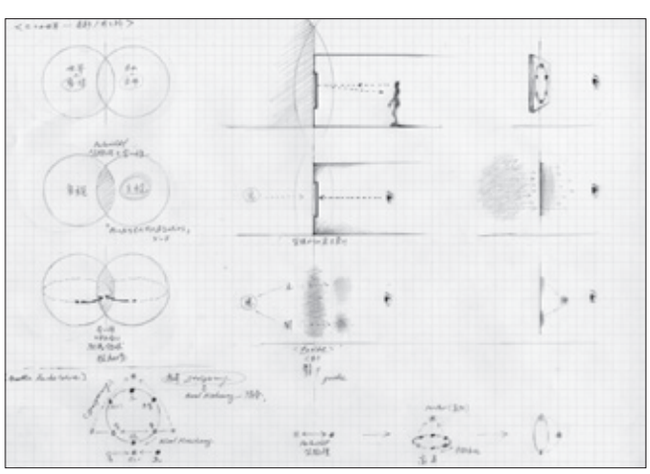


図32　現出の場 ドローイング 7



現出の場 ドローイング 1



現出の場 ドローイング 2

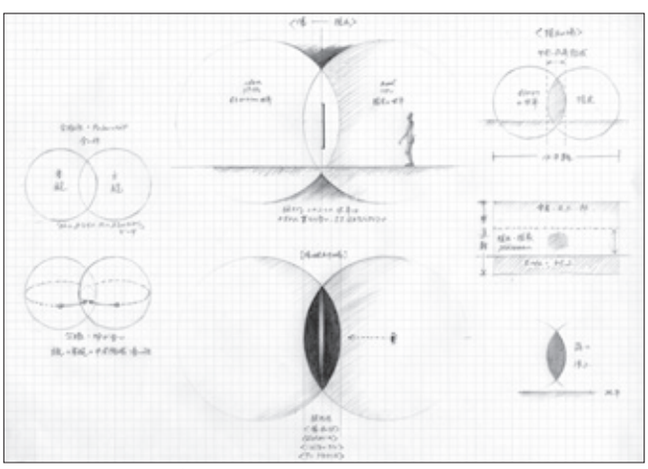
は、聖なる方向に向かってイコンを見ることになります。と同時に複数のイコンに描かれた聖人たちの眼差しはその信者に注がれ聖人に見守られるかのようになるのです。ロシア教会では、聖なる方位は東となっています。

一方、仏教では西方浄土なので、西側に極楽がある。こちらは平等院鳳凰堂、阿弥陀如来像。我々はその池の前に立ち、池の向こう西側に向い平等院を見る。阿弥陀如来像は鳳凰堂のお堂の中あるのですが、丸窓が我々に向けてきられていて、その阿弥陀如来は、丸窓の面上に画像として現れ、人々と対面する形になるのです。

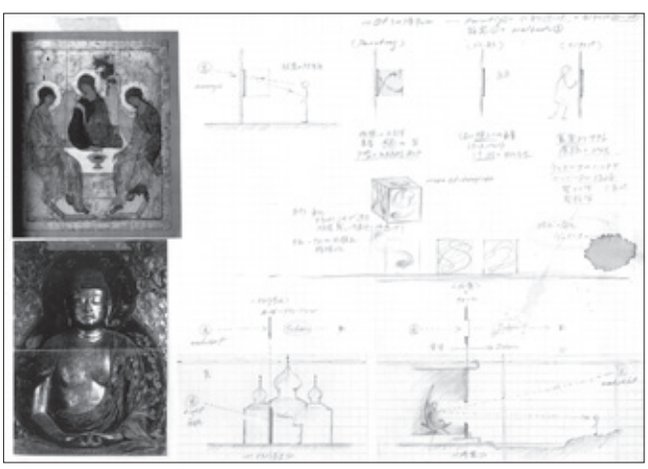
またこれは、ヴェロニカのハンカチです。イエスはゴルゴダの丘で処刑されましたけど、その道ゆきベロニカは顔をぬぐうためイエスにハンカチを渡したんだけど、そのハンカチにキリストの画像が現れていたという話です。イエスの顔が版画のように映し出されている、刻印された。ドローイングではハンカチが、我々の前にあって、その後ろにイエスの顔があって、ここで、圧で押されたものがここに写っているんですよ、ということですかね。

僕にとって関心があるのは、もちろん絵そのものについてでもありますが、絵の位置というか、絵がどういう風に現れていくとか、そしてその絵はどっちを向いているのか?でもあるのです。これらは信仰に基づいているので、背後に信仰の世界があって現世の方に出てくる……。その構造は絵画の本質と深く連関していると思えてならないのです。

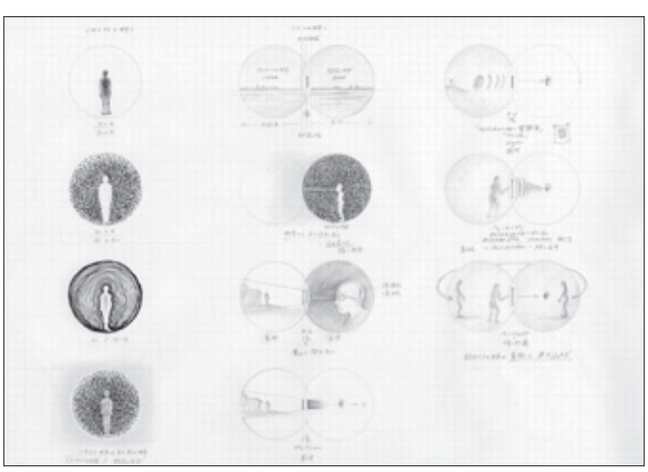
このふたつの円のふたつの世界はプラトンの二つの世界みたいなことが前提となっているんですけれども、その二つの世界は接続をしている訳ではなく、実は少し重なり合っている。この現実の世界ともう一つの世界の重なり合った両義の場に、像というものが現れるのではないか（図32）。そのスペースは狭いので、絵画のような薄いものは、極めて有効なのですよと。実体であり虚像でもある絵画はすごく重要なんです。



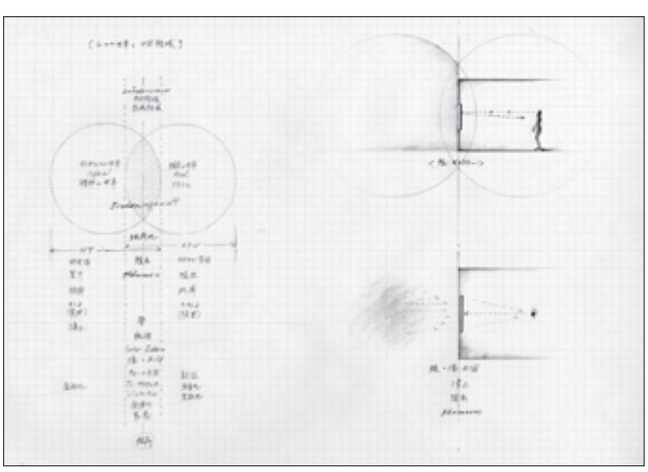
現出の場 ドローイング3



現出の場 ドローイング4



現出の場 ドローイング5



現出の場 ドローイング7

母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600

◆金井　今おっしゃった薄さに関連して、いつもお話していることの繰り返しになりますけれど、クアトロチェントの遠近法絵画がおもしろい例になると思います。それらはプロスペッティーヴァ、つまり、まさしく透視に支えられた図法ですから、作品を前にするとき、イリュージョンとして立ち上げられた透明な奥行き空間を我々の眼が見通すはずなのですが、いざじっさいの展示空間、とりわけオリジナルの展示環境で絵画のまえに立つと、たとえば、マザッチョの《聖三位一体》も、ぐっと手前にやってくる。教科書的な理屈では、奥へ奥へと、眼差しは誘われるはずなのですが、そうはいかない。特に斜めにみた瞬間、画面が泡立つというか、こちらに膨らむ皮膜のように見えてくる。あの感覚、やはり絵画はこちらに来るのだという実感。それはもう否定のしようがありません。また、聖顔布について付け加えるならば、それらの何がすごいかというと、一種の霊験というか、「効能」ですね。それらには不思議な力が宿っていて、その力を浴びることによって人は治癒されるという伝承です。要するに、イメージがこっち側に来るんです。効果、効能というかたちでも。それと同じようなことを、マザッチョの〈ペテロ伝〉にも認めることができます。〈ペテロ伝〉は透視図法絵画の見本のような作品で、かつ合理的な影を画中に導入するもので、つまり消失点と光源という２点に支えられたイリュージョンを立ち上げるわけですが、問題は、その影です。〈ペテロ伝〉のなかみをよく見ると、聖ペテロの影を浴びて、病が癒える奇跡なども描かれているのですね。影ですから放射というよりも投影なのですが、ともかくこちらに来るものによって癒されるという感覚がとても興味深い。規範のなかにあるはずのルネサンス絵画のまさに中心でも、こちらにやってくる力が示唆されているのです。影さえやってくる。いわんやイメージをや、ということです。

◆母袋　それは絵画の空間性の問題なのでしょうし、同時に絵画と眼差しの関係ですね。絵画の訴求力、それはまた絵画の起源にも深くかかわるのでしょうが、絵画が救済にむけられていたこと。そのことを僕は繰り返し繰り返し言い聞かせ制作をしてきた。というか繋いできたという実感があるのです。

再び先ほどのドローイングに沿って話せば、右上段と下段、ここに絵があるとすれば、人が絵を見ているのですが、絵が人に働きかけていることでもあるわけじゃないですか。正にイコンと人との関係のようなものですね。それに対してミニマルアートの場合などは、絵と人が１対１の対等な関わりをもつ、それ以上でも以下でもないということなのだと思うのですね。今先生が、おっしゃったような、そういうエネルギーみたいなものがあればいいですよね。だから、先ほどのマサッチオの話、ヴェロニカの話やマンデリオン伝説の場合、奇跡を起こす。布によって、本当に治癒する。本当かどうかはわからないけれど、そういうものも絵の力みたいだという風に、僕は思っているのです。ですから、絵の表面からこちらにくるエネルギーというか、そういうものが、絵そのものだと思っているんですね。

一方、中段これはデューラーの《測定術教本》（図31）ですけれど、徹底的に対象を客観的に見ていくという立場です。それは今も大切だとは思います。
ですが、むしろ僕はイコンのように背後からの力をこちらに発信してくる力を復権したいという思いがあるのです。

ただ、先ほどの大きさは、確かに力になるんだが、一体それが何のためにどこに向けられているのか、ということを丁寧に見ていかなくてはならない、みたいなことで言うと、例えば、イコンのこちらに向かう見守る視線の構造自体も、革命前のロシア帝政時代においては人々を監視する機能でもあっただろうことを想像することも、また容易です。そういうことが自戒をしながら制作をすすめなければ、ということも思っているところでもあるのです。

今日は有難うございました。

9．略歴

母袋俊也

1954　長野県生まれ
1978　東京造形大学美術学科絵画専攻卒業
1983　フランクフルト美術大学／シュテーデルシューレ　R・ヨヒムス教授に学ぶ。（～'87帰国）
1986～ 複数パネル絵画様式の展開
1988～ 立川にアトリエを定め、制作を始める。戸外でのスケッチの再開
1992　論文「絵画における信仰性とフォーマート－偶数性と奇数性をめぐって－」執筆
1995　アトリエを立川から藤野に移す。偶数パネル作品をTA系と命名する。
1996　奇数パネルでの制作
1999～ 野外作品「絵画のための見晴らし小屋」制作
2000～ 東京造形大学教授
2001～ Qf（正方形フォーマート）系の展開
2013～「Himmel Bid」シリーズの開始

9－1　展覧会

■個展

1979　真和画廊／東京（p.）
1980　真和画廊／東京（p.）
1981　シロタ画廊／東京（p.）
1984　ギャラリーヴィレムス／フランクフルト（d.）
1985　シュテーデルシューレ／フランクフルト（d.）
　　ギャラリーヴィーゼンマイヤー／ヴァイルブルク（d.）
1987　ボン文化センター／ボン（p.w.）
　　ギャラリープルマン／フランクフルト（p.w.）
　　JALギャラリー／フランクフルト（p.w.）
1990「母袋俊也　絵画・水彩」ストライプハウス美術館／東京（p.w.）
1991「オマージュ 1906　水彩」aptギャラリー／東京（w.）
　　「平面・余白・モダニズム」ギャラリー αM／東京（p.）
1992「from Figure」aptギャラリー／東京（w.）
　　「素描1001葉のf・zより」ギャラリー TAGA／東京（d.）
　　「リトグラフ－Le Ballet」ギャラリー福山／東京（l.）
1993「paper-foldscreen－開かれる翼－」ギャラリエアンドウ／東京（w.）
　　「Koiga-Kubo」ギャラリーなつか／東京（p.）
1994「from Figure」ギャラリー TAGA／東京（p.）
　　「from Plant」aptギャラリー／東京（p.）
　　ギャラリエアンドウ／東京（p.d.w.）
1995「Hossawa」ギャラリーなつか／東京（p.）
　　「Waage・TA」かわさきIBM市民文化ギャラリー／神奈川（p.）
1996「Wien」ギャラリー TAGA／東京（p.）
　　「Stephan Ⅱ」ギャラリエアンドウ／東京（p.）
　　「TAAT－NA・KA・OH」ギャラリーなつか／東京（p.）
1997「母袋俊也　TAaT」ガレリアラセン／東京（p.）
　　「母袋俊也　TA^{a}／ NakaOh」ギャラリール・デコ／東京（p.）
　　「母袋俊也　Printworks」ギャラリエアンドウ／東京（l.mt.）
　　「母袋俊也　TAaT」ギャラリー You／京都（p.）
1998「母袋俊也　NA・KA・OHⅡ」ギャラリー TAGA／東京（p.）
　　「MOTAI Gemälde・papiearbeiten」ライン・ルーア・クンストアカデミー／エッセン（p.w.mt.）
1999「母袋俊也　ta・KK・ei－TA・ENTJI」ギャラリーなつか／東京（p.d.）
　　「母袋俊也　ドローイングインスタレーション　ta・KK・ei」ギャラリエアンドウ／東京（d.）
2000「母袋俊也　ARTH・UR・S・SE・ATAR」ギャラリー TAGA／東京（p.）」
　　「母袋俊也　Project 絵画のための見晴らし小屋」ギャラリー毛利／東京（d.p.s.）
2001「母袋俊也　TA・MA UNOU HI」エキジビション・スペース／東京（p.）
　　「母袋俊也　mag/fujino」ギャラリーなつか／東京（p.）
　　「母袋俊也　Quadrat/full」ギャラリエアンドウ／東京（p.）
2003「母袋俊也　TA・SHOH－Qf・SHOH《掌》」ギャラリーなつか／東京（p.）
2004「母袋俊也　絵画－見晴らし小屋　TSUMAALI」アートフロントギャラリー／東京（p.pc.）
2005「母袋俊也　Qf・SHOH150《掌》」ギャラリーなつか／東京（p.w.）
　　「母袋俊也《Qf》その源泉」エキジビション・スペース／東京（p.w.mt.d.）
2006「風景・窓・絵画 アーティストの視点から：母袋俊也の試み」埼玉県立近代美術館（常設展特別展示）（p.pc.）
2007「母袋俊也　TA・KOHJINYAMA」ギャラリーなつか／東京（p.d.）
　　「母袋俊也　〈絵画のための見晴らし小屋〉水平性の絵画〈TA〉の流れ」辰野美術館／長野（p.w.pc.）
2008「母袋俊也　窓－像 KY OB AS HI」INAXギャラリー／東京（p. pc.）

2009 「母袋俊也　Qf-SHOH《掌》90・Holz/145」ギャラリーなつか／東京（p.d.w.）
2010 「母袋俊也　TA・TARO」夢の庭画廊／長野（p.）
2011 「母袋俊也Qf・SHOH《掌》90・Holz　現出の場－浮かぶ像－膜状性」ギャラリーなつか／東京（p.d.w.d.）
2012－2013 「コレクション×フォーマートの画. 家母袋俊也　世界の切り取り方－縦長か横長か、それが問題だ」
青梅市立美術館（p.pc.）
2014 「母袋俊也　Qf SHOH《掌》90・Holz　2009－2014」ギャラリーなつか／東京（p.d.w.）
「母袋俊也 Himmel Bild」ギャラリー TAGA／東京（p.）
「母袋俊也　絵画《TA・KO MO RO》―《仮構・絵画のための見晴らし小屋KOMORO》」市立小諸高原美術館/長野（p.pc. d.w.）
2015 「母袋俊也「空の絵」《ヤコブの梯子・藤野》《Himmel Bild》」BC工房ふじのリビングアート／神奈川（p.pc.）
2016 「母袋俊也　Printworks　ポートフォリオ《現出の場》モノタイプ　《mt 21「もう一つの世界」に回り込んで》」ギャラリー
TAGA/（東京 mt.ij.）
「Toshiya Motai Painting Paper Works」Galerie E' terna／パリ（p.mt.）
2017 「母袋俊也展　絵画のための見晴らし小屋－小装置とドキュメント」Cross View Arts／東京（p.d.w.pc.）
「母袋俊也　Koiga-Kubo 1993/2017　そして〈Qf〉」奈義町現代美術館／岡山（p.pc.ij）
2018 「母袋俊也　〈Qf〉源泉と照射」ギャラリーなつか／東京（p.d.w.）
「母袋俊也　〈バーティカル〉」ギャラリー TAGA2 東京（p.mt.）

p：painting
d：drawing
w：water color
l：lithograph
s：slide
pc：prospect cottage
mt：monotype
ij：inkjet

■グループ展

1997 「'97大邸アジア美術展」大邸文化芸術会館／韓国
1998 「セレクト展」ガレリアラセン
「神奈川アートアニュアル」神奈川県民ホールギャラリー／横浜
「川村龍俊コレクション展」東京純心女子大学純心ギャラリー／東京
1999 「第２回Fujino国際アートシンポジウム '99」藤野／神奈川
「SSA・アニュアル展」ロイヤルスコティッシュアカデミー／エジンバラ・スコットランド
「Artisits+Itazu Litho-Grafik展」文房堂ギャラリー／東京
2000 「トルコ支援　こころのパン」芸術の家／デルメンデレ／トルコ
2002 「East act East」ギャラリーシエスタ／東京
「トルコ　こころのパン」イズミット市立美術館他５都市巡回／トルコ
「Water-Sensation」ギャラリー GAN・f／東京
「菜の花里美発見展」千葉市
2003 「中川久・母袋俊也」かわさきIBM市民文化ギャラリー
「第２回大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2003」新潟
「代官山アートフェア」ヒルサイドフォーラム／東京
2005 「郷土ゆかりの作家たちⅡ」新見市美術館／岡山
2006 「第３回大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2006」新潟
「〈絵画〉は〈絵画〉を超えて」ギャラリーなつか／東京
2007 「Fuse／Fureru」東京造形大学美術館／東京、京都造形大学　ギャラリーオーブ／京都
「アートプログラム青梅2007－出会いのよりしろ」吉川英治記念館・青梅／東京
2008 「Havest　原健と160人の仕事」銀座東和ギャラリー／東京・東京造形大学ZOKEIギャラリー／東京
「Fuse／Fureru」SESNON ART GALLERY at USSC／UCサンタクルーズ、USA
「アートプログラム青梅2008　空気遠近法　U・39」
「ワークショップ報告展　風景／画　うまれるとき」青梅市立美術館／東京
「ポリフォニー　Bild／画　うまれるとき」吉川英治記念館／東京
「板津版画工房と作家たち」調布文化会館／東京
2009 「第４回大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2009」新潟
「アートプログラム青梅2009　空間の身振り」BOX KI-O-KU（旧都立繊維試験場）／東京
2010 「アートプログラム青梅2010　循環の体」青梅市立美術館／東京
「SO＋ZO　未来をひらく造形の過去と現在1906s→」Bunkamuraザ・ミュージアム／東京・桑沢デザイン研究所1F／東京
2011 「アートプログラム青梅 2011　山川の間で」青梅市立美術館／東京
2012 「新生2012　Vol.1」ギャラリーなつか／東京
「風・景・観　見逃した世界・ここにある世界」アートラボはしもと／東京
「第5回大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2012」新潟
「アートプログラム青梅2012　存在を超えて」青梅市立美術館／東京
「福島現代美術ビエンナーレ2012　SORA」福島空港／福島
2013 「色彩の力」ギャラリエアンドウ／東京
「アートプログラム青梅2013　雲をつかむ作品たち」サクラファクトリー／東京
2014 「見る事・描くこと―油画技法材料研究室とその周縁の作家たち」東京藝術大学大学美術館、陳列館／東京
「福島現代美術ビエンナーレ2014」喜多方市美術館、湯川村道の駅／福島

「アートプログラム青梅2014　まなざしを織る」青梅市立美術館／東京
2015 「第６回大地の芸術祭　越後妻有アートトリエンナーレ2015」新潟
「アートプログラム青梅2015　感性を開く－一人ができること」青梅総合高校／東京
2016 「美作三湯芸術温度」湯郷／岡山

9－2　自筆文献

■著書

2017 『絵画のための見晴らし小屋　母袋俊也作品集vol.1』BLUE ART
『成田克彦 「もの派」の残り火と絵画への希求』（共著）東京造形大学現代造形創造センター
『ＣＳＰ記録集2013－2015』（共著）東京造形大学現代造形創造センター
2018 『母袋俊也　絵画　母袋俊也作品集vol.2』BLUE ART
2019 『絵画へ　美術論集1990－2018』論創社

■共著

2017 『成田克彦 「もの派」の残り火と絵画への希求』（共著）東京造形大学現代造形創造センター
2017 『ＣＳＰ記録集2013－2015」』（共著）東京造形大学現代造形創造センター

■論文

1992 「絵画における信仰性とフォーマート」東京造形大学雑誌A7（p.71～93）
1996 「試論・成田克彦」造形学研究14 「成田克彦研究」（p.41～51）
2005 「実作者による色彩試論－絵画の内側からみたゲーテ色彩論」モルフォルギア27号　ゲーテと自然科学（p.37～65）
2014 「《像》の芸術としての絵画とゲーテ色彩論」『モルフォロギア』36号　ゲーテと自然科学（p.47～74）
2017 「続編　詩論－成田克彦」『成田克彦 「もの派」の残り火と絵画への希求』（p.171～177）

■研究論文

1990 「母袋俊也　Hommage 1906」『東京造形大学雑誌』6B（p.65～74）
1994 「母袋俊也　Painting 1989－1993」『東京造形大学雑誌』8B（p.37～48）
1996 「母袋俊也　Painting 1993－1995」『東京造形大学雑誌』9B（p.39～48）
1998 「母袋俊也　Painting 1996－1997」『東京造形大学雑誌』10B（p.35～44）
2000 「母袋俊也　絵画　フォーマートPainting 1989－1999」『東京造形大学研究報』１？（p.35～68）
2005 「母袋俊也　絵画のための見晴らし小屋 1999－2004」『東京造形大学研究報』6（p.65～97）
2007 「風景・窓・絵画－アーティストの視点から：母袋俊也の試み」『東京造形大学研究報』8（p.17～71）
2011 「母袋俊也「絵画　マトリックス　1987－2010　M1-M431」『東京造形大学研究報』12（p.89～180）
2014 母袋俊也　記録「コレクション×フォーマートの画家母袋俊也　世界の切り取り方－縦長か横長かそれが問題だ」
『東京造形大学研究報』15（p.44～109）
2016 「母袋俊也　絵画《TA・KO MO RO》《仮構・絵画のための見晴らし小屋KOMORO》 ―仮想の見晴らし小屋から浅間を切り取る―」『東京造形大学研究報』17（p.5～59）
2017 「母袋俊也　絵画のための見晴らし小屋　1999～2016」『東京造形大学研究報』18（p.25～54 ）
2018 「母袋俊也　著述集〈絵画へ〉1990－2017」『東京造形大学研究報別冊』13（200頁）

■書評

1998 「シュタイナーの色彩理論における実践と今日性」（書評）
（E・コッホ『色彩のファンタジー－R・シュタイナーの芸術論に基づく絵画実践』松浦賢訳・イザラ書房『モルフォロギア』20号　ゲーテと自然科学（p.120～121）
2003 「絵画史への旅－ゲーテの「イタリア紀行を携えて」－（書評）（「ゲーテと歩くイタリア美術紀行」高木昌史編訳・青土社）
『モルフォルギア』25号　ゲーテと自然科学（p.158～159）
2009 「生を喚起するモルフェーの照射『かたちの詩学　1・2』」－（書評）（「かたちの詩学　1・2」向井周太郎著・中公文庫）
『モルフォルギア』31号　ゲーテと自然科学（p.195～197）
2013 「クレーの造形宇宙をとおして現前する『色彩のオーバーラップ』」－（書評）
（「パウル・クレー　造形の宇宙」前田富士男著、慶応義塾大学出版社）
『モルフォロギア』35号　ゲーテと自然科学（p.130～133）

■カタログ・リーフレット

1990 「TOSHIYA MOTAI Painting・Watercolor」ストライプハウス美術館
1991 「母袋俊也展　平面･余白･モダニズム」ギャラリー αM
1992 「母袋俊也　素描－1001葉のｆ・ｚより－」ギャラリーTAGA
1993 「母袋俊也　Painting “Koiga－Kubo”」ギャラリーなつか
1994 「母袋俊也　Painting “from figure”」ギャラリーTAGA
1995 「母袋俊也　Painting “Hosswa”」ギャラリーなつか
「“Bruecken Schlag” Milasinnovic Hegedes Blum Motai」MEHLER AG/フランクフルト
1995 「母袋俊也展　Waage・TA」かわさきIBM市民文化ギャラリー

1996 「母袋俊也　Painting “Wien”」ギャラリー TAGA
1996 「母袋俊也　“TAAT－NA・KA・OH”」ギャラリーなつか
1998 「母袋俊也　Painting “NA・KA・OH Ⅱ”」ギャラリー TAGA
1999 「母袋俊也　“ta・KK・ei-－TA・ENTJI”」ギャラリーなつか
2000 「母袋俊也　Painting “AR・THUR・S・SE・ATAR”」ギャラリー TAGA
「母袋俊也　PROJECT 絵画のための見晴らし小屋」ギャラリー毛利
2001 「母袋俊也　magino fujino」ギャラリーなつか
「母袋俊也　TA・MA UNOU HI」エキジビション・スペース/東京
2003 「母袋俊也　TA・SHOH-Qf・SHOH《掌》」ギャラリーなつか
「中川久・母袋俊也展」かわさきIBM市民文化ギャラリー /神奈川
2005 「母袋俊也　Qf・SHOH 150《掌》」ギャラリーなつか/東京
「母袋俊也　《Qf》その源泉」エキジビション・スペース/東京
2007 「母袋俊也　TA・KOHJINYAMA」ギャラリーなつか/東京
「母袋俊也　〈絵画のための見晴らし小屋〉水平性の絵画〈TA〉の流れ」辰野美術館/長野
2008 「母袋俊也　窓-像 KY OB AS HI」INAXギャラリー /東京
2009 「母袋俊也　Qf-SHOH《掌》90・Holz /145」ギャラリーなつか/東京
2012 「母袋俊也　壁画プロジェクト　KAZE －流風－」ＳＥＥＤ ＰＬＡＮＮＩＮＧ
2013 「母袋俊也　《浮かぶ像・現出の場》2013」 SAKURA FACTORY
2014 「母袋俊也　絵画《TA・KO MO RO》―《仮構・絵画のための見晴らし小屋KOMORO》」市立小諸高原美術館/長野
2016 「Toshiya Motai Painting Paper Works」Galerie E’ terna パリ
2017 「母袋俊也　《Koiga-Kubo》1993/2017 そして〈Qf〉」奈義町現代美術館/岡山

■記録冊子
2016 「Mポリフォニー 2015　関連企画 記録集」東京造形大学 母袋ゼミ×信州大学人文学部　金井ゼミ
2017 「対談　版もうひとつの世界をめぐって」本江邦夫×母袋俊也　ギャラリー TAGA 2

9－3　レクチャー・シンポジウム

■レクチャー・講演
1985 「Concerning the replacement of Geometric Circle in Painting」独日協会　フランクフルト美術大学
1991 「アーティストトーク　平面・余白・モダニズム」ギャラリー αM
1995 「絵画における精神性とフォーマート　偶数性と奇数性をめぐって」ウイーン芸術アカデミー /オーストリー
1996 「絵画における精神性とフォーマート」ゲーテ自然科学の集い　慶應義塾大学
1997 「透明水彩のアイデンティティ」練馬区立美術館
「母袋俊也　今昔物語　1997」東京造形大学
1998 「絵画を通してみる日本とヨーロッパ」上小美術会 上田市教育委員会　上田創造館
「絵画における精神性とフォーマート　自作に沿って」愛知県立芸術大学
1999 「絵画における精神性とフォーマート　日本／ヨーロッパ」エジンバラ美術大学/英国
「母袋俊也　今昔物語　1999」東京造形大学
2000 「風景素描と着彩」郡山市立美術館
「情報学B　表現者（発信者）としての情報」東京造形大学
「プロジェクト〈絵画のための見晴らし小屋〉をめぐって」彫刻専攻有志企画　東京造形大学
「メディウムとしての画家そして絵画」東京工芸大学大学院
2001 「総合講座　芸術と色彩　絵画―体験的色彩試論」東京造形大学
2002 「フレーミングからの絵画制作」神奈川県立藤野芸術の家
「絵画　フォーマート　～見晴らし小屋bei Atlier」東京工芸大学
2004 「絵画における精神性とフォーマート　自作に沿って　～絵画のための見晴らし小屋・妻有」愛知県立芸術大学
「フォーマート―絵画　表現者という立場」マツモトアートセンター
2006 「絵画のための見晴らし小屋―　子供のための鑑賞プログラム」辰野美術館
「芸術と諸科学　自作に沿って　～《Qf・SHOH 150〈掌〉」愛知県立芸術大学
「風景・窓・絵画－アーティストの視点から:母袋俊也の試み」埼玉県立近代美術館
「スペシャルギャラリートーク　A・ジャコメッティ　絵画の立場から」川村記念美術館
2007 「アーティストトーク　画家である私のテーマ〈フォーマートと精神性〉」辰野美術館
「講演　絵画における精神性とフォーマート　自作に沿って」京都嵯峨芸術大学
「自然と芸術　実作者がみる風景その近代性」静岡県立美術館
「自然と芸術　風景－視線の双方向性－絵画」静岡県立美術館
2008 「総合講座　自作を通して考察するアジア的なるもの」東京造形大学
2009 「絵画における精神性とフォーマート　モデルネ　日本／中国」復旦大学 上海視覚芸術学院/中国
2010 「現代アートの中での〈風景〉－フレームで切り取る」神奈川県立藤野芸術の家
2011 「芸術でリフレッシュ　表現、自分を見つめ、外へ出していく」等々力小学校
「制作者がみるクレー　そのアーカイブせいから浮ぶ現出性」東京造形大学
「絵画における精神性とフォーマート　～ M436　3月11日を受けて考える絵画の位置」信州大学人文学部
「絵を描いていく人生　～M432」マツモトアートセンター
2012 「絵を描いていく人生」福島西高等学校
「総合講座　旅と思想　絵描きの立場から場と時間を考える」東京造形大学
「風景　絵画」松本市美術館

「アーティストトーク　世界の切り取り方　縦長か横長かそれが問題だ」青梅市立美術館
2013 「原理的再考〈サイトスペシフィック／ホワイトキューブ〉」東京造形大学大学院
「絵画・現出の場－2011年3月11日を受けて」マツモトアートセンター
「絵画における精神性とフォーマート―色彩・絵画が現れる場」ゲーテ自然科学の集い　立命大学
2014 「青春の造形　母袋俊也インタヴュー　前田朗」東京造形大学
2015 「絵を描いていく人生　－絵画の位置」マツモトアートセンター
2016 「芸術論講義　母袋俊也　絵画　近作から」信州大学人文学部
「戦後日本の造形芸術（絵画）－自作に沿って」東京造形大学大学院博士課程
2017 「制作の現場　母袋俊也《Koiga-Kubo》1993/2017　そして〈Qf〉展に沿って」マツモトアートセンター
「戦後日本の造形芸術（絵画）－青春の造形から」東京造形大学大学院博士課程
2018 「ギャラリートーク　〈Qf〉系そして書籍『母袋俊也　絵画』ギャラリーなつか
「ギャラリートーク　〈バーティカル〉そして書籍『母袋俊也　絵画』ギャラリーＴＡＧＡ２
「絵を描いていく人生－絵画における精神性とフォーマート」マツモトアートセンター
「講演　絵画における精神性とフォーマート」形の文化会　東京造形大学 原宿サテライトオフィス

■シンポジウム

2002 「絵画 Vol 2　絵画は死なない」鈴木省三、辰野登恵子、母袋俊也、吉田暁子、O JUN,
本江邦夫（司会）東京現代美術画廊会議　京橋プラザ区民館
2007 都市化する中の役割－青梅」柏木博、三田晴夫、母袋俊也、原田丕、大橋紀生（司会）。アートプログラム青梅2007
青梅織物工業協同組合2階
2010 「共生の時代、桑沢＋造形とその未来形を語る」SO＋ZO展「未来をひらく造形の過去と現在　1960→」
矢萩喜從郎、母袋俊也、舟越桂、諏訪敦彦、山村浩二、吉岡徳仁、新見隆（司会）桑沢デザイン研究所
「アートの社会性―絵画の主題、彫刻のモニュメント」岡本信治郎、母袋俊也、山口啓介、戸谷成雄、水上嘉久、上村卓大、
大橋紀生（司会）　アートプログラム青梅2010　青梅市立美術館
2012 「ＳＯＲＡ　福島現代美術ビエンナーレ2012」河口龍夫、國府理、長澤伸穂、ヤノベケンジ他　渡邊晃一（司会）
福島現代美術ビエンナーレ2012　福島空港ビル
2015 「成田克彦が伝えたかったこと―制作と教育の現場で」三枝聡、永瀬恭一、母袋俊也、山本直樹、菅章（司会）
「成田克彦　1973－1992　－実験の続き」展シンポジウム　東京造形大学
「感性を開く―　一人ができること」本江邦夫、関直美、中田有華、鋤柄大気、母袋俊也、大橋紀生（司会）
アートプログラム青梅2015　青梅織物工業協同組合2階
2016 「美術／芸術／アートの形成―美術大学の役割」粟田大輔、内田あぐり、金井直、小泉俊己、清水哲朗、保井智貴、
母袋俊也（司会）　ZOKEI NEXT50　アーツ千代田3331

097
母袋俊也　絵画　マトリックス
1987～2018　M1－M600